

へハ未納税ニ係ル國ノ先取權ヲ定ムル規則等ノ定ムル所ニ屬ス(獨逸倒産法第三十九條)其商法ニ屬スルモノヲ舉クレハ質主權留置權船舶債主ノ權等ニ係ル本法ノ規則等是レナリ又同一ノ物品ヲ以テ債主ニ辨償スヘキ其順序ニ至テモ右ト同シク獨逸倒産法第五十四條ヲ以テ試ミタルカ如ク百場合ニ涉リテ此ニ定ムル能ハス倒産法ノ任トスル所ハ右ノ權利施行上ニ於ケル倒産ノ効驗ヲ示スニ在リ是レ本卷ヲ直ニ前卷ノ次ニ置キ多少前卷ノ續編ト爲ス所以ナリ

本條ハ抵當債主即チ證文債主(キログラフアール)ナルモノニ於ケル如ク獨リ負債者ノ財産ニ就テ一般ニ要求ヲ有スルニ止マラス其財産中ノ某物品ニ就テ特別ノ先取權ヲ有シ爲メニ證文債主ト別異シテ辨償ヲ受ル者ニ就テ論スル所ニシテ此權利ハ質主權書入質主ノ性質ヨリ自然ニ生シ必スシモ倒産ノ効驗ノ致ス所ニ非ラス然レモ本案ハ他國

ノ法律ト同シク抵當債主ニ併セテ別取權ヲ與ヘタリ是ニ於テ抵當債主ハ特別ノ抵當品ヲ倒産品中ヨリ別異シ之レヲ以テ其辨償ヲ受ルル恰モ倒産ノ生セサルトキノ如シ是レ既ニ第千四十條ニ其端ヲ示シタル所ニシテ此ノ如キ債主ハ特別ノ差押權ヲ保存シ他ノ債主ニ辨償スルコトニ係ル處分ノ外ニ在テ此權利ヲ倒産品管理人ニ對シテ施用スルヲ得ヘキナリ(獨逸倒産法第三條及第三十九條乃至第四十二條佛國商法第五百四十六條第五百七十一條)ブラツール(第五册第百三十一葉)白國商法第五百四十二條第五百六十四條)スミス(商法第六百廿一葉)ウイ  
ルモウスキ(獨逸倒産法第三條ノ説明)是ヲ以テ質主ハ其質ニ取リタル物品ヲ倒産品中ニ還與スルヲ要セス書入質物ハ其債主ノ爲メニ之ヲ賣却スルヲ得ルナリ而シテ其賣却ハ裁判上ニ於テスヘキヤ將タ裁判外ニ於テスヘキヤハ其關係ノ法律ヲ以テ定ムヘシ(第四百廿六條第

四百二十七條等然レ此ノ如キ處置ヲ爲スニハ常ニ管理人ヲ以テ相手トシ倒産者ヲ以テ相手トス可ラス又他ノ點ニ就テハ抵當債主ト雖モ倒産上ノ原則ニ依ラサル可ラス殊ニ尙ホ倒産品中ヨリ辨償ヲ受クルニ至テハ最モ然ルヘキ一第千三十九條ニ依リ自ラ明ナリ故ニ該債主ハ必ス其要求ヲ申出テ其別取權ヲ施行スルノ意ナルヤ否ヲ陳述スヘキナリ右ノ外本條ニ就テ論スヘキモノハ左ノ如シ

右債主ノ抵當權(レアール)(レヒト)ハ必竟其要求保全ノ爲メニスルモノナレハ支拂ヲ以テ其要求消滅スルト共ニ消滅ス倒産品管理人ハ倒産前ニ於ケル負債者ト同シク初メヨリ倒産品ヲ以テ該債主ニ支拂フノ權アリ此ノ如キ場合ニ於テハ特別取權ヲ施行スルヲ得ス以テ該抵當品ハ其儘倒産品ニ屬ス佛國商法第五百四十七條第五百五十三條(ウイールモウスキ)第五十八葉

抵當債主ハ別取權ヲ施用スヘキ權利アルモ其義務アルニ非ラス若シ其權利ヲ施用セサルニ於テハ爲メニ其抵當權(即チ書入質主權質主權留置權等)ヲ失ナフニ非ラスト雖モ特別ノ差押權ハ之ヲ施行スル能ハス其倒産品中ヨリ相當ノ先取權ヲ以テ辨償ヲ受ク而シテ其別取權ヲ施行スルヤ否ヤヲ申立ルノ期限ニ至テハ別ニ之ヲ定ムルヲ須ヒス何トナレハ是レ倒産處分ノ程序ニ隨テ自然ニ定マルヘク且此ノ如キヲ達スルハ管理人ノ職任ニ在レハナリ若夫レ質主ニ至テハ其質物ヲ現有スルニ非サレハ別取權ヲ行フ不能ハサルヤ明ナリ

抵當物ヲ以テスル抵當債主ノ辨償ハ其要求ノ總額ニ涉ルモノニシテ費用並ニ利子ヲ包含ス本案ハ首メニ費用次ニ利子又其次ニ元金ヲ賣得金ヨリ辨償スルモノト爲ス獨逸倒産法第四十條此順序ハ實際上重要ナリ何トナレハ倒産申渡後ノ利子ハ第千四十三條ニ依リ獨リ抵當

物品ノ賣得金ヨリ要求スルヲ得レハナリ例ヘハ五百弗ノ元金要求額ニ對シテ五百弗ノ價額アル質物ヲ有シ外ニ費用ト利子ノ額百弗ニ上レリトセシ敷先費用及利子ヲ拂フニ於テハ其元金ニ對シテ唯々四百弗ヲ餘ス此元金不足額百弗ハ倒産品ヨリ要求スルヲ得ヘシト雖モ利子ハ然ラサルナリ

抵當物品ノ賣得金ハ要求ノ總高(費用利子ヲ併セ)ヲ限トシ債主ノ有ニ歸ス故ニ其殘餘ハ倒産品中ニ拂込マサル可ラス而シテ此拂込ハ直ニ其物品ノ買主之ヲ爲スヘク間接ニ其債主ヨリ爲スニ非ラス(佛國商法第五百四十八條)「ブラワール」第五冊第五百七十四葉債主ハ其受クヘキノ要求總高ヲ受ケ其餘ニ係ラハ買主倒産品ニ對シ負債者トナル但タ其質物ニシテ他人ヨリ質入シタルトキハ其殘餘ヲ倒産品中ニ拂込マサルヲ勿論タリ(第四百三十八條)「ブラワール」第五冊第五百七十四葉註

三)

抵當債主ノ要求ト雖モ證明シテ認可ヲ經サル可ラサルハ別ニ説明ヲ要セス(佛國商法第五百五十二條)

第一千五十一條

傭人勞役者及ヒ商業使用人ハ倒産申渡ノ日ヨリ前一ケ月ノ未收賃料ニ就テ倒産者ノ總動産ニ對シ別取權ヲ有ス

本條ハ勞役業者ノ爲メニ別取權ヲ作りタルモノニシテ是レ本來ノ抵當權ヲ以テ基トセサルノ差アリ故ニ倒産ニ於テスルニ非ラスノハ施行スルヲ得ス夫レ勞役者及商業使用人ハ本ト其傭主ノ財産ニ係リテ質主其他ノ先取權ヲ有スルモノニ非ラス又之ヲ有スヘキノ正當ナル理由ナク且其賃料支拂ノ常例ニ戻ル勞役業者ノ賃料ハ長期ノ與債タ

ル性質ヲ有セス商業上ニ於ケルカ如キ定常必需ノ債事關係ハ抑モ勞  
 役者ト備主トノ間ニ存スルナシ佛國民法第二千一百一條ニ依レハ備主  
 ノ總倒産ニ就キ當年及ヒ前年分ヲ限トシ一般ノ先取權ヲ勞役者ニ與  
 フ故ニ事情ニ由テハ二年間ニ涉ルヲナシトセス獨逸倒産法第五十四  
 條ニモ一年間ヲ限トシ然ルモノトス然レモ此ノ如キ特權ヲ與フルニ  
 充分ノ理由アルヲ見ス若シ夫レ勞役業者ハ貧民ナリトノ一事ハ此ニ  
 與カリテ力アリトス可ラス何トナレハ是レ貧債主ヲ以テ富債主ノ上  
 ニ置クト云フノ結局ヲ生シ所有權ノ原則ト大ニ相戾ルニ至レハナリ  
 勞役者ニシテ長ク其賃料ヲ備主ノ手中ニ放置シタル者若シ之ヲ失フ  
 ニ至ラハ自ラ其責ヲ受クヘシ獨リ倒産ノ場合ニ至テ之ニ先取權ヲ與  
 フルハ權宜ヲ得タルモノ、如シ何トナレハ其賃料損失ハ自己ノ責ニ  
 出テス且本人ノ困苦トナルヲ多ケレハナリ佛國法律ハ勞役者ノ爲メ

ニ一月間商業使用人ノ爲メニ六月間ノ賃料ニ就テ先取權ヲ與フ然レ  
 モ勞役業者ハ總テ之ヲ同一ニ論シ其期ヲ長クセサルヲ以テ宜ヲ得タ  
 リトス何トナレハ勞役者ノ賃料ノ如キ數千ノ勞役者ヲ使用スル製造  
 所等ニ於テハ甚タ巨額ニ登リ爲メニ他ノ債主ノ權利大ニ害セラル、  
 ニ至レハナリ故ニ本案ハ一月ノ賃料ニ就テ先取權ヲ與ヘ不動産ニ係  
 テハ之ヲ許サス

### 第千五十二條

先取權ノ順序ハ民法及ヒ特別ノ法律ニ依ル但別ニ規則アル  
 ニ非サレハ特別ノ先取權ヲ以テ一般先取權ノ上ニ居ク  
 先取權ヲ施用スルノ方法殊ニ其順序ノ如キハ倒産法ノ定ムヘキ所ニ  
 非スシテ其關係ノ法律ノ知ル所タルヲ既ニ第千五十條ニ説明シタリ  
 其法律ニ先取權ヲ與ヘサルモノハ同種類ノ債主皆同一ノ割合ヲ以テ

辨償ヲ受ク(第四百卅四條第九百十三條佛國民法第二千一百一條第二千  
 百二條第二千五百五條)佛法ニ於テ特別ノ先取權ノ一般先取權ノ上ニ在  
 ルコトハ駁議ニ遇フタリ(ツアハリエ)佛國民法第二冊第二百九十條)然レ  
 此是レ特別ノ權利ハ一般權利ノ上ニ在リトノ普通原則(イン、トートー、  
 ユーレ、ゲテリ、ペルスベチエム、デロカートル)ニ適スルニ止マラス  
 併セテ權宜ヲ得タルモノトス何トナレハ特別ノ先取權ハ一般先取權  
 ニ比シテ其抵當小ナルニ尙ホ之ヲ其下ニ居キテ減殺スルノ理ナケレ  
 ハナリ但タ裁判費用及租税ニ就テハ通常此ニ例外ヲ立ツ然レ此點  
 ニ就テハ爰ニ確定セサルナリ(ウイルモウスキー)第四百四十五條)

### 第一千五十三條

倒産品ヲ以テ別取權アル者ニ未濟ノ要求ヲ辨償スルニ  
 ハ總テ同一ノ割合ヲ以テス

本條ノ意ヲ了解セン爲メニハ抵當債主モ他ノ債主ト同シク倒産者ノ  
 總財産ヨリ辨償ヲ受ルノ權アリ必スシモ其有スル抵當ヲ以テ辨償ヲ  
 受ルニ止ルヘキノ制限ナキコトヲ知ラサルヘカラス此ノ如キ制限ハ債  
 主權ヲ強クスル所以ニ非ラスシテ却テ之ヲ弱クスル所以ナリ以テ抵  
 當ノ性質ニ戻ルモノト云フヘシ是ノ故ニ別取權ヲ施行シタルモ要求  
 ノ一部仍ホ未濟ナルニ於テハ此殘額ニ就テ他ノ債主ト同シク倒産品  
 ヨリ辨償ヲ要求スルヲ得ヘシ然レ此既ニ其配當ニ方テハ總要求ヲ以  
 テ算スヘカラス須ラク其未濟ノ額ヲ限リテ然ルヘシ例ヘハ質主ニシ  
 テ六千弗ノ要求ヲ有シ其質物ヲ賣却シテ僅ニ三千弗ヲ得タリトセン  
 歟其要求ノ殘餘三千弗ニ就テハ倒産品ヨリ其割合ノ配當ヲ要求スル  
 ヲ得ヘシ而シテ其割合ヲ算スルニハ三千弗ヲ以テ率トシ六千弗ヲ以  
 テ率トセス是ニ於テ倒産品ノ額唯々各債主ニ其要求額ノ五割ヲ辨償

スルヲ得ルニ止マルキハ右質主ハ倒産品ヨリ千五百弗ヲ得テ止ムヘシ是レ他國ノ法律ニモ明ニ定ムル所ナリ(獨逸倒産法第五十七條佛國商法第五百四十八條第五百五十二條白國商法第五百四十四條第五百四十八條「アラワール」第五冊第五百五十八葉)若夫レ抵當債主ニシテ其抵當品ヨリ充分ノ辨償ヲ得タルトキハ倒産品ニ對シテ一モ要求スル所アルヲ得ス之ニ反シ抵當品一モ辨償スルニ足ラサルキハ要求ノ全部ヲ以テ率トシ倒産品ヨリ要求ス例ヘハ書入質主ニシテ第三番目或ハ第四番目ニ在ルトキハ土地賣得金ノ配當ニ於テ一モ受ル所ナキカ如キ是レナリ若シ抵當債主ニシテ初メ倒産品中ヨリ幾分ヲ得タルトキハ抵當品配當ノトキ之レヲ差引テ倒産品中ニ還與スヘキナリ(佛國商法第五百五十四條「アラワール」第五冊第五百五十五葉)例ヘハ一家屋ニ係リ二人ノ書入質主アリ第一番目ノ者ハ千弗ニシテ第二番目ノ者

ハ五百弗トシ前者ハ既ニ倒産品ヨリ千弗ヲ得其ノ家屋ノ代價僅ニ千弗ニ止マルトキハ此ノ千弗ハ後者ノ辨償ニ供スヘキニ非ラス(是レ抵當品ニ就テ一モ配當ヲ受クヘキモノナケレハナリ)悉皆之レヲ倒産品中ニ拂込ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二番目ノ書入質主ハ他ノ債主ト同一ノ割合ヲ以テ辨償ヲ得ヘキナリ

### 第一千五十四條

負債者支拂停止ノ後ニ遺産相續ヲ爲シタルトキハ遺産債主及ヒ被贈遺者ハ尙現存スル遺産ノ物品若クハ未タ負債者ニ支拂ハサル右物品ノ代價ニ就キ別取權ヲ有ス是レ佛國民法第八百七十八條第二千百一十一條獨逸倒産法第四十三條ニ掲クル所ニシテ別取權ハ獨リ死者ノ債主ニ與ヘ其相續人ノ債主ニ與ヘス前者ニ此權ヲ與フルハ自然ノ權宜ニ適ス何トナレハ死者ハ必

スシモ支拂能力ナシトスヘカラサレハナリ後者ニハ此ノ如キ權ヲ與フルノ理由ナシ何トナレハ相續人ノ債主ハ其遺産ニ依テ利得ヲ占ムルヲ多ケレハナリ若シ其遺産ニシテ負債過重ナルトキハ遺産目錄ニ依テ相續スルヲ得即チ自己ノ財産ヲ以テ死者ノ負債ヲ消却スルヲ防クヲ得ヘキナリ之ヲ要スルニ本條ノ別取權ハ抵當債主ノ別取權ト異ニシテ倒産者ノ倒産品ニ非サル所ノ財産ニ係リ其遺産ニ就テ倒産者ノ債主ト死者ノ債主トヲ混セサラシムルノ用アリ

## 第千五十五條

第二百七十三條及ヒ第三百八十六條ニ定メタル解約權并ニ取戻權ハ倒産品ニ對シテ之ヲ施行スルヲ得ス

本條ハ直ニ第千四十七條ト照應スルモノニシテ該條ハ雙務契約ニシテ倒産申渡ノ時ニ未タ雙方トモ履行セサルニ於テハ一方ヨリ解シ得

ヘシト定メタリ本條ハ則チ既ニ一方ヨリ履行シ相手ハ未タ履行セサル場合ニ就テ論スルモノニシテ一方ハ其契約ヲ解キ既ニ履行シタルモノヲ相手ヨリ取戻スヲ得ス唯タ其履行或ハ賠償ヲ要求シ得ルニ止マル何ントナレハ其履行シタル物品ハ既ニ倒産者ノ財産トナリ總債主ノ共同辨償ニ供シ一債主ノ辨償ニ用ユ可ラサレハナリ且一方ヨリシテ取戻ヲ爲スヲ得ルハ人身上ノ訴(コンゴユクシヨン)ヲ以テスルト財産上ノ訴(ウキンゴカシヨン)ヲ以テスルトヲ問ハス總テ倒産法ノ原則ニ悖ル者ナリ(佛國商法第五百五十條第七項千八百七十二年二月十二日ノ同國法律白國商法第五百四十六條獨逸倒産法第廿一條)ザルウエー(第九十九葉以下)故ニ倒産者買主ニシテ既ニ物品ヲ受取リタルモ未タ其代金ヲ支拂ハストセン歟賣主ハ契約ヲ解止シ其物品ヲ取戻スヲ得ス其物品ハ倒産品中ニ在ルカ故ニ他ノ債主ト共ニ其代價

要求ニ就テ其割前ヲ受クヘキノミ又倒産者ニシテ某細工ヲ受負ヒ既ニ其代金ヲ得タル後又仲買人賣却ノ爲メニ物品ヲ受取リタル後倒産シタル場合ノ如キ皆ノ右ニ同シ佛國法律ハ此原則ヲ動産賣買ノ場合ノミニ限り適用スト雖モ充分ノ理由アリテ然ルモノニ非ラス獨逸法律ニ於テ此ノ如キ制限アルコトナシ又佛國法律ニハ賣主ニ其代金ニ係リテ先取權ヲ與フ然レモ此ノ如キ該法律ノ異様ナル規則ハ商法ニ採用スルコトナク此ニモ之ヲ默止ス

第四百五十二條ニ定メタル留置權亦倒産ノ場合ニ施行スルコトヲ得ス夫レ留置ヲ施行スルハ未タ雙方共充分契約ヲ履行セスト雖モ少ク一方ニテ之ヲ履行スルノ意アリ以テ相手ヲシテ強ヒテ履行セシメント欲スルトキニ於テス然レモ此ノ如キ權利ハ第千四十七條ヲ以テ禁スル所ナリ何トナレハ雙方ニ唯ク解約ノ權アルヲ許スニ止マリ自カラ

履行シテ相手ノ履行ヲ強ユルハ解約ト相戻レハナリ故ニ佛國商法第五百七十八條ノ言ハ精密ナラストス蓋シ解約ニ於テハ直ニ其物品ヲ處分スルヲ得ルモ留置權ハ第四百五十一條ニ依ルニ非サレハ履行スルヲ得ス是レ解約權ヲ利便トスル所以ナリ

倒産ニ於テ取戻權ヲ施行シ得ルモノハ第六百卅三條乃至第六百四十條ニ定ム(佛國商法第五百七十四條乃至第五百七十九條白國商法第五百六十六條乃至第五百七十二條)

### 第千五十六條

左ニ掲クル倒産者ノ所有物品ハ第千五十條ニ依リ別取權ノ繫ラサルモノニ限り之ヲ倒産品中ニ繰込ミ債主ノ辨償ニ供スルヲ得ス



一、身分ニ應シ倒産者及ヒ其家族ノ爲メニ必要ナル衣類、寢具、家具、厨具

二、倒産者及ヒ其家族ニ於テ一月ヲ支フルニ必要ナル食料及ヒ薪炭

三、職工勞役者、技術者、官吏、將校其他本職ヲ有スル者ノ其職業ヲ自カラ營ムニ必要ナル器具其他ノ物品

四、賃料或ハ給金ニシテ其生活ヲ支フルニ必要ナル金額

五、貧民救助及ヒ其他ノ惠與物

六、官吏及將校ノ職務上ノ收入

十

但所管廳ニ於テ其額ヲ定ム

七、勳章其他榮譽ノ記章

世襲領地及世襲財産ニ就テハ其關係ノ法律ニ依ル

本條ハ倒産者及ヒ其家族ノ爲メニモ更ニ別取權ヲ定メタリ此別取權ヤ諸國ノ法律ニ是認セラル、所ニシテ但タ其範圍ノ廣狹アルノミ(佛國商法第四百六十九條白國商法第四百七十六條獨逸倒産法第一條同訴訟法第七百十五條第七百四十九條和蘭商法第八百八條千八百六十九年ノ英國倒産法第十五條第八十九條第九十條)本案ノ規則ハ重モニ獨逸及ヒ英國ノ法律ニ倣フ佛國法律ニ依レハ倒産處分上ノ規則ト通常差押處分ノ規則ト相異(假令ヒ紛議ヲ免レサルモ)ナリ(佛國訴訟法第五百九十二條)アローゼイ(第七册第二千五百七十八號及ヒ第二千四百六十號)蓋シ事ノ自然ヲ以テ論スレハ一般ノ支拂能力アル負債者ト倒

産ノ負債者トナシテ差押ヲ免レシムルニ相同シキヲ得スト雖モ佛國商法ノ與フル待遇ハ甚タ狹ニ過ク今ヤ本案ニ於テ免除スルモノハ一人情ノ酌量ニ出ツ何トナレハ夫レ倒産シタル負債者ノ家族ヨリ日常ノ生活料及營利ニ必要ナル器具ヲ奪フ能ハス假令ヒ之ヲ奪フモ到底公費ヲ以テ給養スヘキニ至レハナリ又一ハ公益上ヨリ出ツ何トナレハ官吏將校ノ倒産ノ爲メ其職ヲ失ナフニ非サルトキハ其職ニ従事スルノ方便ヲ奪フヘカラサレハナリ蓋シ勳章其他榮譽ノ記章ハ或ハ高價ナルモノナキニ非サルモ公然ノ賣買ニ供シ之ヲ倒産品ニ收入スルヲ得ス何トナレハ是レ其佩用者ノ死去ト共ニ之ヲ授與シタル所ノ政府ニ還納スルヲ例トスレハナリ貧民救助及ヒ其他ノ惠與物ハ必竟被與者ノ困難ヲ救ハンカ爲メニスルヲ以テ惠與者ノ心トスルカ故ニ此目的ハ賊ナフヘカラス若シ然ラサルトキハ惠與者肯テ之ヲ與ヘス

或ハ之ヲ取戻スヘケレハナリ第三項ノ物品ニハ官服軍器書籍等其公務ヲ執ルニ必要ナル裝具(例ヘハ將校ノ馬匹馬具等)ヲモ包含ス又其要否ノ決裁ハ一般ニ倒産主任官之ヲ爲シ官吏及將校ニ在テハ所管官廳之ヲ爲ス何トナレハ其公務上ノ需要ニ就テ適當ノ裁斷ヲ下ス者ハ此官廳ニ限レハナリ又職務上ノ收入ニハ恩給ヲモ含有ス獨逸法律ニ依レハ抑モ職務ノ收入ニ差押ヲ施スヲ得ス然レモ是レ其宜ヲ得ス何トナレハ其收入タル必用ノ生活料ニ超ユルヲナキニ非ラス以テ其餘裕ヲ債主ノ辨償ニ供スヘカラサルノ理由ナケレハナリ世襲領地及ヒ世襲財産ハ世々賣却スヘカラサルモノトシテ其家ニ遺サ、ルヘカラサルモノニシテ其時ノ所有者隨意ニ處分スルヲ得ス故ニ何レノ事情アルヲ問ハス倒産品ニ算入スルヲ得ス何トナレハ之ヲ處分スルノ權倒産管理人ニ移ル能ハサレハナリ而シテ此ノ如キ財産

或ハ其收入ニシテ特別ノ世襲財産債主辨償ニ供シ次ニ一般債主ノ辨償ニ供セラルヘキ程度ハ其財産ノ創立及經理ニ係ル法律ニ細條アルヘシ(獨逸倒産法第四十五條「ザルウエー」第三百四十八葉以下)

第四卷 警備處分

第一千五十七條

裁判所ハ倒産申渡ノトキ直ニ倒産者ノ拘留若クハ監禁及其動産ノ封印ヲ令スヘシ  
倒産者若シ逃走シ又ハ逃走セントシ若クハ其財産轉匿スルトキハ一人若クハ數人ノ債主ノ申立ニ依リ或ハ官權ニ依リ倒産申渡前ニ於テモ其地警察署ニテ右ノ處分ヲ行フコトヲ得  
會社ニ在テハ連帶責任アル總社員ノ身及財産ニ右ノ處分ヲ行フ

警備處分ハ主トシテ倒産品ニ係ルモノニシテ倒産者或ハ其他人々ヲシテ倒産品ヲ轉匿シ債主ニ損害ヲ加ヘサラシムルノ用アリ倒産者ハ第一千三十九條ニ照シ法律上其財産ヲ處分スルノ權ヲ失ヒ其爲シタル處分一モ法律上ノ効力ナシト雖モ實際財産ヲ處分シ可及的之ヲ轉匿スルノ道仍ホ存ス故ニ實際倒産品ヲ減スルノ道ヲ塞カサルヘカラサルナリ其財産ニ係ラサル警備處分ハ倒産者ノ有罪倒産ヲ爲シ刑事事ヲ以テ論セラル、ニ至ルノ道ヲ閉ツルニ在リ蓋シ詐偽ノ倒産者ハ其負債ノ辨償ヲ免カレ其藏匿シタル財産ヲ他處ニテ消費セントノ目的ヲ以テ往々逃走スルモノニシテ且倒産者ノ在席ハ倒産品管理及賣却ノ際管理人ニ事情ヲ辨陳シ場合ニ依リテハ自カラ之ヲ助クル爲メニ必要ナリ故ニ負債者ハ財産ヲ失フタルヤ之ニ其身ノ自由ヲ與フルハ許ス所ニ非ラス之ニ對シ警備ヲ施スノ事山全ク消滅スルニ非サレハ其

身ヲ自由ニスルヲ得サルナリ  
 警備處分ハ拘留監禁及財産封印ヲ以テスルコト各國皆然リ(佛國商法第四百五十五條白國商法第四百六十六條第四百六十七條獨逸倒産法第九十八條第一百十二條和蘭商法第七百八十七條第七百八十九條第七百九十五條西國商法第一千四十四條第一千四十五條千八百六十九年ノ英國法律第八十六條第八十七條其互ニ差異アルハ獨逸法ニ於テ此處分ノ行否ヲ裁判所或ハ管理人ノ意見ニ任シ英國法白國法ノ如キハ逃走若クハ轉匿等凡テ嫌疑ノ顯然タル事情アルトキニ限り然ルモノトスル是レナリ佛國法ハ直ニ負債者ヲ拘留スルコトヲ裁判所ノ意見ニ任セス又之ニ幾干ノ制限ヲ加フルコトナク裁判所ヲシテ別ニ調査ヲ行フコトヲ先ツ負債者ヲ拘留スルノ義務アラシムルヲ例トス本案ハ則チ此法ヲ採レリ今此拘留ハ刑ニ非ス唯タ取締處分ニシテ別ニ倒産者ノ不利

チ來スニ非ラサルナリ蓋シ裁判所ハ倒産處分ヲ開始シタル後ト雖モ  
 委曲ノ事情ヲ知ラス且其負債者ノ逃走等ノ企圖ヲ竊ニ抱クモ知ルヘ  
 カラス又倒産者ノ有罪ニシテ逃走セント欲スルハ多クシテ其然ラサ  
 ルモノハ希レナリ之ヲ要スルニ倒産者ニ此ノ如キコアリトノ思料ハ  
 何レノ倒産者ニ對シテモ之ヲ下スヲ得ヘク是レ拘留ヲ爲スノ事由ニ  
 シテ但タ其嫌疑ヲ下スノ事情ナク或ハ害ト爲ルコトヲ企ル能ハサルニ  
 至テ始メテ拘留ヲ解クコトヲ得ヘシ然レモ是レ百場合ニ方テ必要トス  
 ルニ非ラス次條ニ於テ其例外ヲ許ス拘留ハ負債獄ニ入レ監禁ハ其居  
 宅ニ於テシ常ニ巡查或ハ憲兵等ヲ以テ之ヲ看守セシメ百事隱密ニ爲  
 スコトヲ得サラシムルニ在リ

十

テ逃走シ其倒産申渡ヲ竣タサルヲ多トスレハナリ故ニ倒産申渡前ニ  
 モ其處分ヲ行フノ道ナカルヘカラス然レモ是レ別ニ理由ナクシテ爲  
 スヲ得ス必スヤ之ヲ爲スノ因由アルヲ竣テ始メテ爲スヘキナリ而シ  
 テ此ノ如キ場合ニ於テハ債主ノ申立或ハ官權ヲ以テ警察署ノ其必要  
 ノ處分ヲ施スヲ得其官權ヲ以テスルハ倒産者ノ逃走シテ其罪ヲ免レ  
 若クハ財産ヲ轉匿シテ債主ニ損害ヲ被ラシメントスルヲ防遏スヘキ  
 官ノ職務ヨリ生ス(佛國商法第四百五十七條白國商法第四百六十九條)  
 獨逸倒産法第九十八條ニ依レハ倒産申渡前ニ於テモ裁判所自ラ此處  
 分ヲ行フヲ得ヘシト爲ス然レモ是レ實際ニ適セス但タ倒産申渡ニ基ク  
 ノ拘留及封印ハ裁判處分ナレハ裁判所之ヲ爲スヲ例トス佛國ニ於テ  
 ハ此場合ニ係ル封印モ治安裁判官之ヲ爲ス(佛國商法第四百五十七條)  
 然レモ此ニ十分ノ理由アリテ存スルニアラス又該條ニ即時治安裁判

官ニ通知スヘシト定メタルハ裁判所ニテ自ラ封印ヲ爲スヘカラサル  
ヨリ出ル所ナリ

本條第三段ハ會社ノ社員會社ノ負債ニ就キ全財産ヲ以テ連帶義務ヲ  
有スルヨリ生スル所ニシテ社員ノ此責任ヲ免ル、ヲ防クニ在リ(佛國  
商法第四百五十八條白國商法第四百七十條)此規則ハ第千三十五條ト  
相照應スルモノニシテ第一ニ社員自己ノ財産ヲ以テ其責ニ當ルヘキ  
合名會社ニ係ルモノナリト雖モ又差金會社ノ連帶責任アル社員及ヒ  
株式會社ノ頭取役ニモ適用ス但タ株主ニ對シテハ然ラス(第百七十八  
條)此處分ハ社員ノ倒産ニ至ルヘキ成迹ヲ來スニ非ラス第一ニ其會社  
ノ財産ニ於ケル倒産ニシテ其社員ニシテ會社ノ全負債ヲ辨償シ得ル  
コトナキニ非ラス然レモ社員其會社ヲ抛擲シ只管自己ノ財産ヲ救護セ  
ントスルカ如キヲ防クハ必要ナリ

## 第千五十八條

負債者第千三十五條ノ規則ヲ履踐シ且之ヲ拘留或ハ監  
禁スルノ事由存セサルトキ先ツ之ヲ措キ後ニ至リテ時  
ヲ論セス官權ニ依テモ右ノ處分ヲ爲スコトヲ得但負債  
者ハ裁判所ノ許可ナクシテ其住地ヲ去ルヲ得ス又裁判  
所ハ時ヲ論セス負債者ヲ引致スルコトヲ得

本條ハ直ニ拘留若クハ監禁スルコトヲ爲サ、ルヲ得ルノ例外ヲ設ルモ  
ノニシテ是レ正直ニシテ不幸ノ爲メニ倒産シタル者ヲ詐僞者及犯罪  
者ト一班ニ論シ以テ其嚴酷ナル處置アルヲ恐レテ倒産届出及ヒ事情  
申立ノ義務ヲ忽ニスルカ如キ弊ナカラシメンカ爲メニ必要ナリ(佛國  
商法第四百五十六條白國商法第四百六十七條)今夫レ負債者ニシテ第

千三十五條ノ届出ヲ爲サス帳簿ヲ提出セサルキハ必ス之ヲ拘留セサルヘカラス又其義務トスル届出ヲ爲シタリトセシ歟假令ヒ別ニ充分ノ理由ナキモ之ヲ拘留スルヲ得ヘシ即チ其倒産有罪のニ非ラサルコト又負債者其財産ヲ隠蔽スル等總テ義務ヲ盡サ、ルカ如キヲナキヲ保スヘカラスルトキ是レナリ佛國商法第四百五十六條及ヒ白國商法第四百六十七條ニ於テ右第二ノ點ヲ論スル其旨ヲ異ニス蓋シ負債ノ爲メニスル假拘留ハ近世負債拘留廢止ノ法律アルカ爲メニ今日實用セラレス唯タ届出其實ニ非ラサルトキニ限り此拘留ヲ許スハ甚タ狹シ故ニ放釋ヲ大凡ニ許シ如何ナル嫌疑ヲ以テスルモ拘留ヲ爲スヲ得セシムルヲ以テ至當トス故ニ負債者ニシテ其得タル信用ヲ他日濫用シ或ハ犯罪ニ陷ヒリ或ハ不正惡意ヲ認ムヘキノ事情アルニ於テハ何時タリトモ之ヲ拘留スルヲ得ヘキハ勿論ナリ本案ノ獨逸英國等ノ

法律ト異ナルハ彼ニ在テハ某ノ事實或ハ嫌疑ノ理由存スルニ非ラサレハ拘留スルヲ許サス本案ニ依レハ一モ刑ヲ以テ論スヘキ行爲ナシ又倒産品ニ對スル義務ヲ履行スルヲ保スヘキトキニ限り之ヲ放釋スル是レナリ但タ倒産者ノ裁判所或ハ債主ニ陳述スルヲ拒ムトキハ之ヲ裁判所ニ引致スルニ止マル寛法ヲ以テ充分トスルノ場合ナシトセサルナリ(獨逸倒産法第九十八條)

### 第一千五十九條

處刑或ハ監禁スルノ事由既ニ存セサルトキハ裁判所ノ決議ヲ以テ拘留シタル負債者ヲ釋放ス但裁判所ハ何時ニテモ裁判所又ハ管理人ノ呼出ニ即時應スル爲メ保證ヲ立テシムルコトヲ得其保證ノ沒收セラレタルモノハ

## 倒産品ニ繰込ム

倒産者ノ拘留ハ既ニ説クカ如ク處刑ニ非ラス唯タ司法上及債主ノ爲メニ某目的ヲ實行スルノ方便ニ過キス故コ此目的ヲ達シ或ハ抑モ此目的ナキニ於テハ之ヲ止メサルヘカラス今夫レ其倒産ニシテ有罪のニ非ラス且倒産品ノ乏シキカ爲メニ其處分ヲ止ムヘキトキハ必ス之ヲ釋放セサルヲ得ス又假令ヒ其處分ヲ止メサルモ倒産品全ク封印ヲ受ケ既ニ管理人ノ掌中ニ歸シタルトキ及自身ニ出頭スル爲メノ保證ヲ立テタルトキハ同シク之ヲ釋放スヘキナリ此保證ハ保證人ヲ以テスルヲ多トス何トナレハ負債者ハ自己ノ財産ヲ以テ保證金ヲ出スノ餘資アラサルヲ例トスレハナリ(佛國商法第四百七十二條第四百七十三條白國商法第四百八十一條)而シテ前條及ヒ本條ニ掲ケタル處分モ第千五十七條ニ掲ケタル處分ノ如ク獨リ主任官管理人或ハ債主又或

ハ負債者ノ請求ニ依リ裁判所ノ決議ヲ以テ爲スヘキモノニシテ主任官ノ得テ爲ス所ニ非ラサルナリ

## 第千六十條

管理人負債者ノ財産ヲ財産目錄ニ載セ之ヲ現有シタル後ハ直チニ其封印ヲ解ク第千五十六條ニ掲ケタル物件并ニ倒産品ノ爲メ直チニ賣却シ或ハ續テ利用スルコトニ妨ケアルカ爲メニ封印スルヲ得サル物件ハ封印ヲ施スヲ要セス此最後ノ物件ハ直チニ財産目錄ニ載セ管理人人之ヲ引受クヘシ、負債者ノ商業帳簿及ヒ取引帳簿ハ直チニ管理人ニ引渡シ官ニテ其形狀ヲ檢定スヘシ特別貴



重ノ物件ハ直チニ管理人ニ引渡シ或ハ一時裁判所ニ引取ルヲ得

地所、家屋等ハ携持スルヲ能ハサルヲ以テ封印ハ獨リ動産ノミニ施ス者ナリ官ニテ封印スルハ負債者ハ勿論他ノ諸人タリ其財産ニ觸ル、ヲ能ハサラシメン爲コシテ官ノ封印ヲ犯シタルキハ假令其物品ヲ持去ルヲナキモ刑法ヲ以テ之ヲ罰ス(日本刑法第七十四條第七十五條獨逸刑法第百卅六條)而シテ封印ノ目的ハ管理人其倒産品ヲ引受ルヤ輒チ終リ此時ヲ以テ管理人ノ倒産品ヲ經理賣却スル職務始マリ以來倒産品ニ屬スル物品ヲ犯サ、ルニ措クヲ能ハサルヤ勿論ナリ故ニ此時ヨリシテ倒産品其封印ヲ解レタリト視サル可ラス蓋シ封印シタルキト之ヲ解タルキトノ間ニハ倒産品一モ干犯セラル、ヲナク唯之ヲ目錄ニ載セ其現在額ヲ列記シ其價額ヲ評定スルノ時間アリ而シテ此

十

財産目錄ハ官吏ノ立合ヲ以テ(必要アレハ倒産者モ立合フ)管理人ノ作ルモノニシテ官ノ職掌ニ屬スルカ故ニ之カ爲メニ封印ノ不可犯のヲ害スルニ非ラス然レモ目錄ヲ作ル間ニハ其物品ヲ閱スルカ爲メ封印ヲ除去スルコトナキヲ得ス例ヘハ倉庫肆店穴藏等ノ戸前ヲ封印シタルトキノ如キ是レナリ故ニ目錄記載其歩ヲ進ムルニ隨ヒ封印ヲ解クコト必要ナルニ至ル且之ト同時ニ管理人其物件ヲ引受ク故ニ封印放解除ト目錄記載ト物品引受トノ三所爲ハ互ニ相進退シ以テ實際ニ於テハ同時ノ所爲ト視サルヘカラス但シ封印放解除ハ實際他ニ先ニスヘキ者ナリト雖モ法律上ニ於テハ目錄記載及ヒ物品引受ヲ行フタルトキ始テ放解除シタルモノト爲スヘシ例ヘハ一倉庫中ノ物品ヲ目錄ニ記スルニ一日ヲ以テ終ルコト能ハス之レヲ中止シ或ハ延引スルトキハ再ヒ封印ヲ施サ、ルヘカラス以テ倉庫内ノ全物品ヲ目錄ニ載セ管理

人之レヲ現有シタルニ及ンテ始メテ封印ヲ解キタルモノトスヘキナ  
 リ故ニ封印放解ハ法律上ノ事實ニシテ目錄記載ノ爲メニスル外觀ノ  
 封印脫去ト混スヘカラス佛國商法第四百七十九條第四百八十四條白  
 國商法第四百八十八條第四百九十一條ニ管理人ハ三日内ニ封印ノ脫  
 去ヲ申立テ目錄ヲ調製シ目錄ノ調製終リタル後其ノ物品ヲ管理人ニ  
 引渡スヘシト定ム然レトモ佛國商法第四百八十條白國商法第四百八  
 十九條ヲ以テ論スルトキハ此ノ兩國ノ法律ニ於テモ目錄記載ト封印  
 放解トハ互ニ相混一シタル處置ト爲シタルコト明カナリ蓋シ封印放  
 解ハ目錄記載ノ運歩スルニ隨フテ前行シ個々記載ノ終ル毎ニ併セテ  
 管理人其物品ヲ引受ケ其ノ引受ケタル旨ハ同時ニ目錄ニ筆記シテ確  
 定スヘシ  
 既ニ言フ如ク封印ノ目的ハ倒産品ニ屬スル物品ヲ不可犯的ニ爲スニ

在ルヲ以テ管理人ノ記錄ヲ作り物品ヲ引受ル迄ニ幾許ノ時間ヲ經過  
 スルトキニ限り之ヲ施スヘキモノナリ若シ然ラス或ハ然ルヘカラサ  
 ルトキハ封印ヲ施サ、ルモノトス是ヲ以テ本案ニハ佛國商法第四百  
 六十九條乃至第四百七十一條及ヒ白國商法第四百七十一條ニ倣ヒ封  
 印ノ規則ニ三(或ハ四)例外ヲ掲ケタリ

第一第一千五十六條ニ掲ケタル物件ハ倒産品中ニ組入レス倒産者及其  
 家族ノ需要ニ充ツ故ニ倒産品管理上ニ一モ利害ヲ有セス以テ債權者  
 ニ嫌疑アリ調査スルヲ要スルニ非サレハ封印ヲ施スノ理由存セサル  
 ナリ又縦ヒ事由アリテ之ヲ封印シタルモ擇ハス目錄記載前ニ於テモ  
 其封印ヲ取除クコトヲ得ヘシ要スルニ第一千五十六條ニ依リ債權者ニ  
 放與スル物品ニ就テハ唯タ其品書ヲ作ルヲ以テ充分トス  
 第二倒産品ノ爲メ直ニ賣却シ或ハ續ヒテ利用セサル可ラサル物件例

へハ損取或ハ落價ノ急速ナルヲ以テ至急ノ賣却ヲ要スルモノ及ヒ倒産品ノ損失ヲ免レン爲メニ營業ヲ保續スルニ必要ナル物品ハ皆此ニ屬ス(佛國商法第四百六十九條第二項第三項)又爲替及ヒ其他直ニ若クハ急ニ兌換シ或ハ承諾ノ爲メニ送致スヘキ證券等モ此種類ニ算入スヘキナリ(佛國商法第四百七十一條)

第三商業帳簿ハ第一千三十五條ニ從ヒ倒産届及ヒ貸方借方比較表ト共ニ裁判所ニ差出スヘキ者トス而シテ一タヒ裁判所ニ致セハ復タ封印スルヲ要セス然レモ倒産者若シ此義務ヲ履マサルキハ裁判所直ニ此帳簿ヲ取上ケ管理人ニ引渡シ同時ニ裁判所ハ管理人ノ立會ヲ以テ其形狀即チ數及種類ト外面上全ク毀損ナキヤ否ト其記載ノ何處ニ止マルヤトチ筆記確認スヘキナリ其記載ノ終局ヲ檢査スルニハ各簿皆官ニテ之ヲ閉ス即チ官ニテ閉帳符ヲ記シ且附記ノ月録スルヲ以テ最モ

長シトス(獨逸倒産法第一百十二條)此例外ヲ立テタルハ一ニハ其帳簿ノ倒産品中ニ屬セス一ニハ成ルヘク速ニ貸方借方ヲ調査シ倒産者ノ差出シタル比較表ヲ檢査スルノ義務管理人ニ在リ以テ之カ爲メニハ帳簿ノ檢閲缺クヘカラサルノ故ニ出ツルナリ

第四格別高價ナル物件ニ係ル例外ハ千八百五十五年ノ孛漏生倒産法第四百十三條ニ倣フタルモノニシテ便宜ヲ圖ルニ出ツ何トナレハ此ノ如キ物件ハ之ヲ封印スルモ充分ノ警備トナラス倒産者等ノ封印破毀ノ罪ヲ蒙ムルモ物品ヲ轉匿セントノ念ヲ絶タサルノ危險(殊ニ鄉村ノ離家ニ於テ最モ然リ)アレハナリ此物品ト雖モ財産目錄ニ載スヘキハ論チ俟タス唯タ封印ニ至リテハ之ヲ要セス直ニ管理人ニ引渡シ若シ然ルヲ得サルトキハ裁判所ニ預置クヘキナリ

## 第一千六十一條

倒産者ニ負債アル者若クハ倒産品ニ屬スル物品ヲ現有スル者ハ公行差押ヲ以テ之ニ督促シ其支拂又ハ引渡ヲ管理人ニ向ヒ爲サシム其物品ニ就テ別取權ヲ行ハントスル者ハ之ヲ管理人ニ届出テ管理人ノ請求アレハ其物品ノ評價ヲ爲サシムヘシ倒産者ニ宛テタル電信書狀及ヒ其他ノ送達物ハ必ス管理人ニ引渡スヘシ但其文面倒産品ニ關繫ナキモノハ倒産者ニ附與スヘシ

倒産品ニ屬スル物品ニシテ倒産者ノ手裏ニ在ラス他人ノ手裏ニ存スルモノハ封印ヲ以テ之ヲ警備スルコト能ハス(アルレスト)差押ノ處分ヲ以テ封印ニ代ヘサルヘカラサルナリ(アレスト)素ト繫止ノ義ニシテ人ニモ物ニモ用ユ本文ハ物ニ用ユルヲ以テ差押ト譯ス是レ別ニ良譯

字ヲ得サレハナリ)通常逃亡等ヲ防クカ爲メ人身ヲ繫留スルコトニ用ユト雖モ亦タ物件ニ係ル繫留アリ之ヲ以テ物品ヲ法律上ニ於テ拘束ス即チ獨リ裁判所ノ命令ニ依テ物品ヲ引渡スノ義務ヲ其時ノ所有者ニ負ハシムルナリ而シテ公行差押ハ個々ニ人名ヲ掲ケタル者ニ施サス未定(多クハ所在分ラサル)ノ諸人ニ施ス者ニシテ此ニハ倒産者ノ負債者或ハ預リ主賃借人等倒産者ノ物件ヲ所持スル者ヲ指ス差押ノ處分ハ倒産申渡ノ後倒産者ニ向テ爲シタル支拂等ヲシテ法律上無効ナラシムルノ効力ヲ有スルモノニアラス此無効ヤ既ニ倒産申渡ニ因テ自カラ生ス(第千三十九條)此差押ハ唯タ警備處分ニ屬スルノミニシテ獨リ管理人ニ支拂フヘキ督促ヲ公告シテ成ルタケ倒産者ニ支拂フ等ノコト實際生セシメサルニ在リ(ザルウエ)第五百十八葉獨逸倒産法第百八條)若シ夫レ倒産申渡中ニ差押處分ヲ掲ケサルモ倒産者ニ向ヒ

支拂ヲ爲スヘカラサルノ義務ヲ變スルコトナキハ封印ナキモ倒産者其物品ヲ處分スルヲ得サルニ同シ  
 別取權利者ニ係ル規則ヲ設ケタルハ充分ノ辨償ヲ受ケスシテ其質物ヲ倒産品中ニ還與スルコト該權利者ノ義務ニ非サルヲ以テナリ然レ  
 此該權利者亦タ届出ノ義務アリ是レ管理人ヲシテ第千五十條ニ依テ質物ヲ受戻スノ權利ヲ施行スルヲ得セシメン爲メナリ又該權利者ハ質物ノ評價ヲ爲スコトヲ管理人ニ許サ、ルヘカラス是レ其受戻ノ權利ヲ施行スヘキヤ否ヤ將タ其物品ノ賣得金ノ餘裕アルヲ期シ得ヘキヤ否ヤヲ判定スルヲ得セシメンカ爲メナリ(獨逸倒産法第百十條)  
 書狀等ニ係ル規則ハ他ノ諸國法律ニモ掲ル所ニシテ郵便局等ハ特別ノ法律若クハ條例ニ依リ其受戻タル送達物ヲ必ス名宛人ニ引渡スヘキ義務アルヲ以テ此規則ヲ必要トス(千八百七十一年十月廿八日ノ獨

逸郵便法第五條千八百七十二年六月廿一日ノ獨逸電信條例第三條)即チ此規則ハ倒産處分中右ノ義務ヲ停止スル者ナリ(獨逸倒産法第百十一條佛國商法第四百七十一條白國商法第四百七十八條千八百六十九年ノ英國法律第八十五條)獨逸英國ノ法律ニハ之ニ就キ郵便局等ニ特別ノ通知ヲ爲スヘキコトヲ定ム是レ警備處分上大ニ宜シキヲ得タルモノニシテ郵便局等ノ其管下ニ相當ノ訓令ヲ下スハ勝手タリ抑モ本條ノ規則ハ總テ倒産者ノ受取ルヘキ送達物ニ適用スルモノニシテ直接ニ倒産者ヲ以テ名宛トシタルト他人ノ名宛ヲ以テシタルト隱語ヲ用ヒタルト留置郵便ナルトニ差アルコト又其場所付ケノ如何ンヲモ問フ所ニ非ラス(ザルウエー)第五百二十三條)而シテ郵便局ニ令ヲ下スニ全体ニ於テスルト個々ノ送達物ニ就テ然ルトハ倒産裁判所ノ隨意タリ

## 第一千六十二條

倒産主任官ハ倒産者及ヒ其家族ニ倒産品ヨリ扶助料ヲ許與スルコトヲ得

此規則ハ諸國ノ法律ニモ掲ル所ニシテ(佛國商法第四百七十四條白國商法第四百七十六條獨逸倒産法第一百八條千八百六十九年ノ英國法律第三十八條)獨逸及ヒ英國ノ法律ニ依レハ管理人ニ(裁判所ノ許可ヲ經テ)此許與ノ權アリ後日ニ至テハ債主集會ニ此權アリ此扶助料ヲ與フルコトハ行政上ノ處置ニモアラス債主ノ隨意ニ出テタル放捨ニモ非ス第一千五十六條ニ掲ケタル諸物品ト同シク債主ノ要求ヲ制限セサル可ラサル實際上ノ必要ニ出ツルモノナリ故ニ其許與ハ裁判所ノ權内ニ在ルヲ以テ當然トス而シテ此權ハ第一ニ倒産主任官之ヲ施行シ若シ該官之ヲ拒ミ或ハ過少若クハ過多ニ許與シタルトキハ裁判所ハ

之ニ就キ確定ノ裁判ヲ爲スモノトス而シテ負債者ノ此扶助料ヲ受ルハ事情ヲ問ハ然ルモノニアラスシテ自カラ營利ノ業ヲ執ル能ハス或ハ他ニ扶助ヲ受クルコト能ハサル困難ノ場合ニ限り然リ又其額ハ生活ヲ保ツニ必要ナルヲ以テ限トス

本條ノ規則ハ元來倒産品ノ爲メニスル警備處分ニ係ルモノニアラス然レモ此ニ之ヲ掲クルハ便宜ニ出ツ何トナレハ人情ノ點ヨリシテ倒産者ノ生存ヲ保全セシメサル可ラス又前條々ノ警備處分ノ爲メニ事實上ニモ法律上ニモ倒産者生存ノ料ヲ奪却シタレハナリ

第五卷 倒産品ノ管理及賣却

第一千六十三條

司法卿ハ裁判所其商業會議所アル地ニハ又商業會議所ノ推薦ニ依リ裁判區毎ニ必要ノ人員ヲ限リテ官任ノ鑑定人ヲ置ク管理人ハ通例其人員中ヨリ任スヘシ其任期ハ五年トス任期満ルトキハ復任スルコトヲ得又何時タリモ其解任スルコト得若シ復任セラレサルモ既ニ着手シタル管理ハ之ヲ終結スルノ義務アリ

倒産申渡ヲ以テスル管理人ノ任命及ヒ此點ニ就テ存スル方法ノ異同ハ既ニ第一千卅六條ノ説明ニ於テ汎論シタリ今ヤ本卷ハ管理人ノ任命其法律上ノ資格及ヒ其權利義務ノ詳細ニ渉ルモノニシテ遞次ニ假管

理人眞管理人等ヲ命シ且之ヲ再々解任スルヲ得ル舊法制(佛國商法ニ於テモ又千八百三十八年ノ法律ニ於テモ然リ)ヲ採ラスシテ初メ任シタル管理人ハ直ニ眞管理人タルヘシトスル至近ノ法律ニ倣フタリ(白國商法第四百六十二條)蓋シ此管理人モ後見人或ハ官ヨリ任セラル、財産管理人ニ於ルト同シク不能力不正實及ヒ都テ罪過アルニ方テハ何時タリトモ其職ヲ罷メラルヘキハ言テ俟タサル所ニシテ是レ管理人ハ代人ト同シキ責任アルヨリ自カラ然ルモノナリ(第千六十五條)獨逸倒産法ニ於テモ最初ノ管理人ノ任命ハ確定ノモノトス何トナレハ債主後ニ至リテ他ノ管理人ヲ推薦スルモ裁判所其任命ヲ拒ムノ權アリ此場合ニ於テハ最初ノ管理人其職ニ留マレハナリ(獨逸倒産法第七十條第七十二條)ザルウニ「第三百五十九條」又成ルタケ債主中ヨリ管理人ヲ撰フヘシトスル舊主義モ本案之レヲ採ラス此主義ハ倒産品管

理ノ權元來債主ニアリ管理人ハ以テ債主ノ代人ト視ルヘシトノ誤認ヨリ生シタル所コソ(千八百六十九年ノ英國法律第十四條以下)實際ニ適セス且奇巧ニ過キ唯ダ全財産ヲ一債主ニ委ネ會計及ヒ諸債主要求ノ檢査等ヲ之ニ放任スルノ危險アルニ止マラス倒産ノ地ニ在ル債主ヲシテ或ハ遠地ニ在ル他方ノ債主ノ損失トナルヘキ不平均ノ威權ヲ行ナハシムルノ弊アリ若シ此弊ヲ矯メントセハ更ニ管理人監査ノ爲メ債主總代及ヒ債主集會ヲ居カサル可ラス而シテ管理ノ事務ハ之カ爲メ鄭重煩雜ナルニ至ル(千八百六十九年ノ英國法律第十四條)獨逸倒産法第七十九條以下)是ニ於テ管理人ヲ以テ債主ノ代人トセス裁判所ノ代人トナスノ主義ヲ確守スルニ於テハ行政上ヨリ出テタル自治政ノ思想ニ原因シタル右ノ牽強ノ制ハ皆ナ無用誤謬ノ者タルコトヲ認メ得ヘク又英國及ヒ米國ノ法律ニ於ケルカ如ク倒産主任官ト管理人



トノ兩職務ヲ混同スルハ宜シキニ非ラサルナリ夫レ倒産主任官ハ主  
トシテ法律ノ點ヲ擔任シ裁判官タルノ威權ヲ有シ裁判ヲ下ス管理人  
ハ唯々會計上ノ職務ヲ掌トリ一モ裁判ヲ下スヲ得ス重要ノ事件ニ就  
テハ皆倒産主任官ノ監督ヲ受ケサルヘカラス蓋シ倒産主任官ハ既ニ  
裁判官ニシテ會計ノ事務ヲ執ルノ時ト能トチ有セサルカ故ニ債主ノ  
眞管理人ヲ撰舉スルマテ財産ノ管理ハ之ヲ休廢セサルヲ得ス或ハ官  
吏ノ失擧ノ爲メニ煩ハサル、コトアルノ憂アリ管理人ノ職掌ハ之ヲ  
後見人其他財産管理人(例ヘハ不在者或ハ浪費者等ノ爲メニ置クモノ  
、如キ)ノ職掌ト比較セハ容易ニ了解スルヲ得ヘシ今ヤ倒産者ハ倒産  
ニ依リ財産管理ノ能力ヲ失フタルヲ以テ裁判所ヨリ其財産ノ管理人  
ヲ置ク是レ則チ倒産品管理人ニシテ此人ニシテ商業取引上ノ智識經  
験ヲ有シ其他品行正シク且力量アリ以テ貧ナラサルニ於テハ其管理

ノ任ヲ執ル最モ善ナルヘシ法律上ノ智識アレハ便宜ナリト雖モ必ス  
シモ缺クヘカラサルニ非ラス故ニ米國(千八百三十七年ノ法律)ニ於ケ  
ルカ如ク專ラ之ヲ代理人中ヨリ採ルハ必要ニ非ラス又獨逸ニ於テモ  
此ノ如キ常職ノ管理人アリ(ウヰルモウスキ)第二百五葉註一)本案ハ  
裁判所ニテ管理人ヲ任命スルコトニ就キ唯々其技能ノ官認ヲ要スル  
ノ外別ニ限制ヲ立テス此官認ノ方法ハ裁判所及ヒ商業會議所ノ推薦  
ニ從ヒ司法卿ヨリ裁判區毎ニ撰任スルニ在リ是ヲ以テ倒産管理人ハ  
公共鑑定人糶賣人及ヒ商業仲立人等ノ如ク特別ノ職業者タルヘク又  
同時ニ代言人若クハ常業商人タルモ妨ケナシト雖モ是レ必要ニアラ  
ス而シテ一人ニシテ同時ニ數個ノ倒産管理ヲ擔當シ以テ之ヲ專業ト  
爲スモ勝手タリ以テ管理人ヲ採ルニハ此ノ如キ常職者ヨリスルヲ通  
例トシ但タ官任ノ者不足シ或ハ倒産者ノ親族ナル等ノ故ヲ以テ嫌疑

ヲ居クヘキトキハ例外ヲ立テ、可ナリ此規則ハ殊ニ白國商法第四百五十五條以下ニ掲クルモノニシテ佛國ノ法律學上ニテモ嘉贊スル所ナリ(デラワール)第五冊第九十二葉)

管理人ノ職タル其責任頗ル大ナルカ故ニ不適當ノ人物ハ其職業ヨリ遠サケ以テ管理人ナシテ充分其義務ヲ盡スノ念ヲ保タシムルコトヲ經畫セサルヘカラス故ニ其任命ヲ五年トシタリ(白國商法第四百五十八條)然レモ之カ爲メニ既ニ着手ノ管理事務ハ之ヲ續行シテ決局ニ至ラシムルヲ妨クルニ非ラス又管理人ハ他ノ財産管理人ト同シク不能力、不正直等ノ廉ヲ以テ其職ヲ罷メラルヘキハ無論ニシテ是レ其代人タルノ地位ヨリシテ自カラ然ル所トス

### 第一千六十四條

管理人ニ與フル報酬ハ倒産品ヨリ最初ニ支辨ス其額ハ

司法卿ノ令シタル比率ニ依リ倒産裁判所之ヲ定ム

管理人ノ無報酬ニテ其事務ヲ執ルコトハ望ムヘカラス以テ此報酬ハ倒産處分費用ノ一部ニシテ裁判費用其他事務上ノ費用ト同シク倒産品ヨリ初メニ扣除セサルヘカラス何トナレハ其勤勞ヤ債主總体ノ爲メニスルモノナレハナリ而シテ此報酬ノ額ニ就テハ代言人ノ手数料ニ於ケル如ク司法省ノ令ヲ以テ畫一ノ比率ヲ定ムルヲ以テ便宜トス(白國商法第四百六十一條佛國商法第四百六十二條獨逸倒産法第七十七條千八百六十九年ノ英國法律第二十九條西國商法第千七十八條)

### 第一千六十五條

裁判所ハ何時ニテモ管理人ヲ代ヘ若クハ別ニ他ノ管理人ヲ居クヲ得

本條ノ規則ハ既ニ說明シタルカ如ク管理人ノ代人タルノ資格ヲ有ス

ルモノニシテ代人權ハ之ヲ取消シ或ハ變更スルコトヲ得ルヨリ出テ  
 タリ然レモ裁判所ハ之ヲ恣ニ罷免スルヲ能ハス必スヤ充分ノ理由ア  
 ルニ出テサル可カラス特別ノ審判ハ爲メニ必要トスルニ非ラズ又白  
 國商法ニ定メタルカ如ク法式的ノ判決ヲ下スチ須ヒス倒産主任官或  
 ハ債主或ハ又倒産者ヨリノ充分理由アル請求アレハ乃チ足ル以テ管  
 理人其職ヲ濫用シ或ハ之ニ堪エサルカ如キトキハ罷免スルヲ得ヘキ  
 ナリ(佛國商法第四百六十七條白國商法第四百六十二條獨逸倒産法第  
 七十六條獨逸倒産法ニ於テ債主集會若クハ債主總代ノ請求アルトキ  
 ニ之ヲ限ルハ其宜チ得タルモノニアラサルナリ)千八百六十九年ノ英  
 國法律第八十三條第四項而シテ管理人ハ代人タルカ故ニ計算ヲ立テ  
 サルヘカラス又事情ニ依テハ賠償要求ニ應セサルヘカラス獨逸倒産  
 法ニ依レハ管理人ニモ保證ヲ差出サシムルコトヲ得然レモ是レ實際

ニ適セス殊ニ官ヨリ命セラレタル鑑定人ニ在テ必要トスルモノニ非  
 サルナリ(獨逸倒産法第七十條及ヒ第七十八條)

### 第一千六十六條

管理人ハ其行爲ニ就キ代人ト同一ノ責任アリ若シ管理  
 人數名アルトキハ共同シテ事ヲ執ルヘシ但倒産主任官  
 ヨリ個々事務ノ爲メニ特別ノ任ヲ與ヘタルトキハ此限  
 ニ非ス

是レ佛國商法第四百六十五條及ヒ千八百六十九年ノ英國法律第八十  
 三條第一項ニ掲ク但ク獨逸倒産法第七十一條ハ之ト異ニシテ數名ノ  
 管理人ヲ命スルハ其事務ノ分派ニ充テ以テ各其分任ノ事務ヲ獨擔ス  
 其補助ノ爲メ補助役ヲ居クモ獨立ノ責任アルニ非ラス(ウヰルモウス

キ一]第二百六葉然に總理代人及ヒ商社ノ決算人ノ例ニ準シテ之ニ連帶責任ヲ負ハシムルハ便宜ナルニ似タリ(第四十五條)

## 第一千六十七條

管理人ハ倒産申渡ノ後直ニ倒産品ヲ引取り其管理及ヒ賣却ニ着手スヘシ

管理人ハ倒産者ニ補助ヲ請求スルコトヲ得但倒産主任官ハ之カ爲メ倒産者ニ報酬ヲ許與スルコトヲ得

本條ハ管理人ノ倒産品ニ就テ有スル職務ノ大要ヲ掲ケタリ夫レ倒産者ノ自己ノ財産ヲ管理處分スルノ權利ヲ失フハ第一千三十九條ニ從ヒ倒産申渡ニ依リ自然ニ生スルノ結果ナリ且法律ニ依リ倒産者ハ其財産ノ現有權ヲ失ヒ之ヲ官ノ封印スル所ト爲シ以テ本人ハ勿論他人ト

雖モ之ニ觸レ債主ニ損失ヲ蒙ラシムルコトヲ防ク又倒産申渡ト同時ハ管理人ヲ命シ管理人ハ遲滯ナク其職務ヲ執リ第一千六十條ニ定メタルカ如ク倒産品ノ封印放解及ヒ目錄調製ト共ニ財産ヲ引取ルヲ以テ財産目錄ノ調製ナクシテ其財産ヲ引取ルハ許サ、ル所ニシテ財産目錄ノ調製ハ封印ヲ續々解除スルニ非サレハ爲シ得ヘキコトニ非ス故ニ封印ハ概テ久シキニ涉ラス佛國商法ハ之ヲ三日トセリ本案ハ此ノ如キ期限ヲ定メス故ニ或ハ之ヨリモ短キコトアリ或ハ稀レニ之ヨリ長キコトアルヘシ以テ此ニ定ムル所ハ唯タ倒産申渡ノ後直ニ其職務ニ就クヘシト云フニ止マル蓋シ管理人ノ其職務ヲ執ルマテニハ多少ノ時日アルヘシト雖モ都テ理由ナキノ遲滯コ付テハ責任ニ當ラサルヘカラス故ニ事情ニ由リテハ或ハ罷免セラル、ニ至ルヘキナリ今ヤ管理人ノ倒産品ヲ管理スルヤ後見人ノ如ク後ニ之ヲ倒産者ニ還付セン

カ爲メニスルニ非ラス其目的タル唯タ債主ノ要求ニ充ルコ在リ故ニ其要務ハ倒産品ヲ賣却シテ之ヲ現金トナシ諸債主ニ分配スルニ在リ是ヲ以テ管理人ノ爲シ得ヘキ行爲ハ此賣却ノ目的ヲ達スルニ必要ナルモノニ限り恰モ倒産者ノ倒産セサリシトキ爲スヘキカ如ク永遠ニ事ヲ執ルヘカラス其詳細ニ至テハ第一千七十一條ニ掲ク蓋シ倒産者ハ概テ商人タルヘキカ故ニ其財産大抵金匣中ノ現金ノ外爲替等ノ債券及ヒ商品并ニ店舗商業上ノ諸器具ヲ以テ成ル此ノ如キモノハ可及的速ニ賣拂ハサルヘカラス以テ其取引ハ其賣拂ノ終ル迄ヲ以テ限トシ雇入ノ勞役者ハ事情ニ依リ損失ナクシテ製造ヲ止メ得ヘキトキマテ之ヲ使用スルコトアリ又既ニ受負ヒタル注文モ成ルヘクンハ之ヲ實行シ且倒産品ノ利益トナラハ新タニ注文ニ應スルモ妨ケナシ(佛國商法第四百八十四條獨逸倒産法第一百七條白國商法第四百九十一條千八

## 百六十九年ノ英國法律第十七條

倒産者ヲ以テ管理人ノ補助トスルハ管ニ管理人ノ職務ヲ輕クセン爲メニ止マラス併セテ倒産者及ヒ債主ノ利益トモナル何トナレハ依テ以テ倒産品ノ損失ヲ避ケ得ルコトアレハナリ夫レ倒産者ハ自己ノ取引ノ形狀及ヒ委曲ヲ知り最モ其辨解ヲ爲スニ適シ事及言ヲ以テ管理人ヲ贊ケ殊ニ當初百事ヲ調査スルトキニハ最モ之ヲ必要トス故ニ倒産者ノ戮力ハ他國ノ法律ニ於テモ皆許ス處ナリ然レモ是レ管理人ノ請求アルトキニ限ル其意ニ反シテ倒産者ノ干渉スルハ許ス所ニ非ラス何トナレハ之カ爲メ倒産申渡ノ効力空ニ歸スルコト容易ナレハナリ(佛國商法第四百八十八條白國商法第四百九十三條千八百六十九年ノ英國法律第十九條及ヒ第三十八條獨逸倒産法第九十二條ニ依レハ倒産者ハ唯タ辨解ヲ與フルノ義務アリテ勞務ヲ執ルノ義務ナシ然レ

是レ充分トセサルコト多ク之ニ一層ノ義務ヲ付スルモ不正ニ非ラ  
ス何トナレハ之ニ應當ノ報酬ヲ與フレハナリ

## 第一千六十八條

管理人ハ倒産主任官ノ監視ヲ受ケ其指揮ニ從フノ義務  
アリ管理人ノ行爲若クハ決斷ニ對スル故障申立ハ倒産  
主任官之ヲ裁斷ス此裁斷ハ假執行スヘキモノトス

是レ佛國商法第四百五十二條第四百六十六條白國商法第四百六十三  
條第四百七十條獨逸倒産法第七十五條千八百六十九年ノ英國法律第  
二十五條ニ掲ク獨逸英國ノ法律ニハ管理人ヲシテ併テ債主總代ノ監  
視ヲ受シム然レモ管理人ニ直接ノ指揮ヲ爲スノ權ヲ債主ニ與フルハ  
其當ニ非ス况ヤ該法律ニ於テモ管理人ノ債主ノ議決ヲ施行スルヲ禁  
スルノ權裁判所ニ在ルニ於テヤ(獨逸倒産法第九十一條)債主ニシテ

管理人ノ管理事務ヲ止メ或ハ其事務ヲ爲サシメント欲セハ宜シク其  
旨ヲ倒産主任官ニ申立ヘシ止ヲ得サレハ裁判所ニ申立ツ可キナリ倒  
産者ニ於テモ亦然リ要スルニ管理人ノ行爲ニ對スル故障ハ之ヲ倒産  
主任官ニ申立テ該官ノ裁斷ニ對シハ再ヒ裁判所ニ故障ヲ申立ルヲ得  
ルナリ此監視ノ權ハ倒産主任官或ハ裁判所ニ存セサルヘカラス何ト  
ナレハ管理人ヲ罷免スルノ權亦タ裁判所ニ在レハナリ(ブラワール)第  
五冊第三百四葉以下)

監視ハ管理人ノ義務ヲ怠ル等總テ債主及ヒ倒産者ニ不利益ヲ來スノ  
措爲アルヲ防ク爲メニ必要ナリ故ニ此監視ハ獨リ其管理ノ法律ニ適  
スルヤ否ヤノ點ニ係ルニ止マラス併セテ便益ノ點ニ渉ル(ウヰルモウ  
スキ)第二百八葉)又倒産主任官ハ管理人ヲ要シテ某管理事務ヲ施サ  
シムルヲ得ルハ勿論ナリ何トナレハ管理人ハ裁判所ノ受托者ニシテ

其委託者ノ指揮ニ從ハサルヲ得サレハナリ然レモ管理人亦必要ト認  
レハ倒産主任官ノ處斷ニ對シ裁判所ニ故障ヲ申立ルヲ得ルナリ

## 第千六十九條

財産目録ハ裁判所職員或ハ其地警察官ノ面前ニ於テ管  
理人之ヲ調製シ必要アレハ倒産者ヲ立會ハシメ總テ倒  
産者ニ屬スル財産ハ假令ヒ倒産品ニ組入ルヘカラサル  
モノト雖モ之ヲ記載シ其價額ヲ附記ス但必要ノトキハ  
鑑定人ヲ以テ其價額ヲ評定スヘシ  
物權若クハ人權ニ基キ倒産者ニ屬セサル物品ヲ倒産品  
ヨリ分別スルコトニ係ル爭論ハ倒産裁判所之ヲ裁判ス但  
不動産ニ係ルモノハ其不動産所在地ノ裁判所之ヲ裁判

ス

財産目録及ヒ財産目録調製ノ際ニ作りタル筆記ハ各一  
通ノ謄本ヲ作り其公證ヲ爲シテ裁判所ニ備ヘ置キ公衆  
ノ展閱ニ供ス

前條マテハ管理人權利義務ニ就キ一般ニ涉リテ定メタリ本條以下ハ  
其個々ノ事ニ涉ル今ヤ管理人ノ第一ニ爲スヘキコトハ倒産者ノ財産ヲ  
財産目録ニ載スルコト是レナリ此財産目録ハ倒産品ノ現在額ヲ細定セ  
ンカ爲メニ必要ニシテ併テ管理人ノ責任ニ其基礎ヲ得セシムルノ用  
アリ財産目録ノ調製ハ綿密完全ナルヲ得セシメ管理人ノ倒産品ヲ私  
スルカ如キコトナランカ爲メ官吏ノ面前ニ於テ爲スヘキナリ此官吏  
ハ倒産主任官タルモ他ノ裁判所職員(例ヘハ書記或ハ判事試補等)タル  
モ妨ケナシ鄉村其他裁判所ノ官吏ヲ得サル地ニ於テハ其地警察官ノ

面前ニ於テスヘシ倒産者ノ立會ハ其事務ヲ輕クシ或ハ掛ラシムル爲メニ利アル甚タ多シ然レモ倒産者逃亡シ或ハ倒産品太甚タ僅少ナル等ノ事情アラハ立會ナキモ妨ケナシ鑑定人ヲ徵スルハ管理人確カニ財産ノ價額ヲ鑑定スルコト能ハサルトキニ於テス財産目録ニハ總テ倒産者現有ノ財産ヲ載セサルヘカラス其倒産者ニ放與スヘキモノト雖モ亦タ然リ是精細ノ證明ニ供センカ爲メナリ佛國ニ於テハ財産目録ノ調製ヲ治安裁判官ノ面前ニ於テスヘキモノト爲シ獨逸ニ於テハ管理人ノ請求アレハ裁判所ノ許可ニ依リ官吏ヲ立會ハサラシムルコトヲ得然レモ是レ財産目録調製ノ必要ナラサルカ如キ特別ノ場合ニ於テ許スヘキモノトス例ヘハ其財産目録ヲ作りタルノ日猶淺ク或ハ信認スヘキ目録存スルトキノ如キ是レナリ此第二例ノ例外ハ獨逸倒産法ニ於テ(無用ニモ)負債者ノ財産ニ係ル一般ノ目録ト財産目録トヲ

區別スルヨリ出テタルモノニシテ本案ハ之ヲ採ラス况ンヤ獨逸倒産法第百十四條ニ於テハ財産目録ト貸方借方比較表ヲ調製スルヲ管理人ノ義務トシタルニ於テチヤ財産目録ノ調製ハ成ヘク間斷ナク終了セサル可ラス若シ一日内ニ終了スルコト能ハスンハ翌日直ニ續成スヘシ此調製ニ就テハ總テ裁判上ノ處置ニ於テ然ル如ク筆記ヲ作り其際ニ生シタル事實及ヒ陳述等ヲ載スヘキナリ此筆記ト財産目録ノ謄本ハ倒産關係人就中債主ヲシテ倒産品ノ現況ヲ詳知シ以テ自ラ決斷スル所アラシメンカ爲メ公然ノ展閱ニ供スヘシ(佛國商法第四百八十條白國商法第四百八十八條第四百八十九條獨逸倒産法第百十三條第百十四條)

財産目録調製ノ際倒産者ノ所屬ニ非サル物件アラハ其所有者ノ請求ニ應シテ之ヲ引渡サ、ル可ラス之ニ反シ倒産者ニ屬スル物件他人ノ



手ニアルモノハ之ヲ取返スヘシ若シ之ニ就キ爭論ヲ生セハ裁判所ノ判決ヲ受クヘシ今此ニ論スル所ハ所有權ノ倒産者ニ歸スル特別ノ物件ニ就キ倒産者ニ對スル人權上ノ要求ニ關セス此ノ如キ要求ハ他ノ倒産上ノ要求ト同シク之ヲ申立テ割前辨償ニ與カルヘキモノトス乃チ本條ノ定ムル所ハ倒産者ノ所屬ニ非サルカ爲メニ債主ノ辨償ニ供スヘカラサル物件ノ要求ニ係ル者ニシテ其場合ノ最モ多キハ所有者其所有權ニ藉リ倒産者ヨリ物品ヲ取戻スコトニ係ル然レモ「セルウ非チユートン」(地役ト譯スルモノ多シ然レモ當ラサルカ故ニ姑且ク原語テ用ユ)收穫所得權等ノ如キ物權ニ基ク要求ニ止マラス或ハ又保管、貸付、委托等ノ如キ人權上ノ要求亦タ此ニ算ス若夫レ倒産シタル仲買人ニ對シ囑托者ヨリ其所有權ヲ執行シ得ルノ程度ハ商事ニ在テハ第五百二十九條及ヒ第五百三十條ニ從フテ論スヘキナリ又第六百三十條

以下ニ定メタル差留權モ倒産ノ場合ニ適用スヘシ而シテ總テ權利者ハ唯タ其時ノ形狀ニ從ヒ倒産品ニ就テ其物件ヲ要求スルコトヲ得若シ損害要償アラハ倒産上ノ要求トシテ之ヲ申立ルコトヲ得(獨逸倒産法第三十五條「ウキルモウスキ」第三百一葉以下佛國商法第五百七十四條以下「ブラワール」第五百十二葉以下白國商法第五百六十六條以下)佛國其他ノ法律ニ依レハ取戻(分別)トノ表題ヲ以テ別ニ右事件ノ事ヲ論ス(佛國商法第五百七十四條乃至第五百七十九條白國商法第五百六十六條乃至第五百七十二條獨逸倒産法第三十五條乃至第三十八條)然レモ差留權ニ就テハ本案既ニ細定シタリ(第六百三十三條乃至第六百四十條)其他此ニ屬スヘキ一二ノ問題殊ニ仲買人ト囑托者トノ關係ノ如キハ第五百二十九條第五百三十條及ヒ第五百三十四條ニ論シ未ダ履行セサリシ雙務契約ニ於テ雙方解約ノ權利ハ第一千四十七條ニ掲

ケタリ故ニ此ニハ唯倒産者ニ屬セサル物件ヲ其債主ノ辨償ニ供スヘ  
 カラス人皆其所有ノ物件ヲ別ニ倒産品ヨリ要求シ必スシモ一般ノ債  
 主ト同一ノ割合ニテ辨償ヲ受ルニ止マラストノ普通原則ヲ示セハ以  
 テ足レリトスルナリ

此分別ト別取トハ嚴ニ區別セサルヘカラス分別スヘキ物件ハ倒産者  
 ニ非サル人ニ抑モ之ヲ倒産品中ニ組入ルヘカラス別取スヘキ物件ハ  
 倒産者ニ屬スルモノニシテ別取權利者一般倒産品ヨリ辨償ヲ受ケ或  
 ハ辨償ノ後猶剩餘アルトキハ以テ一般債主ノ辨償ニ供スヘキナリ且  
 別取權利者ハ倒産處分ニ參與スルコト多シト雖モ他ノ所有者ハ敢テ  
 然ラサルナリ

英國ノ法律(千八百六十九年ノ法律第十五條第五項)ニ於テハ外見所有  
 權(レプユータット、チワナシフ)ト云フノ主義ヲ立テ分別權ニ制限ヲ加

ヘ眞所有者ノ意或ハ許諾ヲ以テ動産ヲ現有處分スルノ權アル者ハ所  
 有者ヲ以テ之ヲ論ス故ニ例ヘハ賣却ノ爲メ仲買人ニ商品ヲ托シタル  
 ニ仲買人倒産シタルモ之ヲ取戻スヲ得ス佛國及獨逸ノ法律ニ至テ  
 ハ其原則ヲ異ニシ本案亦タ然リ本案ニ依レハ仲買人自己ノ計算ヲ以  
 テ委託ヲ引受ケタル場合ニ限り取戻ヲ禁ス(第五百廿九條第五百卅條  
 佛國商法第五百七十五條白國商法第五百六十七條「ウキルモウスキ」  
 第百卅四條D、C)蓋シ英法ハ眞所有者ノ許諾ヲ以テ自ラ所有者タルノ  
 地位ニ立ツ者ヲ外部ヨリ容易ニ眞所有者ト鑑別シ能ハサルノ一點ヨ  
 リ論スレハ實際上ニ適フ者トス然レモ商人ト取引ヲ約スル者ハ其商  
 人ノ果シテ眞所有者タルカ將タ仲買人タルカヲ認識スルコト通常ナ  
 リ且之ヲ明ニ告知スルコト亦多シ加之英國ノ法律ニ於テハ例外ヲ立  
 テサルヘカラス場合甚タ多シ何トナレハ此假定ノ主義ハ權宜ヲ失

フコ多キニ至リ殊ニ右ニ論シタル仲買人ノ場合ニ於テ最モ然ラサル  
 ナ得サレハナリ(スミス[商法第六百五十九條以下]蓋シ右ノ主義ハ此例  
 外ノ爲メ頗ル破却セラレ適用シ得ルノ場合甚タ少ナシ是ヲ以テ債主  
 ト他ノ所有者トノ間ニ矛盾ヲ生シタルトキハ宜シク其眞ノ權利ニ從  
 ヒ斷スヘク假有ノ權利ヲ以テ判スヘカラサルヲ以テ至當トス

## 第一千七十條

管理人ハ三十日內ニ於テ倒産主任官ノ定ムル期限中倒  
 産者ヨリ差出シタル届出及貸方借方比較表ヲ審査スヘ  
 シ若シ倒産者ヨリ之ヲ差出サ、ルトキハ自カラ之ヲ調  
 製スヘシ此比較表ハ報告書ヲ添ヘテ倒産主任官ニ差出  
 シ共ニ其謄本ヲ作り之ニ公認ヲ爲シ裁判所ニ於テ公衆

## ノ展閱ニ供スヘシ

次ニ管理人ノ爲スヘキコトハ貸方借方比較表ノ調製若クハ審査トス  
 (佛國商法第四百七十六條白國商法第四百九十四條獨逸倒産法第一百  
 四條)此比較表ハ帳簿書類或ハ倒産者ノ答辨ニ由リ豫メ調査シ得ヘキ  
 モノニ限リ總テ貸方借方ヲ記列對照スルモノニシテ倒産者ノ財産ヲ  
 以テ債主ニ辨償シ得ヘキヤ將ク辨償シ得ヘキ程度如何ヲ表示セサル  
 ヘカラス之ニ添ユル報告書ハ倒産ノ原因及ヒ事情ヲ示ス者ニシテ殊  
 ニ其倒産果シテ倒産者ノ罪ニ出テタル歟變故ノ爲ス所ナリシ歟其倒  
 産得テ以テ免ルヘキ者ナリシ歟倒産者ハ商業上ノ規矩ニ依リ其業ヲ  
 執リタル歟帳簿ノ記載其秩序ヲ得タル歟輕慢ナル浪費ヲ以テ其財産  
 ヲ散糜シタルニ非サル歟投機ヲ以テ失敗シタルニ非サル歟過重ノ負  
 債存スル歟刑法ニ觸ル、ノ行爲アルニ非サル歟等即チ是レナリ若シ

刑法ニ觸ル、ノ行爲アルニ於テハ其報告書ニ據リ直ニ刑事ノ處分ニ着手セサルヘカラス是レ倒産主任官ノ擔任スヘキ所ナリ故ニ管理人ノ報告ハ先ツ倒産主任官ニ差出スヘシ然レモ債主亦比較表ヲ閱覽シ且倒産ノ細事情ヲ知ルコトニ利害ヲ有スルカ故ニ公然ノ展閱ニ供スルノ道ヲ開カサルヘカラス白國商法ニ於テハ管理人ノ右ノ職務ヲ終ルノ期限ヲ十五日ト爲ス然レモ是レ短ニ過ルノ場合尠シトセス故ニ卅日ヲ以テ最上限ト爲セリ

若シ或ハ倒産者既ニ死亡シタルトキハ其相續人及ヒ家族ヲ招喚シテ細事情ヲ訊問スルヲ得ヘシ(佛國商法第四百七十八條白國商法第四百九十條「ブラワール」第五冊第三百十八葉)

貸方借方比較表ハ第千三十五條ノ規則ニ依リ調製スヘシ故ニ毎年ノ損耗高、利益高及ヒ家事ノ費用ヲ掲クル欄ヲ設ケサル可カラズ家事ノ

費用ヲ掲クルハ殊ニ倒産ノ原因ト事情ヲ明ニスルノ用アリ其貸方ノ欄ニハ現金、商品、製造品、機械其他營業用ノ器具爲替其他證券等ノ諸要求及不動産ヲ掲クヘシ(「ブラワール」第五冊第四十五葉以下)

### 第千七十一條

貸方ニシテ借方ニ超ユルコト判然シタルトキ或ハ和解ノ見込アルトキハ裁判所ハ倒産主任官ノ申立ニ隨ヒ且管理人ノ意見ヲ聞キタル後倒産者ノ其營業ヲ續行スルコトヲ許スヲ得但此場合ニ於テ尋常ノ營業外ニ倒産品ヲ賣却スルコトハ倒産主任官ノ認可ヲ經且倒産者ノ意見ヲ聞タル後ニ非サレハ之ヲ許サズ

是レ佛國商法第四百七十條第五百八十六條白國商法第四百七十四條

第四百七十五條獨逸倒産法第百十八條第百廿一條千八百六十九年ノ英國法律第廿六條ニ掲ク佛國法律ニ於テハ倒産主任官獨逸倒産法ニ於テハ債主ノ許諾ヲ要スルモノトス蓋シ營業ノ續行ハ倒産ノ爲メニ死シタル屋號再生スルノ一點ニ於テ倒産ノ効驗ヲ止メ或ハ停メ以テ倒産管理ノ尋常ノ目的ニ戻ルカ故ニ此ニ裁判所ノ許可ヲ要スヘキモノトスルハ其當ヲ得タルカ如シ然レモ此裁判所ノ許可ヲ大體ニ就テ與ヘタルトキハ其例外ト個々ノ賣却ヲ爲スニハ唯タ倒産主任官ノ許諾ヲ以テ充分トス即チ猶豫ナク賣拂ハサレハ倒産品ノ損失トナルヘキ物品ニ於ルカ如キ是レナリ其際倒産者ノ意見又々之ヲ問ハサル可ラス何トナレハ本條ノ事情ニ依リ再タヒ其營業ヲ全ク倒産者ニ還付スヘキニ至ルモ知ル可ラサルノ一點ヨリ論スレハ倒産者ノ所有物ヲ賣却スルニ同シケレハナリ然レモ是レ唯タ豫想ニ止マリ確

定不動ノコトニ非ラス故ニ倒産者ヲシテ其反對ノ意見ヲ述ルヲ得セシムレハ既ニ足レリ其許諾ヲ得ルハ必要ニ非サルナリ又本條ニ掲クル事由ナキモ營業(製造ノ如キ)ヲ續行スルコトヲ得ヘシト雖モ是レ現在物品ノ價直ヲ増サン爲メ或ハ既ニ受負フタル有利益ノ注文ヲ履行センカ爲メ等可及的倒産品ノ賣却ニ利益ヲ得ン爲メニスルヲ以テ限トス而シテ其可否ノ決ハ管理人ノ知ル所ニシテ爭論アルトキハ第一ニ倒産主任官結局ハ裁判所之ヲ斷スヘシ英國ノ法律ニ依レハ管理人ハ營業ノ續行ヲ倒産者ニ任スルコトヲ得然レモ是レ危虞ヲ免レサルノ規則ニシテ唯タ管理人ノ了見ヲ以テ倒産者ノ助力ヲ借ルコトヲ得ルニ止ムルヲ以テ至當トス

### 第一千七十二條

不動産ヲ賣拂フニハ豫メ評價ヲ爲シタル後公然ノ糶賣

ヲ爲シ又多ク時日ヲ隔テスシテ第二回ノ糶賣ヲ爲スヘシ若シ評價額ニ達セサルキハ第三回ノ糶賣ヲ爲シ此糶賣ニ於テハ必ス最高申込人ニ其物品ヲ賣拂フヘシ動産ハ糶賣ニ付スルヲ例トスレモ倒産主任官ノ許可ヲ經テ適宜賣拂フコトヲ得

本條ハ管理人ノ倒産品ヲ賣拂フノ方法如何ヲ定ムルモノニシテ通常ハ公然ノ糶賣ヲ用ヒサルヘカラス何トナレハ之ニ依リテ初メテ至高ノ價直ニ達スルヲ得ヘク且私ニ詐偽ノ約束ヲ爲スコトヲ防クニ足レハナリ動産ニ於テハ糶賣ニ依リ相應ノ價直ヲ得ヘカラサルノ事情マテハ倒産主任官ノ許可ヲ經テ之ヲ止ルヲ得裁判上ノ地所糶賣ノ法式ハ倒産處分外ニ於テスルモノト異ナル所ナシ故ニ佛國ニ於テハ未丁

年者ノ爲メニスル賣拂規則ヲ援用シ白國ニ於テハ千八百十六年六月十二日ノ法律ニ依ラシメ獨逸ニ於テハ訴訟法第七百五十五條乃至第七百五十七條ヲ爰ニ適用ス(千八百五十五年四月十八日ノ普魯西法律第卅一條以下千八百六十九年三月十五日ノ同國地所公賣法)本條ハ右手續ノ要點ヲ摘テ掲クル所ナリ糶賣ヲ爲スニハ夥多ノ時日ヲ隔テ、之ヲ公告シ其地所ノ略記ヲ添フヘシ其詳細及購買方法ニ至テハ買求者豫メ裁判所ニ就テ知ルヘシ數回ノ糶賣ヲ爲サシムルハ最高ノ直段ヲ得ン爲メニシテ特ニ評價額ニ下ルカ如キコトナカラシメン爲メナリ其購買方法ニハ如何ナル方法ニ依リ幾回ノ割拂ヲ以テ其代金ヲ納ムヘキヤヲモ定ムヘシ(佛國商法第五百七十一條乃至第五百七十三條白國商法第五百六十四條第五百六十五條獨逸倒産法第一百十六條)

### 第一千七十三條

管理人ハ總テ倒産品ニ屬スル倒産者ノ要求ヲ取立テ總テ倒産者ノ其負債者及其他ノ人ニ對スル權利ヲ取行保全スヘシ

訴訟ヲ爲シ和解或ハ仲裁ノ契約ヲ取結質物ヲ受戻シ要求ヲ賣却シ遺産相續或ハ贈遺物ヲ謝絶シ貸附ヲ受ケ地所ヲ購買シ權利ヲ棄捐シ及總テ倒産品ノ爲メニ新義務ヲ負擔スルコトニシテ其額百圓ニ下ラサルトキハ倒産者ノ意見ヲ問ヒ倒産主任官ノ許可ヲ經ルヲ要ス

右ノ外倒産品ヲ現金トナスコトニ屬スルモノハ倒産者ノ要求金ヲ取立ルコト是レナリ故ニ此事亦タ管理人ノ職務内ニ在リ又其諸權利ニ於テモ倒産品ノ爲メニ之ヲ執行保全スヘシ例ヘハ差押ヲ爲シ督促ヲ

以テ要求ノ期滿得免ニ至ルヲ防キ書入ヲ爲サシメ倒産者ノ負債者倒産シタルトキ倒産者ノ要求ヲ届出テ之ヲ實行シ爲替ノ拒證書ヲ作ル等即チ是ナリ(佛國商法第四百九十條白國商法第四百八十七條) 管理人ノ其事ヲ執ルニハ責任ヲ自己ニ負擔スルヲ常例トス故ニ第七十一條第七十二條ノ場合ニ於ル如キ特別ノ義務アルニ非サレハ其管理ノ諸事ニ就テ倒産主任官若クハ倒産裁判所ノ許可ヲ經ルヲ要セス然レモ本條ノ第二段ニ於テハ重大ノ管理事務ヲ掲ケ其事百圓以上ニ涉ルトキハ管理人之ヲ專斷スルヲ許サス是レ權利ノ棄捐或ハ新義務ノ負擔ヲ管理人一個ノ了見ニ任スル能ハサレハナリ(獨逸倒産法第百廿一條第百廿二條佛國商法第四百八十七條白國商法第四百九十二條)佛國白國ノ法律ニ依レハ獨リ和解ノ取結ヲ掲ク然レモ此原則ハ他ノ行爲ニシテ倒産品管理及賣却ノ職權中自然ニ包含セサルモノニ

施及スヘキヤ論ヲ俟タサルナリ

### 第一千七百四條

倒産品中ニ收入スル金額ハ管理上ノ常費ニ充ルモノヲ除キ直ニ之ヲ倒産裁判所ニ又倒産主任官ヨリ指定スル銀行ニ預クヘシ但倒産主任官ノ支拂命令アルニ非サレハ之ヲ支出スルヲ許サス

此規則ハ倒産品中ニ收入スル金額ヲ保全スルノ用アリ何トナレハ管理上ノ手裡ニ之ヲ放托セハ或ハ危険ナシトセサレハナリ(佛國商法第四百八十九條白國商法第四百七十九條第四百八十條獨逸例産法第一百八條第百廿條「ブラワール」第五冊第三百卅八葉以下)幾許ノ金額ヲ以テ管理上ノ常費ニ充ツヘキヤハ倒産主任官之ヲ定ムヘシ故ニ管理人

ハ必要ノ證明ヲ爲サ、ル可ラス金額ハ可及的有利的ニ預ケ置クヘシ但ク爲メニ損失ノ憂アラシメサルヲ要ス而シテ管理人若シ故ナクシテ金員ヲ預クルヲ怠ラハ爲メニ延滞利子ヲ支拂ハサル可ラス債主ニ之ヲ支拂フニハ倒産主任官ノ支拂命令ニ依リ其銀行直ニ之ヲ支拂フヲ得ヘシ佛國及白國ニ於テハ國立ノ預金所ニ之ヲ預クヘシト爲ス日本ニ於テモ布達ヲ以テ日本銀行ヲ預リ所ト定ムルヲ得ヘシ獨逸ニ於テハ裁判所假リニ其預クヘキ所ヲ定メ之ヲ確定スルハ債主集會ニ在リトス

### 第一千七百五條

管理人ハ其管理中倒産者ニ有罪ノ行爲アルコトヲ知り得タルトキハ之ヲ倒産主任官ニ届出テ倒産主任官ハ之



ヲ檢事局ニ移スヘシ、倒産申渡(第千卅六條)及第千七十條ニ掲ケタル報告ハ必ス檢事局ニ差出スヘシ又檢事局ハ如何ナル場合ニテモ官權ヲ以テ倒産者犯罪ノ有無ヲ搜查シ之カ爲メニ取引帳簿及ヒ其他書類ノ展檢ヲ要求シ及財産目録ノ調製ニ立會フコトヲ得

本條ハ倒産ノ際有罪ノ行爲アルトキニ其處刑ヲ脱スルカ如キコトナカラシムルモノナリ(佛國商法第四百五十九條第四百八十二條第四百八十三條白國商法第四百九十四條)

第千七十六條

倒産主任官ハ倒産ノ原因及ヒ事情ニ就キ貸方借方及其比較ニ就キ其他管理及ヒ倒産處分ニ關スル事件ニ就キ

十

訊問ヲ爲サン爲メ時ヲ擇ハス倒産者及其商業使用人雇人等ヲ呼出スコトヲ得

是レ佛國商法第四百七十七條及ヒ白國商法第四百八十五條ニ掲ク此規則ハ倒産主任官元來豫審判事ノ地位ニ在ラス且自己ノ最負ニ屬スル事件ニ就テ倒産者及其雇人ニ於テ證據ヲ立ルノ義務アルヤ否ヤノ疑惑ナキ能ハサルカ故ニ必要ナリ(ブラワール第五冊第三百廿七葉)此ニ倒産主任官ニ與ヘタル權利ハ獨リ倒産者犯罪ノ有無ヲ捜査スルカ爲メニ止マラス總テ倒産品ノ爲メ必要ナル證明ヲ得セシメンカ爲メナリ

第六卷 債主

第一款 要求ノ届出及ヒ認定

第一千七十七條

所在分明ナル債主ニハ調査日時及集會日時ヲ附記シタル特別ノ裁判所書狀ヲ以テシ其所在分明ナラサル者ニハ倒産申渡ノ公告ヲ以テシ倒産申渡ニ定メタル届出期限内ニ其債主ニ對スル要求ヲ倒産主任官ニ届出ルヲ督促スヘシ此届出ニハ權利起由及ヒ其要求金額ヲ記シ其別取權アル者ハ別取權又ハ先取權ヲ併記シ證據書類或ハ其謄本ヲ添フヘシ但届出ヲ爲サルモノハ倒産品

ノ配當ニ加ハルヲ得サルヲ并ニ他所ニ住スル者ハ裁判所々在地ニ代人ヲ立居クヲ併セ告クヘシ  
 右届出及代人ノ任定ハ書面或ハ筆記ヲ以テスヘシ但シ書面ヲ以テスル場合ニハ二通ニシテ差出スヘシ  
 調査期日ハ届出期限ノ經過シタル後十日乃至十五日内ニ於テスルヲ例トスヘシ

倒産品ニ對スル要求ノ届出期日調査期日及ヒ債主集會期日ハ第一千卅六條ニ從ヒ必ラス倒産申渡ニ掲ケサルヘカラス(獨逸倒産法第百二條)佛國商法第四百九十二條ニ依レハ眞管理人ナルモノ、任命アルマテ其要求ヲ届出サル債主ハ特別ニ裁判所書記ノ書面ヲ以テ督促スルモノトス然レモ債主ハ倒産申渡ノ後直ニ其届出ヲ爲スコトヲ得ハ(同上)

第四百九十一條千八百五十五年普魯西倒産法第六十七條亦タ之ト相似テ第一ノ調査期日ニ届出サル債主ハ再ヒ此期日ヲ立テ、更ニ届出ヲ促スモノトス現今獨逸倒産法第百廿六條第百三十條ニ依レハ調査期日ハ唯タ一回ニ止マル本案亦タ之ニ倣フ然レモ白國商法第四百九十六條ノ例ニ倣ヒ倒産申渡ヲ公告スルト同時ニ其所在分明ナル債主ニ特別ノ告知ヲ爲シ届出期日及調査期日ヲ直ニ倒産申渡ノ日附ト連接セシムルハ便宜ナルニ似テ是レ倒産處分ヲ大ニ簡畧迅速ナラシメ全債主ヲ同一ニ論スルノ旨趣ニ稱フモノトス殊ニ他所ニ在ル債主ニシテ新聞紙上ニ就テ倒産申渡ヲ知ラサル者ヲシテ倒産處分内ヨリ排除セラレ或ハ期日ヲ過マルカ如キコト勿ラシムヘキナリ  
 所在分明ナル債主ニ特別ノ督促ヲ爲スハ倒産處分ヲ以テ債主ノ權利ヲ短縮シ事情ニ依リ倒産品ヨリノ辨償ニ與カラサルカ如キコトアル

カ故ニ必要ナリ(第千八十三條)故ニ其要求ヲ實行スヘキ特別ノ機會ヲ之ニ與ヘサルハ權宜ニ戻リ且酷ニ渉ル蓋シ債主ノ氏名ハ貸方借方比較表及ヒ取引帳簿ニ就テ知ルヘシ故ニ特別ノ通知ヲ爲スニハ先ツ右比較表ヲ調製シ取引帳簿ヲ檢査セサルヘカヲサルヲ以テ倒産申渡公告ノ後多少ノ時日ヲ經過シテ初メテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ本案ニハ特別ノ督促(通知)期日ヲ掲ケスト雖モ第千卅八條ニ依リ毫モ不用ノ延滞アルヘカヲス其書狀ノ發送ハ可及的速ニセサルヘカヲサルコト勿論ナリ以テ右ノ如ク暫時ノ延滞アルカ爲メニ所在分明ナル債主一モ損失ヲ受ルコトナシ何トナレハ倒産ノ事實ハ所在分明ナラサル債主ト同シク倒産申渡ノ公告ニ由テ知り得ヘケレハナリ、右通知書ノ法式ニ就テハ本案一モ言フ所ナシ宜シク裁判所普通ノ文体ニ因ルヘク之ヲ發スルハ倒産主任官タルヘク或ハ同官ノ命令ニ由リ裁判所書

記タルモ妨ケナシ而シテ恊々ニ書面ヲ與フルモ廻狀ヲ以テスルモ共ニ可ナリ其廻狀ヲ用ユルハ佛國及セ白國ノ例規ナリ(「ブラワール」第五册第三百四十六葉及ヒ白國商法第四百九十六條)

届出ハ訴訟ノ体裁ヲ以テセス又其届出タル要求ノ審問判決ニ就テモ法式的ノ訴訟手續ヲ守ルヲ須ヒス夫レ倒産處分ハ急施ノ處分ニシテ無用鄭重ノ法式ハ之ヲ省カサル可ラス故ニ各債主ノ倒産品ニ就テ要求スル所ノ者ヲ掲ケ其大要ノ理由ヲ具フルハ既ニ足レリ然レモ唯タ倒産者ノ其契約等ニ依リ最初負フ所ノ金額ヲ掲クルモ未タ充分トセズ宜シク其倒産品ヨリ拂受ケントスル所ノ金額ヲ掲ケサル可ラス今或ハ最初ノ金額既ニ幾分ノ消却ニ及ヒタル等ニ依リ其要求額ニシテ最初ノ金額ヨリ少キコトアルモ又未收ノ利子或ハ損害賠償等ノ之ニ加ハルアリテ要求額ノ最初ノ金額ニ超ユルアルモ共ニ然リ而シテ本

來金額ニ在ラサル要求ニ於テハ價額賠償若クハ損害賠償トシテ要求  
 スル所ノ金額ヲ掲クヘキナリ今ヤ届出ノ義務ハ書入質主及ヒ質主等  
 ニ在テモ之ヲ守ラサルヘカラス(獨逸倒産法第百廿七條佛國商法第五  
 百一條)此等ノ債主ハ其別取權ヲ棄捐スルモ妨ケナク此場合ニ在テハ  
 其先取權ヲ失フコトナク尋常ノ債主ニ先テテ倒産品ヨリ辨償ヲ受  
 ク又其別取權ヲ棄捐セサル場合ニ於テモ其認定ヲ經タル後ニ非サレ  
 ハ其權ヲ施用スルヲ得ス即チ其要求モ調査ヲ經サル可ラス又第千四  
 十四條或ハ第千四十六條ニ戻リ書入ヲ爲シタルトキノ如キハ他ノ債  
 主ノ異議ヲ受ルコトアリ但タ債主ノ先取權ハ都テ官權ニ藉リテ左右  
 スルコトナシトス(ザルウエー)第五百五十七條  
 佛國商法第四百九十一條ニハ負債證書ノ原本ヲ差出スヘキモノトス  
 獨逸倒産法第百廿七條ニハ其謄本タルモ妨ケナシトス蓋シ此兩法後

+

者ヲ以テ至當トスルカ如シ何トナレハ原本ハ調査期日ニ差出ストキ  
 ハ既ニ充分ナルノミナラス債主ハ姑且ク其原本ヲ携持スルノ理由ヲ  
 有スルコトナキニ非ス殊ニ其要求ヲ共同義務者ニ對シテ執行スルカ  
 如キトキハ之ヲ携持スルノ缺クヘカラサルコトアレハナリ又届出ハ  
 何レノ場合ヲ問ハス倒産主任官ニ差出スヘシトスルコトニ就テモ獨  
 逸倒産法第百廿七條ニ倣フタリ佛國商法第四百九十一條及ヒ第四百  
 九十二條ニ依レハ裁判所書記ニ届出ルモ管理人ニ届出ルモ隨意トス  
 蓋シ獨逸法ハ佛法ニ比スレハ安全ニシテ且權利上ノ要求ヲ裁判上ニ  
 於テ執行スルノ順道ニ適ヘリト云フヘシ加之證書類ヲ引渡スニモ一  
 層安全ナルヲ得ヘキナリ  
 管理人ノ届出ノ謄本ヲ受クルハ調査期日前ニ之ヲ假ニ調査シ倒産者  
 ノ取引帳簿及ヒ他ノ書類ト對照スル爲メニ必要ナリ此必要ナル假調

查ノ爲メコハ届出期日ト調査期日トノ間ニ相應ノ日子ナカルヘカラ  
 ス而シテ此日子ハ其期スル届出ノ多寡難易ニ從ヒ定ムヘキナリ佛國  
 商法第四百九十三條ニハ之ヲ三日内ト定ム是レ短ニ過クルヤ明ナリ  
 獨逸倒産法ニハ一週間乃至二ヶ月ト爲ス是レ却テ長ニ失シ他ノ處置  
 殊ニ和解期日(調査期日)ノ後ニ非サレハ爲ス能ハス)ヲ無用ニ遷延スル  
 ノ恐アリ故コ本案ハ十日乃至十五日ト爲スヲ至當ト見タリ  
 届出期限ハ第千卅六條ニ循ヒ多クモ三ヶ月乃至六ヶ月ニ超ユヘカラ  
 ス獨逸倒産法第百廿六條ニ依レハ三週間乃至三ヶ月トス佛國商法第  
 四百九十二條ニハ廿日ヲ以テ最下限トシ裁判所々在地ヲ隔ツルノ里  
 程ニ隨ヒ延長ス故ニ甚タ遠地ニ在ル債主ノ爲メニハ千八百六十二年  
 五月三日ノ訴訟法第七十三條ニ依リ五ヶ月乃至八ヶ月ニ延長シ且海  
 戰ノ時ニハ之ヲ倍加スルヲ得白國商法第四百六十六條第四百九十七

條ニ依レハ廿日ヲ以テ常例ノ届出期限トシ倒産主任官ノ了見ヲ以テ  
 遠地ノ債主ノ爲メ之ヲ延長スルヲ得然レモ本案ニハ確定畫一ノ期限  
 ナリテ勝レリト信シタリ但タ債主ノ國內ニ在ルト國外ニ在ルトニ由  
 テ其期限ヲ二様ニシ從テ調査期日モ二様ニスルコトアルハ妨ナシト  
 雖モ其處分ニ至テハ國外ノ債主ヲ待タス國內ノ債主ニ對シ續行スル  
 ナ得但タ倒産品配當ニ在テハ國外ノ債主ヲ待ツヘシ蓋シ之カ爲メニ  
 國外ノ債主ハ和解申立ノ會議ニ於ルカ如キ場合ニ於テ不利ヲ免レサ  
 ルヘシト雖モ此不利アルカ爲メニ多數ノ債主ノ利益ヲ顧ミサルノ理  
 ナキナリ(アラワール)第五冊第三百四十八葉)

### 第一千七十八條

届出ハ其都度直ニ番號ヲ付シテ二個ノ一覽表ニ記載シ  
 其一ハ先取權アル要求其二ハ尋常ノ要求ヲ掲ク此兩表

ハ裁判所ニ於テ公衆ノ展閱ニ供スヘシ但管理人ハ其使用ノ爲メ届出及一覽表ノ謄本ヲ受ク

是レ獨逸倒産法第二百二十八條及ヒ白國商法第五百七條ニ掲ク一覽表ハ後日ノ調査管理人ノ假調査及又倒産ニ關係アル人々ヘノ通知ノ基礎トナル貸方借方比較表ハ右ノ目的ニ供スルニ充分ナラズ何トナレハ是レ唯タ倒産者ノ取引帳簿ヨリ抜書シタル者ニシテ充分ノ信任ヲ置ク可ラサルコト多ケレハナリ其一覽表ヲ二様ニ別ツハ債主ニ先取權アル者ト尋常ノ者トノ差アレハナリ此一覽表ニハ第一千七十七條ニ循ヒ届出ル所ノ要目ヲ記載シ且空欄ヲ設ケテ調査ノ結果及ヒ判決ノ結果ヲ記載スルニ供ス若夫レ一覽表ノ調製ニ係ル委曲ニ至テハ千八百五十五年八月六日ノ普國訓令ニ就テ見ルヘシ(ザルウエー)第五百五十八條

### 第一千七十九條

調査ハ管理人ノ立會ヲ以テ倒産主任官之ヲ開ク且成ルヘクハ倒産者ヲ立會ハシメ其調査ハ筆記スヘシ債主ハ自身又ハ代人ヲ以テ之ニ加ハルヲ得倒産主任官ハ債主ヲシテ取引帳簿若クハ其抜書ヲ差出サシムルヲ得調査ノ結果ハ前條ノ一覽表及ヒ負債證書ニ附記シ且債主若クハ其代人ニ告示スヘシ

届出期限經過ノ後ニ届出テタル要求モ同シク調査期日ニ之ヲ調査スルヲ得但之ニ對シ故障ノ申立アリタルトキ并ニ調査期日後ニ届出タルトキハ該債主ノ費用ヲ以

テ更ニ調査ヲ爲スヘシ

届出タル要求ヲ調査スルニハ裁判所ノ吟味ヲ用ユト雖モ定常ノ訴訟  
 法式ヲ踐ムヲ要セス唯タ適宜ノ訊問及關係者間ノ談話ヲ以テス關係  
 者トハ第一ニ管理人次ニ債主トス何トナレハ債主ヲ關係人トスルハ  
 一要求ノ加ハル毎ニ倒産品ノ配當額ヲ減スレハナリ倒産主任官ハ其  
 吟味ヲ主宰シ總テ證明ノ爲メニ必要ナル命令ヲ下スヘシ殊ニ債主ノ  
 取引帳簿若シクハ其拔書ヲ差出サシムルヲ得倒産者ノ帳簿及ヒ書  
 類ハ調査ニ供スヘキカ故ニ調査期日ニ持參セシムヘキコト無論ナリ  
 又倒産主任官ハ必要ナル場合ニハ調査期日ニ爲シ得ヘキ者ヲ限トシ  
 證據人ノ訊問ヲ爲スヲ得且倒産者モ此期日ニ呼出シ必要ノ辨明ヲ爲  
 サシムヘシ然レモ若シ失跡シタル等ノ場合ニ於テハ必スシモ倒産者  
 ノ立會ヲ要セス債主亦必スシモ出頭ヲ要セス期日ニ出頭セサル債主

ノ要求モ之ヲ調査ス調査一日ヲ以テ終ラサルトキハ翌日ニ繼キ時日  
 ナ隔テス終局ニ至ラシムヘシ(佛國商法第四百九十三條乃至第四百九  
 十七條白國商法第五百條乃至第五百三條獨逸倒産法第百廿九條乃至  
 第百卅一條)

届出期限ハ遲滯ノ爲メニ辨償ニ加ハラサルニ至ルカ如キ訴訟法上ノ  
 意義ニ於ケル無猶豫期限ニ非ス後レテ届出テタル要求ト雖モ亦皆之  
 ナ受理シ調査ヲ行フ但タ其後レタルノ結果ハ債主ノ責ニ歸ス(獨逸倒  
 産法第百卅一條佛國商法第五百三條白國商法第五百三條第五百八條)故  
 ニ其期ヲ後レタル債主ハ爲メニ生シタル調査ノ費用ヲ負擔シ又此調  
 査ニ於テ要求ノ認定ニ至リタル後ニ非サレハ倒産品ノ配當ニ與カル  
 ナ得ス若夫レ即時ノ調査ニ對シ管理人或ハ一債主ノ異議ヲ唱フルト  
 キハ之ヲ斟酌セサルヘカラス何トナレハ假調査ヲ爲スノ時日ヲ之ニ



與へサルヘカラサレハナリ

### 第一千八十條

要求ノ認定ハ是認或ハ裁判ヲ以テス但調査期日ニ於テ  
管理人及ヒ既ニ認定ヲ經若クハ貸方借方比較表ニ載セ  
ラレタル債主ノ異議ナキトキハ其要求是認セラレタル  
モノトス管理人ノ要求ニ對シテハ倒産主任官異議ヲ唱  
フルヲ得

要求ノ認定ハ負債ノ金額ト之ト附帶スル先取權トニ係ルモノニシテ  
或ハ自由ノ是認ヲ以テシ或ハ裁判所ノ判決ヲ以テシ債主及管理人ハ  
是認ノ權アリ然レモ不正當ノ異議ヲ防カン爲メニ獨リ其要求ノ認定  
ヲ經又ハ少ナクモ貸方借方比較表ニ掲名セラレタル債主ニ限り異議

十

ヲ唱フルヲ許ス何トナレハ後者ノ場合ニ於テハ眞ノ債主タリト認ム  
ルヲ得レハナリ倒産者ニ至テハ自カラ異議ノ權ヲ有セス何トナレハ  
倒産處分上ニ於テハ管理人及倒産主任官之カ代人トナレハナリ(獨逸  
倒産法第百卅二條)佛國商法第四百九十四條及ヒ白國商法第五百三條  
ニ依レハ倒産者亦タ異議ノ權ヲ有ス是レ右云フ原則上ノ理由ヨリ論  
シ又惡意ノ異議ヲ以テ訴訟ヲ増加スルノ弊ヨリ論シテモ嘉贊スヘキ  
ニ非ス唯タ其陳述ヲ聽クトキハ既ニ充分ニシテ其要求果シテ裁判ニ  
付スヘキヤ否ヤハ管理人或ハ倒産主任官ノ裁決ニ任スルヲ以テ至當  
トス

倒産主任官亦タ管理人ノ要求ニ係ルモノヲ除キ異議ノ權ヲ有スル能  
ハス何トナレハ是レ裁判官ノ公平ナル地位ニ適當スレハナリ然レモ  
要求ノ調査ニ參加シ脱漏無規ノ事ヲ糺シ法律上ノ意見ヲ陳述シ又異

議ヲ爲シ或ハ爲サ、ルコトニ係リ管理人ニ對シ監視權ヲ施用スルハ禁  
スル所ニ非サルナリ〔ブラワール〕第五冊第三百五十葉〕  
調査期日ニ起シタル異議ヲ取消シタルトキハ始ヨリ異議ナキモノト  
見做シ其要求ハ是認セラレタルモノトス異議ノ取消ハ續ヒテ調査辨  
論シタル後其期日ニ之ヲ爲スコトヲ得而シテ之ヲ取消ス者ハ之ヲ起シ  
タル者ニ限ルヘキコト論ヲ竣タス  
倒産開始ノ前既ニ倒産者訴訟ヲ受ケ未タ落着ニ至ラサルコトナシト  
セス今ヤ此ノ如キ訴訟ノ倒産開始ノ爲メニ中止セラレ該要求ハ他ノ  
要求ト同シク之ヲ届出ツヘキコト第千卅九條及ヒ第千四十一條ニ依  
リ自カラ明ナリ其訴訟ヲ管理人ニ對シ續行シ得ヘキモノハ別取權ニ  
依リ辨償ヲ受ントスルノ訴訟ニ限ル何トナレハ此權アリテ始テ倒産  
者ノ財産ニ別段ノ差押ヲ施スヲ得レハナリ蓋シ此ノ如キ要求亦タ之

ヲ届出テ認定ヲ受ケサルヘカラスト雖モ管理人ニ對スル別段ノ處分  
ニ依ルニ非サレハ其辨償ヲ受クルヲ得サルナリ

### 第千八十一條

異議アル要求ハ該債主之ヲ取消スニ非サレハ相手雙方  
ヲ審問シ證人ヲ訊問シ其他證據物ヲ審査シタル後倒産  
主任官ノ申立ニ依リ可及的諸要求ヲ一括シ公行裁判ヲ  
以テ倒産裁判所之ヲ判決ス但相手出廷セサルモ裁判ヲ  
止メス

異議アル要求ヲ裁判所ノ判決ニ付スルハ普通ノ原則ニ依リ自カラ然  
リ要求ノ異議ハ必スシモ債主ノ權利ヲ奪フニ非ス然レモ債主ノ要求  
アル一事ヲ以テ負債者ヲシテ支拂義務アラシムルニ足ラス故ニ債主  
ト負債者トノ爭論ハ獨リ裁判所ノ判決ヲ竣テ定マル者ナリ然レモ判

決ヲ爲スコハ爲メニ必要ナル手續ヲ履マサルヘカラス此手續ヤ倒産上ニ於テハ他ノ裁判ニ於ルカ如ク嚴重ナラス乃チ適宜ヲ旨トシ直接ニ其實ヲ得ルヲ以テ目的トス此點ニ就テモ任他裁判主義ヨリ寧ロ干渉裁判主義ヲ採リ雙方ノ申立及辨論ニ其重ヲ歸セス

此裁判ノ目的ハ調査期日ニ於テスルモノヨリ一層ノ精悉ヲ加ヘ完全ノ裁判權ヲ以テ判決ヲ下スニ在リ倒産處分上ニ於ケル訴訟ノ此ノ如ク特別ナルハ倒産者自己ノ財産上ニ處分能力及ヒ訴訟能力ヲ失ヒ管理人ハ獨立ノ負債者ト同一ノ自由ヲ以テ其能力ヲ施ス能ハサレハナリ故ニ倒産裁判所ハ自由ノ酌量ヲ以テ調査判決シ敢テ相手雙方ノ申立ニ拘係セラル、コトナク主トシテ倒産主任官(公理ノ負擔者)ノ辨明ヲ採ル然レモ相手ヲ訊問シ相手ノ請求ニ依リ證人ヲ糺シ及ヒ都テ事實ヲ查定シ權利起由ヲ調査スルニ精密公平ナルヘキハ他ノ裁判ト異

同アルヘカラス蓋シ此ノ如キ簡便法ハ佛國商法第四百九十八條及ヒ白國商法第五百四條ニモ採用セラレ但タ佛國法ノ異ナル所ハ證據物採集ヲ以テ倒産主任官ニ任シ得ルノ一點トス是レ贊成スヘキニ非ス何トナレハ法廷外ノ證據ノ採集ハ重要ノ利益ナク且裁判所ノ直接ニ事實ヲ判定スルノ道ヲ絶テハナリ

獨逸倒産法ハ此ニモ成ルヘク倒産處分ノ特質ヲ奪去シ倒産裁判官ノ威權ヲ抑ヘント欲シタルノ狀アリ故ニ同第百卅四條ニ異議アル要求ハ其異議ヲ起シタル者ニ對シ尋常ノ裁判法ニ依テ之ヲ論定ス可シトノ規則アリ之カ爲ニ異議アル要求ハ官權ヲ以テ裁判ニ付スル能ハサルノ一點ニ於テ届出ノ効驗ヲ奪ヒ管理人タルト債主タルヲ問ハス都テ異議ヲ起ス者ハ通常訴訟法上ノ原則ニ循ヒ自由ニ其要求ヲ左右スルヲ得何トナレハ一債主ニ對シテ得タル所ノ判決ハ他ノ債主ニ對シ

テモ効驗アレハナリ但々届出ノ要求金額及モ權利起由ヲ後ノ訴訟ニ於テ變更スル能ハストノ一點ヲ以テ專恣ヲ抑ユルノミ要求ヲ裁判上ニテ認定スル此ノ如クナルハ倒産處分ノ目的ト調和セス故ニ本案ハ之ヲ採用セサルナリ〔ザルウエー〕第五百七十三條〕

今ヤ過テ認定セラレタル要求ハ後日之ヲ異議スルヲ得ヘキヤノ問題アリ英國ニ於テハ此權利ヲ管理人ニ與フ是レ其必要ナルハ誣ユヘカラス例ヘハ爲替上ノ要求ニシテ調査期日ニ是認セラレ其後爲替ノ偽造タルコト發見セラレタリトセン歟其要求ヲ正當ノモノトシ倒産品ノ配當ニ加ハラシムルノ理ナシ其訴訟上ノ認定ニ於テ證人虛言ヲ吐キタルトキノ如キ亦タ同シ故ニ既ニ是認若クハ判定セラレタル要求ニ對シテモ後日異議ヲ唱フルヲ得ヘキヤ論ヲ容レス况ンヤ倒産處分終結ノ後ニ於テモ其不正當ニ得タル配當額ヲ取戻スコトニ於テチヤ

然レモ此ニ特別ノ規則ヲ設ルハ必要ニ非ス何トナレハ回復舊狀ニ係ル普通ノ原則ヲ以テ充分トスレハナリ〔千八百七十七年獨逸訴訟法第五百四十三條〕スミス〔商法第五百九十八條〕

第一千七十九條ノ規則ハ此ニモ擬用シ以テ官權ニ藉リ一覽表及負債證書ニ裁判々決ヲ記入スヘシ此法ニ戻ル獨逸倒産法第百卅四條ノ末段ハ此點ニ於テモ届出ノ旨義及倒産處分ノ性質ニ背馳ス夫レ届出ノ倒産上ニ於ケルヤ出訴ニ代ルモノナルヲ以テ後更ニ出訴ヲ爲スヲ須ヒス是認ヲ以テ認定セラレタル要求ヲ官權ヲ以テ一覽表ニ記入シ關係人ニ告示シタルトキハ裁判上ニ於テ認定セラレタル要求ニ於テモ同シク然ルヘキハ自然ノ理ナリ

### 第一千八十二條

判決ハ可及的債主集會ノ前ニ下スヘシ若シ然ルヲ得ス

或ハ其判決ニ對シテ控訴スルトキハ裁判所ハ其債主ヲ  
 集會ニ參與セシムヘキヤ又幾許ノ金額ニ就テ參與セシ  
 ムヘキヤヲ定ム

獨リ先取權或ハ別取權ニ就テ異議ヲ受ケタル債主ハ尋  
 常ノ債主トシテ集會ニ參與セシム

是レ佛國商法第四百九十九條第五百一條白國商法第五百二條第五百  
 四條第五百五條獨逸倒産法第八十七條ニ掲ク此規則ハ要求ニ異議ヲ  
 受ケタル債主ヲシテ爲メニ債主集會殊ニ和解ノ會議ニ參加セシムル  
 爲メニ必要ナリ若シ此ノ如クセサレハ倒産者ノ密計等ニ出テ故ラニ  
 要求ニ異議ヲ唱フル債主アルニ方リ其要求者ハ詐偽ノ和解申立ヲ拒  
 ムヘキ平均力ヲ失ナフニ至ルヘシ(ブラワール)第五冊第三百五十八葉

以下)

假ニ債主ヲ集會ニ參與セシムル爲メ要求額ヲ定ムルハ債主ノ可否權  
 ヲ定ムルニ要求ノ額ヲ標準トスルカ故ニ必要ナリ(第千八十三條)

### 第千八十三條

時ヲ後レテ要求ヲ届出テ若クハ認定セラレタル債主ハ  
 唯タ其認定後ニ於テス倒産品配當ニ加ハルヲ得但異議  
 ヲ受ケ訴訟中ニ在ル要求及ヒ届出并ニ調査ノ爲メ後ノ  
 期限ヲ與ヘラレタル國外債主ノ要求ノ爲メニハ以前ノ  
 配當ニ於テ其受クヘキ割前ヲ留置スヘシ

第千七十七條ニ於テ届出期限内ニ要求ヲ届出ツヘキコトヲ債主ニ通  
 スルノ督促ハ此期限ヲ誤ルモノヲ倒産品ノ配當ヨリ除クトノ劫迫ヲ

以テ下スト雖モ届出期限ハ最初ノ届出期限ヲ愆ツ者ヲ直ニ倒産品ノ配當ヨリ除クカ如キ無猶豫期限ニ非ス之ヲ除クハ獨リ倒産處分中全ク届出サル者ニ限ル管理人或ハ裁判所ハ假令ヒ其要求ノ存スルヲ知リ全ク異議ヲ容ルヘキモノニ非ストスルモ官權ヲ以テ之ニ干涉スルヲ得ス故ニ後レテ届出ル要求モ異議ナク受理スヘキナリ是レ權宜上ヨリシテ應ニ然ルヘキモノナリ何トナレハ債主ノ倒産ノ爲メニ既ニ蒙ムル損害ニ加フルニ尙ホ期限ノ嚴チ以テスヘカラサレハナリ又何トナレハ届出期限ハ期滿得免期限ニ非ス要求ヲ届出テサルモ債主ハ則チ倒産者ノ債主タレハナリ又何トナレハ期限ノ遲滯ハ殊ニ遠方ノ債主ニ於テ不識不知生スルコト容易ナレハナリ此理由ヤ明了ニシテ諸國ノ法律モ皆殆ント同一ニ其後レタル届出ヲ許ス(佛國商法第五百二條第五百三條第五百六十七條第五百六十八條獨逸倒産法第四百十

條第五百五十五條白國商法第五百八條和蘭商法第八百七十三條第八百七十四條千八百六十九年ノ英國法律第四十三條)是ヲ以テ後レテ届出テタル要求ノ爲メニモ調査期日ヲ設ケ後日認定シタル要求ハ以前届出タルモノト同シク倒産品ノ配當ニ加ハラシム然レモ其届出ヲ既往ニ沂ラシメス故ニ以前ノ處分殊ニ既ニ了リタル配當ヲ之カ爲メニ動かス能ハス且期限延滯ノ爲メ更ニ必要トナリタル處分殊ニ調査ノ費用ハ債主自ラ擔當ス可キハ勿論ニシテ權宜ニ稱フ者トス但タ其要求既ニ認定セラレタルキハ此時ヨリ他ノ要求ト同一ノ權利ヲ得テ全額ニ就キ配當ニ與カルヘキヤ論ヲ埃タス若シ夫レ期限ヲ愆チタルノ故ニ非スシテ後レテ認定セラレタル要求ハ初ヨリ注意ヲ加ヘサルヘカラサルコト亦タ同シク權宜ノ然ラシムル所ニシテ即チ時ヲ失ナハス届出タルモ異議ヲ受ケタル要求及路程遠隔ノ爲メ届出期限ヲ猶豫セ

ラレタル要求是レナリ若シ此ノ如クセサレハ最モ疑ヲ容ルヘカラス  
 ル要求ト雖モ一債主ノ專恣ナル異議ノ爲メニ其權利ヲ失ナフコ至リ  
 路程遠隔ノ債主ヲシテ始ヨリ近所ノ債主ヨリ不利ナル地位ニ居ラシ  
 ムルハ其正ヲ失ナフモノニシテ今夫レ近所ノ債主ヲシテ遠方ノ債主  
 チ長ク待タシメサルカ爲メ之ニ短キ期限ヲ與フルハ是レ既ニ特遇  
 ニシテ之ヲ以テ尙ホ其特遇ナキ債主ニ不利ヲ被ムラシムヘカラス  
 ナリ此ニ掲ケタル債主ノ爲メ其割前ヲ留置スルハ唯タ支拂方法ノ變  
 化ト視サルヘカラス是ヲ以テ其金額ノ利子ハ該債主ニ歸シ倒産品ニ  
 屬セス(ブラワール)第五册第六百三十七葉(今ヤ此留置ハ其權ナキ債主  
 ニ支拂ハサラン爲メノ倒産品ノ警保方法ニシテ該債主ノ權利後ニ認  
 定セラル、ニ於テ其留置ノ事由復タ存セス其割前ヤ元利トモ之レヲ  
 支拂フヘキナリ若夫レ第千四十三條ニ倒産申渡ニ依リ倒産品ニ對シ

利子ヲ止ムト定メタル規則ハ爰ニ適用スルヲ得ス何トナレハ該規則  
 ハ唯タ届出ツヘキ要求ニ係ルモノニシテ倒産品ヨリ支拂フヘキ配當  
 金ニ關セサレハナリ

佛國商法第四百九十七條及ヒ其他ノ法律ニ於テハ是認若クハ判決ノ  
 外ニ債主證言(アツフヒルマシヨ)法式ヲ掲ケ之レ微ケレハ倒産品配  
 當ニ加ハルヲ得サルモノトス本案ハ獨逸倒産法ニ倣ヒ此ノ如キ規則  
 チ採ラス何トナレハ届出ノ要求ニシテ詐僞ナルトキハ重キ刑ヲ以テ  
 論シ且眞ノ届出ニ對シテハ無用ノ法式タルニ止マレハナリ(ザルウエ  
 一)第五百六十二葉註三

第二款 特別ノ債主

第一千八十四條

本負債者ノ倒産ニ於テ届出タル要求ハ和解ノ場合タリ  
トモ保證人其他共同義務者ニ對シテモ其全額ニ就テ申  
立ルコトヲ得又共同義務者ハ本負債者ノ倒産ニ於テ其  
償還要求ヲ届出ルヲ得但本負債者ノ爲ニスル和解ハ共  
同義務者ニ對シテモ効力アルモノトス

本條以下二條ハ倒産ニ於ケル共同義務者ノ關係ヲ論スルモノニシテ  
共同義務者トハ本負債者ニ添フ保證人其他總テ同一ノ要求ニ對シ連  
帶ノ責任アル者例ヘハ合名會社々員及爲替ニ於テ承諾人ニ並フ裏書  
讓渡人振出人並ニ共同ノ罪過ノ爲メ損害賠償ノ義務アル者等ヲ云フ



本條ハ則チ本負債者其他抑モ義務アル者倒産シタルトキハ他ノ義務者ニ對シテモ要求ヲ申立ルヲ得ヘシト定ム何トナレハ此共同義務者ハ支拂ヲ爲シテ初メテ其責ヲ免レ唯タ一負債者ニ對スル要求アリタルカ爲メニ之ヲ免ル、モノニ非サレハナリ但タ債主其要求ノ一部分ヲ倒産ニ於テ得タルトキハ他ノ義務者ヨリ受クヘキハ其不足額ニ止マルコト論ヲ俟タス其之ニ反スルモ亦タ同シ今夫レ配當額ハ或ハ倒産品ノ多寡ニ因リ或ハ和解ニ因テ定マルモノニシテ和解ハ幾割ノ支拂ヲ以テ倒産者ノ財産ヲシテ其責ヲ免レシムルニ在リ此場合ニ於テモ共同義務者ニ對シテハ其要求ノ全額ヲ請求スルヲ得ヘシ例ヘハ要求額ハ千弗ニシテ和解ノ爲メ債主其五割即チ五百弗ヲ得タリトセン歟假令ヒ和解ニ於テ倒産者ニ對シ要求ノ一半ヲ以テ満足シ其一半ヲ棄捐シタルモ此一半ノ五百弗ハ共同義務者ニ對シテ請求スルノ權アリ

十

リ何トナレハ和解ハ倒産處分ノ結果ニ依リ個々ノ債主ニ承諾セシメ以テ或ハ其意ニ出テサルコト多ク又保證人ニシテ負債者ノ支拂停止及之ヨリ生スル和解ノ爲メニ其義務ヲ免ル、ニ於テハ保證ノ保證タル効驗消滅スレハナリ夫レ義務ヲ多數ニスルハ其一人ノ支拂ヲ爲サス又ハ其支拂充分ナラサル場合ニ於テ債主ニ安全ヲ與フルニ在リ故ニ共同義務者ハ倒産者トノ和解ノ爲メニ自己ノ義務ヲ免ル、ノ理由ナキナリ

保證人其他共同義務者ハ通常本負債者ニ對シ償還要求權ヲ有シ此要求權亦タ第四十二條ニ從ヒ倒産ニ方リ満期ノモノトシテ届出ルヲ得然レモ此要求ハ有限ノ要求ニシテ保證人等ノ本負債者ニ代リ實ニ債主ニ辨償シタルトキニ非サレハ生スルコトナシ若シ然ラス或ハ唯タ一部分ヲ辨償シタルトキハ其要求亦タ効力ナク或ハ唯タ一部分ニ

就テ効力アリ例ヘハ要求額千弗ニシテ保證人悉皆之ヲ支拂フタリトセハ保證人ハ倒産ニ於テ千弗ノ償還要求ヲ爲スコトヲ得然レモ債主倒産上ニテ四百弗ヲ得保證人ヨリ六百弗ヲ受ケタルトキハ唯々其六百弗ニ就テ償還要求ヲ爲スコトヲ得ルニ止マル若夫レ和解アリテ債主爲メニ五割ヲ得タルトキハ保證人均シク五割ヲ要求スルヲ得ス若シ然ラサレハ倒産品ハ同一ノ要求ニ就キ債主ト保證人即チ償還要求者トニ對シ二回ノ支拂ヲ爲シ該要求ハ和解ニ於テ受クヘキモノニ超ユルノ配當ヲ受ルニ至リ倒産者爲メニ和解ノ利益ヲ失ナハントス是レ許スヘカラサルコトナルヲ以テ本案ニ定ムル所ハ本負債者ノ倒産ニ於テ償還要求ヲ届出ルヲ得ルモ倒産者ノ爲メニスル和解ノ効力ヲ動カス能ハスト云フニ在リ

本條ノ規則ハ佛國商法第五百四十四條第五百四十五條白國商法第五

百卅九條乃至第五百四十一條獨逸倒産法第六十條第七十八條ニ掲ク(「アラワール」第五冊第四百卅四葉第四百卅八葉及ヒ第六百二葉以下「ザルウエー」第四百卅三葉第六百八十三葉)

### 第一千八十五條

共同義務者數人倒産シタルトキハ各人ノ倒産ニ於テ要求ノ全額ヲ届出ルヲ得諸倒産品間ニ於テハ償還要求ヲ爲スヲ許サス但債主ノ受クル割前ノ合計ニシテ元金ニ付屬金ヲ合セタル要求ノ全額ニ超過スルトキハ其過上ハ他ノ共同義務者ニ對シ償還要求權ヲ有スル者ノ倒産品ニ歸ス

前條ハ本負債者即チ共同義務者ノ一人倒産シタル場合ヲ論シ本條ハ

共同義務者ノ内數人若クハ總員ノ倒産シタル場合ニ就テ定ム此ニハ二個ノ結果ヲ論ヒサルヘカラス曰ク各義務者ノ倒産ニ要求ヲ申立ルヲ得即チ債主ハ其要求ノ全額ニ滿ルマテ各倒産品ヨリ相當ノ配當ヲ要求スルヲ得曰ク倒産外ニ在テハ共同義務者ニシテ債主ニ支拂フタル者ハ他ノ義務者ニ對シテ償還要求ヲ爲シ得ヘシト雖モ甲倒産品ヨリ乙倒産品ニ對シテハ然ルヲ得サルヲ例トスル是レナリ此第二ノ結果ノ理由如何ントナレハ各倒産品ハ其現在額ノ割合ニ應シテ負債ヲ消却スルモノニシテ若シ甲倒産品ノ乙倒産品ニ對シ償還要求ヲ爲シ得ヘキニ於テハ乙ハ其現在額ノ割合ニ超ユル支拂ヲ爲シ以テ同一ノ要求幾回モ辨償ヲ受ケ倒産配當ノ原則ヲ犯スニ至レハナリ例ヘハ債主ハ本負債者ノ倒産ニ於テ要求ノ一割ヲ得、保證人ノ倒産ニ於テ其九割ヲ得タリトセン歟是レ其要求ノ全額ニ止マレハ債主之ヲ以テ他ニ

償還スルヲ須ヒス又保證人ノ倒産品ハ既ニ支拂フタル九割ニ就キ本負債者ノ倒産品ニ償還要求ヲ爲スヲ得ス何トナレハ償還要求權ハ全額ノ支拂ヲ爲シタルトキニ存スルモノニシテ倒産上ノ割前ハ此ノ如キ支拂ト視ルヘカラス倒産ハ全額支拂ノ妨障トナリタレハナリ(佛國商法第五百四十二條第五百四十三條白國商法第五百卅七條第五百三十八條獨逸倒産法第六十一條)爰ニ例外トスヘキハ各倒産品ノ全割前額過上ヲ生シタルトキ是ナリ此過上ハ他ノ共同義務者ニ對シテ償還要求權ヲ有スル者ノ倒産品ニ組入ルヘシ例ヘハ本負債者ノ倒産品ニ對シテハ保證人ノ倒産品ニ爲替義務者ノ倒産品ニ對シテハ最後ノ裏書讓渡人ノ倒産品ニ組入ルヘキナリ又償還要求ハ要求ノ届出ナキ倒産品ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ル論ヲ跋タス若シ然ラサレハ此例産品ハ爲メニ利得ヲ得他ノ倒産品ヲ害スルニ至ルヘシ(ウイールモウスキ

「第百八十八葉註三」蓋シ此例外ハ權宜ヨリ生スル所ナリ  
 債主ハ各倒産品ニ對シ要求ノ全部ヲ申立ルヲ得即チ全要求額ニ就テ  
 相當ノ割前ヲ受ケ徒ニ他ニ辨償ヲ受ケタルノ殘餘ニ就テ割前ヲ受ル  
 ニ止マラス例ヘハ要求額千弗ニシテ甲倒産品ノ配當額五百弗ナリト  
 セン歟乙倒産品ニ對シテハ尙ホ千弗ノ届出ヲ爲スヲ得ヘク必スシモ  
 五百弗ニ限ラサルナリ故ニ若シ乙倒産品ノ割前五割ナルトキハ五百  
 弗ヲ得ヘク不足額ノ届出ヲ爲シタルトキニ於ルカ如ク二百五十弗ヲ  
 得ルニ止ラサルナリ（ブラワール）第五冊第六百二葉「ザルウエー」第四百  
 卅八葉

### 第千八十六條

左ニ掲クル要求ハ届出及ヒ認定ノ規則ニ依ラス

一、裁判上管理上其他倒産處分上ノ費用

二、公然タル手數料及税金

三、管理人ノ倒産品ノ爲メ負擔シタル義務ヨリ生シタル  
 要求

右ハ倒産主任官ノ命令ニ依リ通常ノ方法ヲ以テ倒産品  
 現在額ヨリ支拂フヘシ

届出及モ認定ノ規則ハ主トシテ倒産品ニ對シテ要求ヲ爲スノ時期及  
 法式ト要求ノ是認若クハ審判ヲ以テスル認定ニ係ル是ヲ以テ届出義  
 務アル要求ニシテ右ノ規則ヲ踐マサレハ倒産品ヨリ辨償ヲ受ルノ權  
 利ヲ失ナフ且個々ノ債主ハ各要求ニ對シテ異議ヲ唱フルノ權アリ其  
 要求者ヲシテ訴訟ニ依リ其權利ヲ保護スルノ已ムヘカラサルニ至ラ  
 シム調査期日ニ然ルヘキ人々ノ立會ヲ以テ法式的ノ調査ヲ爲スコト

亦タ右規則ノ一タリ然レモ要求ニシテ一モ疑義ナク容易ニ判定スヘキモノ亦タ甚タ多ク之ニ他ノ要求ニ於ルト同一ノ規則ヲ用ユルハ便宜ヲ失ナフ即チ倒産ノ爲メ始テ生シ管理人及ヒ倒産主任官ノ自カラ熟知スル要求或ハ行政上ニ緣由スルカ爲メ抑モ通常ノ裁判所分ニ付スルニ適セス其爭論アルコ方テハ多クハ行政處分ヲ以テ裁定スヘキ所ノ要求是レナリ本案ニ於テ此ニ算スルモノ左ノ如シ

一、倒産裁判費用及管理費用即チ管理人ノ報酬倒産者及ヒ其他ノ人々(財産目錄調製ノ際ニ助力シタル者等)ニ與ヘタル手當金營業續行費(職工賃勞役賃等第七十七條)其他裁判申渡等ノ公告料倒産者及ヒ其家族ノ扶助料等

二、公然ノ手數料及ヒ税金例ヘハ郵便料電信料測量費地稅關稅等但シ獨逸倒産法第五十四條第二項ニ依レハ此要求ヲ以テ届出義務アル要

十

求ニ算ス佛國商法第五百六十五條ニハ特權アル要求(佛國民法第二千一百一條第二千五百五條ニ依ル但上納金主トシテ爰ニ屬ス)ハ倒産品配當ノ前ニ之ヲ支拂フヘシト爲ス是レ其理義分明ナラス蓋シ上納金ヲシテ届出ノ義務ヲ免レシムルハ特許タルコト勿論ナリト雖モ是レ上納金ニ抑モ他ノ要求ニ拔ンテ多少獨歩ノ先取權アリ何レノ國ニ於テモ之ニ別取權ヲ付シ他ノ要求ニ先テ辨償セラルヘキモノト爲シ(第千五十條)且私益ノ爲メニスル爭論ヲ以テ公事上ノ支拂ヲ妨クル能ハサルヨリ出ル所ナリ加之是レ多クハ少額ニ止マリ之ニ對シ爭論ヲ開クノ因緣少ナシ而シテ此上納金ノ延納ニ屬スルト倒産處分中ニ滿期トナルモノトニ於テ差アルコトナク又國ノ要求ニ係ルト地方團結ノ要求ニ係ルトノ爲メニ別アルコトナシ若夫レ右ノ外ナル國ノ要求例ヘハ官金監守盜或ハ在金不足等ノ爲メ官吏ニ對スル要求ノ如キハ此ニ屬セ

ス何トナレハ此ノ如キ要求ニ特權アラシムルノ理由充分ナラス且國  
 ハ保證金ヲ以テ預防スルコト多ケレハナリ〔ザルウエ〕第四百二葉  
 三、管理人ノ倒産品ノ爲メ引受ケタル義務ニ對スル要求ハ倒産上ノ要  
 求ニ屬セサルコト明ナリ何トナレハ右ノ義務ハ即チ倒産品ノ義務ニ  
 シテ倒産品ハ倒産ノ形狀中ニ在ルニ非ス且倒産品ノ倒産品タル資格  
 ニ對シテハ取引ヲ爲ス者ナケレハナリ此ニ屬スルモノハ管理人ノ倒  
 産品ノ爲メニ受ケタル貸付其他取引上ヨリ生シタル要求是レナリ又  
 第千四十七條ニ掲ケタル雙務契約ニシテ管理人ノ倒産品ノ爲メ新ニ  
 取結ヒ又ハ繼續シタル所ノモノヨリ生スル要求モ此ニ算入ス例ヘハ  
 管理人ノ倒産者ノ取結ヒタル貸借契約ヲ續クトキハ倒産申渡ノ後滿  
 期トナリタル借賃ヲ此ニ算スルカ如シ  
 獨逸倒産法第五十條乃至第五十二條ハ倒産品ノ費用ト其負債トチ倒

産上ノ負債ト區別シ大要本條ノ第一項ニ掲ケタルモノチ倒産品ノ費  
 用ニ算シ第三項ニ掲ケタルモノチ倒産品ノ負債ト爲シ第二項ニ記ス  
 ルモノチ以テ倒産上ノ負債ト爲ス而シテ此倒産上ノ負債ハ該倒産法  
 第十條ニ隨ヒ一個人ノ要求ト同一ノ規則ニ依ラシム本案ハ此ノ如ク  
 論理ニ恰當セサル所ノ作爲ノ名稱ヲ立テス〔ザルウエ〕第三百八十三  
 葉以下此ニ屬スル諸要求ヲ單ニ列記シタリ若夫レ倒産品ニシテ本條  
 ニ掲ケタル債主ニ辨償スルニ足ラサルトキハ此列記ノ順序ヲ以テ辨  
 償スヘキナリ〔佛國商法第五百六十五條白國商法第五百六十一條〕  
 然レモ此ニ記スル要求ヲシテ届出ト認定トチ免レシムルカ爲メニ併  
 セテ一モ調査スルコトナク唯タ其請求ニ依テ支拂フヘシト爲スヘカ  
 ラス管理人ハ忠實ナル差配人ノ如ク慎ンテ調査ヲ加ヘ其判決ヲ下ス  
 者ハ倒産主任官トス若シ此判決ニ服セサルトキハ倒産品ノ代人タル

管理人ヲ相手トシ訴訟ヲ起スヲ得ヘシ而シテ此等ノ要求ハ何時コトモ之ヲ管理人ニ届出テ現在金アルトキハ直チニ之ヲ支拂フヲ得ヘシ

### 第一千八十七條

罰金及ヒ倒産處分ニ參加シタルカ爲メ債主ニ生シタル費用ハ倒産處分上之ヲ要求スルヲ得ス

是レ獨逸倒産法第五十六條ニ掲クル所ニシテ罰金ニハ沒收及契約上ノ過怠金其他ノ償金ヲ算入セス唯タ刑法上若クハ警察上ノ有罪ナル行爲ニ由リ倒産者ノ課セラレタル罰ニ限り爾カ云フ此罰金ハ倒産品ニ對シテ要求スルヲ得ス何トナレハ倒産品ハ倒産申渡ニ依リ專ラ債主ノ辨償ニ供スヘキモノニシテ若シ罰金ヲ之ヨリ徵スルトキハ倒産者ヲ罰スルニ非スシテ債主ヲ罰スルニ同シケレハナリ蓋シ之カ爲メニ倒産者ノ無罰ニシテ已ムノ結果ヲ生スルニ至ラス何トナレハ罰金

ノ徵スヘキモノナケレハ禁錮ニ代ルコト普通ノ原則ナレハナリ若夫レ違約金其他ノ償金ハ損害ノ賠償ニ近キモノナレハ之ヲ倒産上ニ要求スルハ禁スヘキ所ニ非ルナリ

倒産ノ爲メニ債主ノ拂フタル費用ニシテ倒産開始前ニ生シタルニ非サルモノハ倒産品ヨリ要求スルヲ得ス何トナレハ債主ハ倒産開始ノ際ニ有スル要求ノ割合ニ應シテ倒産品ヨリ割前ヲ要求スルヲ得レハナリ此割前ハ債主ノ各異同アル費用ノ爲メニ變スルコト能ハサルモノニシテ蓋シ此ノ如クスルトキハ直接ノ元金損失ニ加フルニ他ノ一損失ヲ以テスルカ如シト雖モ是レ已ヲ得サル所ニシテ爲メニ規則ヲ以テ不用ノ費用ヲ避クヘキ間接ノ牽制ヲ立ツ今右ノ費用ニ算スルモノハ殊ニ代人費用旅費訴訟入費等是ナリ今夫レ届出タル要求ニ對シ異議ヲ唱フル債主ニシテ爲メニ生シタル訴訟入費ヲ倒産品ニ讓ルヲ

得ルニ於テハ彌々輕卒不良ノ異議申立ヲ誘起スルコト至ラントス

### 第一千八十八條

夫ノ倒産品ニ對シテ其婦ノ要求シ得ルハ明約或ハ頌然タル因襲ニ依リ一己ノ所有權アルヨリ生スル要求ニ限ル

倒産シタル夫ノ財産ニ對シ其婦ノ要求ヲ申立ルコトニ就テハ婦タルモノ通常自己ノ財産ヲ有セス且道義上并ニ法律上ノ理由ヨリシテ其夫ト運命ヲ偕ニシ夫ノ倒産ノ不幸ハ其婦併セテ擔任スヘシトノ主義ヲ以テ本案ノ根據トス若夫レ之ニ反シ婦ニ特別不羈ノ財産權ヲ與ヘ且其夫ニ對スル要求ヲ他ノ債主ニ抜ント待遇スルカ如キハ本然ノ理ニモ悖ルニ止マラス日本ノ風俗及主義ニ稱ハサルモノナリ婦ニシテ例外ニ獨有ノ財産アルコトナシトセス其財産トハ嫁娶ノ際

持參シタルモノ或ハ嫁娶ノ後遺產相續贈遺贈與若クハ自營等ニ由テ得タルモノ是レナリ此ノ如キ財産ハ第一千六十九條ニ從ヒ夫ノ倒産品中ヨリ之ヲ分別シ婦ノ自有ト爲スヲ得ヘキヤ疑ヲ容レス之ヲ以テ夫ノ債主ニ辨償スルノ義務ナシ然レモ若シ其財産タルコトヲ爭フ者アラハ其證據ヲ立テサルヘカラス而シテ其證據ハ夫婦ノ間ニ存スル明白ノ契約ヲ以テスルヲ得ヘシ何トナレハ此契約ナケレハ夫ニ屬シタリト視ルヘケレハナリ又疑ヲ容ルヘカラサル因襲ニ依ルモノ可ナリ即チ日本ニ於ケルカ如ク專ラ婦ノ使用ニ供スル衣類飾品等ニ係ル是レナリ(佛國商法第五百六十條)此特別ナル婦ノ財産果シテ婦ノ自カラ得タルモノナルト父母ヨリ得タルモノナルト他人ヨリ得タルモノナルトハ一モ問フコトナシ又夫ヨリ得タルモノモ共ニ然リ何トナレハ夫ノ配耦中或ハ配耦前其婦ニ贈與ヲ爲スハ禁スル所ニ非サレハナリ但タ



隨意ノ贈與ニ係ル第一千四十四條ハ婦ニモ適用スヘキノミ  
然レハ婦ハ所有者トナルニ止マラス債主トナリテ夫ニ對スルコトア  
リ本條ハ即チ此場合ニ係ルモノニシテ其定ムル所ハ婦ハ一己ノ所有  
權ニ關スル要求ニ限り夫ノ倒産ニ於テ申立ルヲ得ヘシト云フニ在リ  
例ヘハ夫ニ自己ノ財産ヲ以テ貸付ヲ爲シ又ハ自己ノ物件ヲ夫ニ賣却  
スルコトアリ又ハ自己ノ財産ノ管理及賣却ヲ夫ニ托シタルヨリ其物  
品ノ還與又ハ代價ノ辨償ヲ要求スルコトアリ此ノ如キ要求ハ他ノ債  
主ニ同シク之ヲ申立ルヲ得ヘシ然レハ自己ノ財産ニ關係ヲ有セサル  
要求ニ在テハ然ラス即チ贈與ノ要求又ハ自己ノ財産ヲ以テシタルコ  
トヲ證明スル能ハサル所ノ貸付ニ係ル要求又ハ獨リ自己ニ屬スルコ  
非サル物品ノ代價要求等是レナリ而シテ婦ハ其正當ノ要求ニ就テモ  
先取權ヲ有セス故ニ他ノ債主ト同一ノ割合ヲ以テ辨償ヲ求ムルヲ得

ルニ止マル但タ夫ヨリ明ニ書入質等ノ抵當ヲ差入タルトキナ別トス  
ルノミ〔ザルウエー〕第四百二葉

今ヤ本案ハ此ノ如ク簡單公平ノ方法ヲ以テ夫ノ倒産シタル場合ニ於  
テ婦ノ財産權ヲ保護セントシタルモノニシテ一方ニハ婦ヲシテ全ク  
無權利ノ地ニ居リ夫ノ浪費若クハ不正ノ犠牲ト爲ラシムヘカラス一  
方ニハ之ニ不當ノ特權ヲ與ヘテ他ノ債主ニ損害ヲ蒙ムラシメ其夫ヲ  
シテ理由ナク夫婦間ノ財産ヲ救護スル不正當ノ利益ヲ得セシメサル  
ヲ要スルナリ

諸國法律ノ此點ニ於ケルヤ大体ニ就テハ粗相同シト雖モ其異ナルコ  
ト亦タナシトセス然レハ其異ナル所復タ論ヲ費ヤスニ足ラス其國ニ  
行ナハル、夫婦間ノ財産ニ係ル規則ト相聯結シ此ニ之ヲ細論スル能  
ハサルナリ〔佛國商法第五百五十七條乃至第五百六十四條白國商法第

五百五十三條乃至第五百六十條獨逸倒産法第廿五條第卅七條「ザルウ  
エ」[第二百四十葉以下]

第三款 債主集會

第一千八十九條

債主集會ハ倒産主任官之ヲ召集統宰ス召集ハ會議ノ事  
件ヲ記スル公告ヲ以テス此集會ニ加ハル者ハ管理人及  
要求ノ認定ヲ受ケ若クハ假ニ許容セラレタル債主トス  
債主ハ代人ヲ出スヲ得倒産者ハ會議ニ呼出スヲ得  
先取權或ハ別取權ノミニ就キ異議ヲ受ケタル者ハ尋常  
ノ債主トシテ參會ス

本案ニ從ヘハ債主ハ大体唯ク訴訟ノ相手タル權利ヲ有ス即チ自己ノ  
權利ヲ申立テ及辨護シ得ルニ止マリ處分上ニ一モ威權ヲ有セス倒産  
主任官及ヒ裁判所該處分ヲ主掌ス

夫レ倒産處分ハ裁判處分ニシテ國ノ裁判權ハ以テ營財能力ヲ失ナフタル倒産者ニ代ルモノトシ倒産者ノ權利及ヒ財産處分權ヲ債主全体ニ移スノ主義ハ一切之ヲ採ラス故ニ債主ヲシテ財産ノ管理ニ加ハラシメ元來裁判所及ヒ倒産主任官ニ歸スル管理人監督權ヲ之ニ與フルノ因由ナシ佛國英國及ヒ獨逸ノ法律ニ從ヘハ眞管理人ハ債主之ヲ撰定シ又英獨ノ法律ハ管理上重要ナル事件ニ在テハ債主或ハ債主總代ノ同意ヲ要ストナス(獨逸倒産法第百十八條以下第百二十五條英國千八百六十九年ノ法律第十四條及ヒ第二十條)蓋シ此等ノ法律ハ舉世自治政ヲ稱揚シ此主義ヲ裁判處分ニモ移スヘシト信シタリシトキニ起リタルモノニシテ此主義タル本來論スルコ足ラサルノミナラス總債主ヲシテ(其要求ノ割合ヲ以テ)負債者ノ財産ニ想像上ノ共有權アラシメ債主ノ本義ニ戻ル所ノ擬定ヲ以テ右主義ノ根據トスルモ其當ヲ得

タリト謂フヘカラス之ヲ實際ニ徵スルモ技倆アル有驗常職ノ管理人ヲシテ其財産ヲ管理セシメ裁判所ヲシテ之ヲ監督セシムルハ隨意若クハ偶然ニ出ル債主ノ多數決ヲ以テスルヨリ遙カニ債主ノ爲メ利アリトスル所ナリ故ニ債主集會ハ本案ニ依リ倒産主任官ノ召集ヲ竣クシメ該官ハ自己ノ量見又ハ管理人ノ申立ニ依リ債主ニ方案ヲ示シ債主ノ承諾ヲ得テ自己又ハ管理人ノ爲メニ償還要求ヲ防クノ權アリ是レ特ニ重要ナル管理事件ニシテ債主ノ損失トナルノ憂アルモノニ就テ然ルモノナリト雖モ該官ハ必スシモ之ヲ爲スノ義務アルコト非ス法律上ノ權限内ニ在テ自己ノ責任ヲ以テ事ヲ處スルヲ得ルナリ然リト雖モ債主集會ノ緊要ナルモノハ法律ヲ以テ之ヲ定ム例ヘハ債主ト負債者ト和解ノ約ヲ結フコトニ係ル第一集會是レナリ故ニ債主集會ヲ開クノ原則ヲ定ムルハ缺クヘカラス(佛國商法第五百四條乃至第五百

六條白國商法第五百九條乃至第五百十一條ニ於テハ和解會議(コンコルダート)ノ規則中ニ之ヲ掲ク然レモ是レ第一集會ニ限ラス自餘ノ會ニモ適用スヘキモノナルヲ以テ獨逸倒産法第八十五條以下ニ於ケルカ如ク特別ノ條款ヲ設ケテ之ヲ定メ殊ニ債主ノ權利實行ニ關スル規則ト連接セシムルヲ以テ便宜トス

此規則ハ大体ニ於テハ既ニ援用シタル諸國ノ法律ト同シ(英國千八百六十九年ノ法律第十六條)仍ホ其詳細ニ至テ論スヘキモノ左ノ如シ  
集會ノ召集ハ倒産主任官公告ヲ以テ之ヲ爲ス此ニ例外トナルモノハ第一集會ニシテ第七十七條ニ從ヒ特別ノ書面ヲ以テ所在分明ナル債主ヲ呼出スヘシ佛國ニ於テモ亦タ然リトス(アラワール)第五冊第二百五葉佛國商法第四百九十二條)以テ其召集ノ倒産主任官ノ手ニ出テタルト該官ノ命ニ依リ裁判書記ノ書面ヲ以テシタルトハ一モ問フコトナ

シ右ノ外ナル集會ニハ特別ノ召集ヲ要セス何トナレハ其召集ヲ爲サ  
ルニ居クモ該官ノ隨意タレハナリ獨逸倒産法第八十五條ニ依レハ  
管理人、債主總代又ハ一定數ノ債主ヨリ請求アルトキハ召集スルノ義  
務アリト爲ス此ノ如キ義務上ノ召集ハ本案ノ主義ニ依レハ其理由ナ  
キモノニシテ況ンヤ債主ハ倒産主任官ニ此ノ如キ申立ヲ爲スヲ得ル  
モノニシテ又之ヲ債主ノ議決ニ付スルノ準備ヲ爲スハ倒産主任官ノ  
自由ニアルニ於テヤ又倒産者ヲ呼出スハ辨解等ノ爲メ其臨席ヲ必  
要トスル時ニ於テス

先取權及別取權ヲ有スル者ニ關スル規則ハ其者特別ノ抵當物ヲ得タル  
ルカ爲メニ一般倒産品ノ配當ニ與カラス且之ニ就テ可否ノ權ヲ有ス  
ルコトヲ得サルニ因リテ立テタリ今ヤ其要求權ニ異議ヲ受ケタルト  
キハ第千八十二條ニ從ヒ他ノ債主ト同シク假リニ會議ニ許容セラレ

唯々其先取權ノミニ異議ヲ受ケタルトキハ少ナクモ之ヲ尋常ノ債主ト看做シ之ト同一ノ權利ヲ得セシムヘシ(佛國商法第五百一條英國千八百六十九年ノ法律第十六條第四項)又右ノ債主ト同視スヘキ者ハ先取權ヲ任意棄捐シタル債主又ハ先取權ヲ執行シタルモ全額ノ辨償ヲ受ケサル債主是レナリ何トナレハ其不足額ニ就テハ第千五十三條ニ從ヒ尋常ノ債主ト看做シ得ヘキモノナレハナリ(獨逸倒産法第八十八條)

## 第千九十條

可否ハ現在員及要求金額ノ過半數ヲ以テ決スルヲ例トス

是レ獨逸倒産法第八十六條佛國商法第五百七條白國商法第五百十五條英國千八百六十九年ノ法律第十六條第八項ニ掲ク右佛國以下ノ法

律ニ依レハ要求額ノ四分三ヲ要スト雖モ爲メニ決ヲ取ルノ或ハ難キコトアルノ一點ヨリ論シテモ通常集會ニ於テハ簡單ノ多數ヲ用ユルヲ便宜トスルカ如シ是ヲ以テ會議ノ決ニ効力アラシムルニハ此法ニ依ルトキハ必要ニアリ曰ク現在員中ノ多數ニヨリ此多數ニ加ヘテ仍ホ現在員要求總額ノ過半以上ナルコト是レナリ其一アリテ其二ナケレハ不充分ニシテ今夫レ債主二人若クハ三人ニシテ要求ノ多數ヲ占ムルモ他ノ債主二十人或ハ三十人ニ對シテ勝ヲ占ル能ハス是レ人員ノ多數ヲ以テ小債主ノ利益ヲ保護シ人員上ノ勢力ヲ會議ニ於テ有セシムルモノナリ

## 第千九十一條

會議ニ於テ倒産主任官ハ從來ノ處分ニ就キ管理人ハ管理ノ方法及ヒ結果并ニ倒産品ノ形狀ニ就キ報告ヲ爲シ

集會ハ此報告ニ就キ倒産主任官又ハ管理人ノ提案ニ就キ及債主ノ請求又ハ倒産主任官ノ許可ヲ經タル負債者ノ請求ニ就キテ議決シ此議決ハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

本條ハ債主集會ノ通常職掌トスル目的ヲ示スモノニシテ(佛國商法第五百六條第五百三十六條)本案ニ於テハ法律上又ハ裁判上處分ノ經歷ニ就キ倒産主任官ニ又管理ノ結果及ヒ處置ニ就キ管理人ニ報告ヲ擔任セシムルヲ以テ便宜ニ適スルモノト視タリ倒産者ハ呼出ヲ受クルトキニ限り申立ヲ爲スヲ得ヘシ而シテ其中立亦タ倒産主任官ノ許可ヲ要ス若シ然ラサレハ往々採用スヘカラサル不當ノ中立ヲナス患アリ集會議決ハ裁判所ノ許可ヲ受クヘキモノニシテ(獨逸倒産法第九十一條)多數ノ爲メニ壓抑セラレタル債主又ハ管理人ノ此議決ニ對シ異

議ヲ唱ヘ得ルハ論ヲ俟タス之ヲ特別ニ掲ルノ必要ナシ又裁判所ハ此ノ如キ異議ナキト雖モ其許可ヲ與ヘサルヲ得ヘシ何トナレハ權利法律及債主一般ノ利益ヲ保護スルハ裁判所ノ職權ニ在レハナリ英國千八百六十九年ノ法律第十四條ニ於テモ正當ノ理由アルトキニ債主ノ決議ヲ破毀スルノ權ヲ裁判所ニ與ヘタリ又佛國商法第五百三十六條ニ於テハ第一年ノ集會ヲ除クノ外債主ヲ呼出スコトヲ以テ倒産主任官ノ了見ニ任シタリ故ニ債主ノ決議ハ獨立ノ効力ヲ有スル能ハサルナリ

第七卷 和解

第一千九十二條

倒産者ニシテ法律上ノ義務ヲ履行シ且有罪倒産ノ爲メ  
處斷セラレタルニ非ス又審問中ニ在ルニ非サル者ハ倒  
産主任官ノ許可ヲ經第一集會ニ於テ債主ニ和解ヲ申立  
ツルヲ得充分ノ理由アルトキニ限リテハ以後ノ集會ニ  
モ之ヲ申立ツルヲ得但和解申立ハ一回ヲ以テ限トス  
第一集會ハ尋常調査期日ヨリ四週間内ニ之ヲ開ク和解  
ノ提案ハ二十日以前ニ裁判所ニ於テ公知ニ供シ其旨ヲ  
公告スヘシ

夫レ倒産和解(アツコルド「コンコルダート」アラソマン「コンボシヨ  
 ソ」ノ制ハ何レノ國ノ法律ニ在テモ是認スル所ニシテ(佛國商法第五百  
 七條乃至第五百廿六條白國商法第五百九條乃至第五百二十七條獨逸  
 倒産法第六十條乃至第八十七條和蘭商法第八百三十五條乃至第  
 八百五十一條西國商法第四百四十七條乃至第四百六十七條墺國倒産  
 法第二百七條乃至第二百四十五條英國千八百六十九年ノ法律第八十  
 條第十項第二百二十五條第二十六條)此和解亦タ他ノ和解ト同シク負債  
 者其債主ニ對シ某義務ヲ引受ケ其負債ヲ免ル、ノ効力アリ和解ハ通  
 常負債ノ幾割ヲ支拂ヒ殘額ノ義務ヲ免ル、ニ在リ例ヘハ各債主ニ五  
 割或ハ七割五分ヲ支拂ヒ殘額五割又ハ二割五分ヲ免除セラル然レモ  
 支拂延期或ハ利子ノ免除ヲ以テスルコトアリ故ニ和解アルヤ債主ニ  
 於テ多少免宥スル所アリ負債者ニ於テハ新義務ヲ踐行スルコトヲ明

約シ通常保證人又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ保證スルヲ要ス其他和解  
 ノ効力ハ負債者自己ノ財産處分及ヒ管理權ヲ復スルヲ常トス然レモ  
 此點ニ就テ制限スルコトアリ例ヘハ負債者ヲ債主ノ監視ニ付シ或ハ  
 某物品ヲ債主ノ手中ニ留置スルコトアルニ止マラス其免除ヲ受クル  
 爲メ現存ノ財産ヲ悉皆債主ニ引渡スコト亦タナシトセス此種類ノ和  
 解ハ佛國ニ於テ(コンコルダート、パル、アバンドン)千八百五十六年七月  
 十七日ノ法律ヲ以テ特定セリト雖モ是レ亦タ他ノ和解ト同一ノ事由  
 ト効力トナシ他ノ和解ニ於ルト同シク更ニ之ニ就テ規則ヲ立ルハ  
 必要ニ非ス

債主ハ負債者ト自由ニ和解ヲ取結フヲ得ヘシト雖モ法律上ノ制限ハ  
 之ヲ守ラサルヘカラス此制限ヤ不法無道ノ和解ヲ防キ思慮隨意ニ出  
 テタル債主ノ承諾ヲ支フルヲ以テ目的トス



今ヤ裁判所ニ於テ負債者ノ全財産ヲ管理スルニ於テハ債主ノ要求ヲ充ツルコト大ニ確實完全ナルヘク且債主ハ必スシモ免除ヲ爲スノ義務アルニ非ス然ルニ如何ナル理由アリテ債主ハ和解ヲ承諾スルニ至ルヤトノ問題アラン蓋シ和解ハ債主ニモ幾多ノ利益ヲ與フル者ニシテ今裁判所上ノ管理ヲ止ムルトキハ或ハ多額ニ至リ倒産品ノ多分ヲ消糜スヘキノ費用ヲ節シ又負債者ハ自己ノ管理ヲ以テスレハ即時賣却ノ無限義務ヲ免レ倒産品ノ現在額ヲ増加シ其他和解アルニ非サレハ得ヘカラサル所ノ友人親族ノ扶助及前貸ヲ受クルコトアルヘシ加之債主ニ於テ免除スルモノ取引上ノ斟酌ヨリ生スルコトナシトセス殊ニ負債者ノ罪過ナク全ク偶然ノ不幸ノ爲メニ倒産ニ至リタル場合ノ如キ最モ然リトス

又本案ノ主義ヨリ論スレハ倒産ノ和解ハ必スシモ立法者ノ待遇スル

モノニ非ス本案ハ此點ニ就テ最近ノ法律ヲ採ラス之ヲ實驗ニ徵スルニ債主ハ幾割ノ辨償ヲ受ルヲ以テ既ニ其幸トシ煩雜ナル裁判處分ヲ嫌ヒ其免除ヨリ生スル一般ノ結果ハ其注意スル所ニ非サルヲ以テ和解ヲ爲スコト甚タ多シ伯林府ニ於テハ千八百五十五年乃至千八百七十三年ノ十八年間ニ府裁判所ノ處分ニ屬シタル倒産中百分ノ四十八ハ和解ヲ以テ落着シ其配當ニ至リタルモノハ百分ノ四十八ニ止マリ即チ大凡一半ハ和解ヲ以テ終レリ而シテ和解ノ成ハ多數決ノ壓制ニ出テ或ハ債主ノ親友中切情アル兩三輩ノ慫慂或ハ多數債主ノ無事柔弱ニ生スルコト多ク且會議ニ於テハ主唱者ノ提案スル所多クハ採用シラル、モノナリ何トナレハ總會員ノ精神及德義上ノ力ハ常ニ一二會員ノ才智勇敢ニ敵スル能ハサレハナリ故ニ倒産者ハ和解ニ依リ法律ノ嚴酷ヲ免カル、チ得ルコト容易ナリ然レモ是レ希望スヘキ結果ニ

非ス許多ノ債主ハ之カ爲メ巨額ノ資本ヲ失モ和解ノ恩典ハ以テ多少  
 負債者ノ疎虞ナル行爲ヲ是認シ惡心アル商人ヲシテ詐僞倒産ニ誘ナ  
 フ媒介トナル何トナレハ二三回ノ倒産和解ハ以テ富人トナルノ本ダ  
 レハナリ蓋シ近來倒産者ノ數大ニ増加セシモノハ法律ヲ以テ和解ヲ  
 特遇シタルコト與カリテ力アリト云フヘシ故ニ本案ニ於テハ普通殊  
 ニ最近ノ法律ニ於ケルヨリ一層和解ノ規則ヲ嚴ニスル所アルヲ以テ  
 必要ト視タリ

本條ニ於テハ第一ニ和解ノ提案ヲ爲スニ闕クヘカラスル要件ヲ列舉  
 ス即チ左ノ如シ

第一 倒産者ノ倒産者トシテ法律上履行スヘキ義務ヲ履行シタルヲ  
 要ス苟モ此義務ヲ履行セサル者ハ初メヨリ其正實良意ノ信スヘキモ  
 ノナシ故ニ和解ノ寵遇ヲ許與スヘカラス殊ニ其遵行スヘキモノハ第

千五十八條及第千六十七條ノ規則是レナリ今ヤ負債者ニシテ倒産届  
 出チナサス又ハ正確眞實ノ比較表ヲ差出サス又ハ失踪シ又ハ財産ヲ  
 竊ニ轉匿セル者ハ和解ノ恩遇ヲ要求スルコト能ハサルヤ勿論ナリ又  
 第千四十四條及ヒ第千四十五條モ茲ニ關係ス即チ該條ニ掲クル取引  
 ナ以テ故ラニ債主ニ害ヲ加ヘント欲スルトキ是レナリ他國ノ法律ニ  
 ハ多クハ此要件ヲ狹クス故ニ不完全ナリ(獨逸倒産法第百六十二條第  
 一項白國商法第五百十六條第五百二十條佛國商法第五百十四條)佛國  
 法律ニ於テハ汎ク倒産ノ性質和解ノ許否ニ就テ論シ唯々裁判官ノ之  
 ナ破毀スルコト、許容スルコト、ニ係リ敢テ初ヨリ法律上許否ノ事  
 由ヲ定ムルコトナシ

第二 負債者ノ有罪倒産ノ爲メ處斷セラレタルニ非ス或ハ其審査中  
 ニ在ルニ非サルコトヲ要ス他國ノ法律ニハ此點ニ就テ獨リ詐僞倒産

ヲ舉テ過怠ニ出ル通常ノ倒産ハ此ニ之ヲ問フコトナシ(佛國商法第五  
 百十條白國商法第四百九十五條第五百四條獨逸倒産法第百六十二條)  
 蓋シ過怠及詐僞倒産ハ外面上同一ノ行爲ヲ以テ起ル其差違タル唯々  
 債主ニ害ヲ加ヘントノ意アルト否トニアリ此意ヤ證明シ難キコト往  
 ヲニシテ假令ヒ負債者詐僞ヲ行フカ或ハ殆ト之ニ等シキ行爲アルモ  
 過怠倒産ノミノ罰ヲ受ルニ止マルヲ多トス又詐僞ノ行爲ナキモ過怠  
 ノ倒産ハ有罪有責ノ行爲タルヲ免レス而シテ債主ニ損失ヲ蒙ラシメ  
 タル罪アル者ニ尙ホ恩惠ノ和解ヲ爲スコトヲ得セシムルハ權宜ノ許  
 サル所ナリ審査ハ未タ必シモ被告人罪アルノ證ニ非ス故ニ放免セ  
 ラレタルトキハ和解申立ヲナスヲ得ヘシ然レモ其審査中ハ之ヲ許ス  
 ヘカラサルナリ(獨逸倒産法第百六十二條第二項)

第三 倒産主任官ノ許可ハ和解申立ノ旨趣ニ關セス唯々其法律上許

スヘキヤ否ニ係ルモノニシテ法律ニ適セス許容スヘカラサルコト願  
 然タル申立ハ初ヨリ受理スヘカラス獨逸倒産法第百六十四條ニ於テ  
 ハ此假審査ヲ債主總代ニ任ス是レ本案ノ主義ニ適セス殊ニ是レ其法  
 律上ノ審査ニ關スルヲ以テ倒産主任官ニ任スルヲ以テ至當トス故ニ  
 倒産主任官ノ審査スヘキハ本條ノ規則踐行セラレタルヤ否負債者ノ  
 和解ニ差出サントスル金額ニシテ其倒産品ノ貸方ニ對シ少キニ過キ  
 サルヤ否負債者果シテ和解契約ヲ履行スルノ力アルコトヲ證明シタ  
 ルヤ否充分ノ保證ヲ立テタルヤ否等ニ係ル(獨逸倒産法第百六十一條)  
 倒産主任官其和解ヲ許スヘカラスト認ムルトキハ負債者之ヲ申立ル  
 ヲ得ス然レモ後ニ至リ其申立ヲ改正シテ差出スハ妨ケナシ  
 第四 和解申立ノ時日ハ調査期日ト第一債主集會期日トノ間ニ在ル  
 ヲ例トシ其申立ハ此債主集會ノ議ニ附スヘキ者ナレハ其理由如何ト

ナレハ貸方借方ヲ精知スルニアラサレハ和解申立ノ當否ヲ正シク判  
斷スルヲ能ハサレハナリ第一集會ハ調査期日ノ後四週内ニ之ヲ開  
クヘシ是レ一ハ異議ヲ受ケタル要求ヲ裁判スルニ充分ノ時日ヲ貸サ  
ン爲メ(第千八十二條)一ハ管理人及ヒ債主ヲシテ和解申立ヲ了知審査  
スルコトヲ得セシメン爲メナリ本條ノ末段ハ即チ之カ爲メニ設クル  
ナリ(獨逸倒産法第百六十五條第百六十六條)佛國商法第五百四條ニ於  
テハ其期限稍短縮ス

第五 何レノ倒産ニ在テモ和解申立ハ一度ニ限ル(獨逸倒産法第百六  
十三條)其申立ハ眞實精確ニ思慮ヲ加ヘ債主ノ總テ差出サントスル所  
ノモノハ實ニ差出スコトヲ得又實ニ其義務アルモノニ限ル今夫レ數  
回續々和解ヲ申立ツルヲ得ルニ於テハ初メ差出サントスル所ヲ少  
ナクシ債主ノ意向ヲトナフノ憂アリ此ノ如キ謀計ハ許スヘキニ非サ

ルナリ然レモ第一集會ニ於テ雙方協議調ナフトキハ申立ノ變更ヲ爲  
スモ妨ケナシ唯タ最初協議成ラサルニ及ンテ更ニ申立ヲ爲スハ之ヲ  
許サス

### 第千九十三條

和解ヲ承諾スルニハ集會現在員ノ過半數ニシテ可否權  
アル要求ノ全額四分三以上ニ達スルヲ要ス  
可否權アルハ先取權ナキ者ニ限り先取權アル者ニシテ  
此權アルハ其先取權ヲ棄捐シタルトキニ限ル

和解ヲ承諾スルニハ總債主ノ同意ヲ要セス其過半數ニ及フキハ既ニ  
足レリ若シ總數ノ同意ヲ要スヘシトセハ百ノ和解皆ナ成ルヘカラサ  
ルヲ多トスヘシ否ヲ唱フル債主ニシテ多數ノ爲メニ制セラル、ハ其

私權ヲ干犯スルノ嫌アルニ似タリト雖モ此干犯ハ倒産處分ノ性質然ラシムル所ニシテ不法ニ非ス蓋シ個々債主ハ倒産ノ爲メニ個々要求ノ辨償ヲ受クルノ權ヲ失ヒ其要求變シテ畫一ノ割合ヲ以テ倒産品ニ對スルノ要求トナリ債主ハ互ニ共同シ共同ハ皆十多數ニ重テ歸スルノ必要ヲ生ス是レ則チ此共同ニ加ハラサル債主ニ和解ヲ及ホサス其可決ニ加ハルチ許サ、ル所以ナリ共有ニ加ハラサル債主トハ書入、質入、其他先取權ニ依リ他ノ債主ヲ除キ倒産品ノ一部ヲ以テ辨償ヲ受クル者ヲ云フ而シテ此ノ如キ者ヲ除クノ外ハ皆十多數ノ議ニ從ハサル可ラス是レ別ニ明言スルヲ須ヒス多數決ノ意義ヨリ自ラ然リ故ニ佛國商法第五百十六條及ヒ獨逸倒産法第七十八條ノ規則ハ贅言タルヲ免レス又第千八十三條ニ載スルカ如キ不參ノ債主或ハ未タ可否ノ權ナキ債主ハ多數決ニ服從スヘキヲ亦タ普通ノ原則ニ從ヒ自カラ明

十

コシテ唯タ異議申立(第千九十四條)ヲ以テ自己ノ權利ヲ保護スルヲ得ルニ止マル然レモ此多數決亦以テ獨立ノ効力ナク加フルニ裁判所ノ許可ヲ以テセサル可ラス

書入質主或ハ質主ニシテ尙ホ外ニ尋常ノ要求權ヲ有スル者ハ其要求ニ就テ可否ニ與カルチ得ルハ言ヲ俟タス然レモ其書入或ハ質入上ノ要求ニ就テハ債主一モ失ナフ所ナシ何ントナレハ別ニ充分ノ辨償ヲ受クレハナリ之ヲ參席セシメサルハ一モ失ナフ所ナキカ爲メニ如何ナル和解モ之ヲ贊成シ尋常ノ債主ニ害ヲ及ホスカ故ナリ故ニ其先取權ヲ放棄シタルトキニアラサレハ議決ニ與カルコトヲ得ス(佛國商法第五百八條白國商法第五百十三條獨逸倒産法第六十條)

然レモ書入物或ハ質物ノ其價額ヲ失ヒ或ハ他ノ債主其先ニ在ルカ爲メ等ニテ其債主ノ先取權一モ効用ナク或ハ其効用一部分ニ止マルコト

ナシトセス此ノ如キ債主ハ其要求ノ不足額ニ就キ倒産品中ヨリ辨償ヲ求メサルヲ得ス今ヤ此額ニ就テ尋常ノ債主ト爲シ可否決ニ與ラシムルハ權宜ノ然ラシムル所タルニ似タリ然レモ可否決ニ加ハルニハ其與カル額ヲ以テ限トシ先取權ヲ棄捐セサル可ラサルナリ(ブラワー)第五冊第三百七十七葉獨逸倒産法第八十八條

多數ハ他國ノ法律ト同シク二様ニ算ス即チ一ハ債主ノ數ニ隨ヒ一ハ其要求額ニ準ス(佛國商法第五百七條白國商法第五百十二條獨逸倒産法第六十九條英國千八百六十九年ノ法律第十六條第八項)其理由ハ第千九十條ニ於テ既ニ説明シタリ本條ノ特別場合ニ於テハ總要求額ノ四分三ヲ要スト爲ス是レ少數債主ノ多數債主ニ抑制セラル、コトヲ可及的減センカ爲メナリ各國法律ニ於テハ第一集議ニ在テ右ノ法律上ノ多數ヲ得サレハ第二集會ニ於テ再度ノ會議ヲ許スモノアリト

雖モ(佛國商法第五百九條白國商法第五百十五條獨逸倒産法第六十九條)是レ徒ニ負債者ヲ寵遇スルモノニシテ充分ノ理由アルニ非ス且不正ノ謀計或ハ賄賂ヲ誘起スル媒介トナルヘシ故ニ本案ニハ之ヲ採用セス

### 第千九十四條

承諾セラレタル和解ハ裁判所ノ認可ヲ得テ始メテ効力アリ其判決ハ倒産主任官ノ供述ニ依リ二十日間ニ之ヲ爲ス管理人及可否權アル債主并ニ後日ニ至テ要求ノ認定ヲ受ケタル債主ハ此期限内ニ理由ヲ付シタル異議ヲ裁判所ニ申立ルコトヲ得

議決ヲ以テ承諾セラレタル和解ハ裁判所ノ認可ヲ得テ初メテ法律上

ノ効力アルコト普ク是認セラレタル所ナリ(佛國商法第五百十三條第  
 五百十四條白國商法第五百十七條第五百十八條獨逸倒産法第七十  
 條以下)其判決前ニ負債者管理人其他ノ者ヲ訊問スルト否トハ裁判所  
 ノ自由ナリ唯タ倒産主任官ノ法廷ニ於テ供述ヲ爲スコトハ缺クヘカラ  
 ス其判決ヲ爲スハ官權ヲ以テシ法式的ノ申立ヲ爲シ其許否ヲ仰クハ  
 必要ニ非ス佛國商法第五百十三條及ヒ獨逸倒産法第七十三條ノ之  
 ニ反スル規則ハ贊成スヘキモノニアラス何トナレハ債主集會ノ決議  
 ハ抑モ裁判所ノ認可ヲ要スレハナリ以テ可否ノ權ヲ有スル債主及ヒ  
 後日此權利ヲ得タル債主ハ皆和解ニ對シ異議ヲ申立テ其棄却ヲ請求  
 スルヲ得ヘシ(佛國商法第五百十二條白國商法第五百十六條獨逸倒産  
 法第七十三條)其管理人ニ此權ヲ與ヘタルハ倒産品ノ摸樣及ヒ倒産  
 者ノ動止ヲ判スル該人ヲ以テ最トシ裁判所ヲシテ其之ヲ採用スヘキ

ヤ將タ棄却スヘキヤニ就テ最モ確實ナル辨解ヲ得セシムレハナリ然  
 レモ不埒ノ異議申立ヲ防カン爲メニ其異議ニ付スルニ理由ヲ以テス  
 ルコトヲ定メタリ今ヤ理由ヲ付セサル異議ハ時ヲ後レタルノ可否ニ  
 シテ許スヘカラサルモノナリ

第一千九十五條

左ノ場合ニ於テハ和解ヲ棄却スヘシ

- 一 第一千九十四條及ヒ第一千九十一條ニ定ムル規則ヲ踐  
 マサルトキ
- 二 同意セサル債主ニシテ其和解ノ爲メニ偏頗ノ處  
 置ヲ受ケ損害ヲ蒙ムルトキ
- 三 詐偽其他不正ノ方法ニ由テ和解ヲ生シタルトキ

四 法律德義又ハ債主一般ノ利益ニ背馳スルトキ  
但倒産者及總テ異議申立ノ權アル者ハ棄却ノ判決ニ對  
シ控訴スルヲ得

裁判所ノ和解ヲ棄却スヘキノ理由(之ヲ修正スルノ權ハ裁判所之ヲ有  
セス)ハ本案ニ於テモ他國ノ法律ト同シク之ヲ列擧ス唯ク其異ナル所  
ハ明瞭精悉ヲ加ヘタルニ在リ(佛國商法第五百十五條白國商法第五百  
十七條獨逸倒産法第六十八條第七十二條第七十三條)夫レ法式  
上ノ規則ヲ犯スハ許スヘカラス何トナレハ是レ匆卒不正ノ所作ヲ防  
クヘキモノナレハナリ同意セサル債主等ニ對スル偏頗ノ處置ハ少數  
者ヲシテ全ク保護ヲ失ナハシムルニ至ラン詐偽ノ存スルハ故ラニ貸  
方ヲ隱蔽シ或ハ借方ヲ偽記シ或ハ貸方ノ價格ヲ故ラニ貴ク記シ或ハ

無實ノ融通方法等ヲ掲ケ或ハ賄囑等ニ因リ個々債主ノ同意ヲ得タル  
トキ等ニ在リ其法律及德義ニ戻ルハ負債者ヲ利スルニ過キ或ハ負債  
者疎慮又ハ過度ノ投機ヲ以テ倒産ニ至リタルトキ或ハ自己ノ不足額  
ニ充分ノ説明ヲ與フルコト能ハサルトキ商人タルノ名譽ヲ汚穢シタ  
ルトキ或ハ其和解唯ク外觀ヲ主トスルトキ或ハ確實ニ和解ヲ踐行シ  
得ヘキヤニ疑ヒアルキ等ニ在リ債主ノ共同利害ハ主トシテ負債者ノ  
提供スル割前ノ額如何ニ在リ故ニ其實ニ提供シ得ヘキモノヨリ少ナ  
ク提供シタルトキハ裁判所敢テ之レヲ認可スヘカラス然レモ是レ履  
行ノ方法ヲ充分ニ證明シ爲メニ保證ヲ立ルノ如何ノニモ關ス(アラワ  
ール第五冊第四百十一葉乃至第四百十五葉個々ノ債主ヲ擯斥シタル  
キハ假令ヒ其承諾ヲ經タルモ法律或ハ德義ニ戻リ他ノ債主ヲ利スル  
ニ於テハ其和解ヲ棄却スルヲ得ヘシ其他負債者無辜ノ不幸ニ出ルニ



非スシテ數回倒産シタルトキ亦タ然リ裁判所ハ此點ニ就テ獨裁權ヲ有スルモノニシテ獨逸倒産法第七十三條ニ此ノ如キ理由ニ出ル棄却ヲ債主ノ申立アルトキニ限ルハ其當ヲ得ス蓋シ此點ニ就テモ輿論ヲ斟酌シ又法律並ニ道義ノ保護ニ注意ヲ用ヒサルヘカラス故ニ佛國商法第五百十五條ニ於テハ公共ノ利益ヲ酌量スヘシト明言ス(ザルウエー第六百七十二葉以下)

裁判々決ニ對スル控訴ハ他ノ諸國法律ニ於テモ之ヲ許ス(獨逸倒産法第七十四條佛國商法第五百十九條「ブラワール」第五冊第四百十八葉)

### 第一千九十六條

倒産者後日ニ至リ有罪倒産ノ處斷ヲ受ケタルトキハ其和解自カラ消滅ス若シ其審査中ニ在ルトキハ放免ノ申渡ヲ受ル迄之ヲ停止ス但前條第三項ニ載セタル理由ニ

出ルトキハ後日ニ於テモ異議申立ヲナスコトヲ得

是レ佛國商法第五百二十條以下白國商法第五百二十一條第五百二十二條獨逸倒産法第八十二條第八十三條ニ揭ク獨逸倒産法ニ於テハ詐偽ノ爲メニ和解ヲ異議シタルノ効驗ヲ要求ノ免除及ヒ其異議ヲ申立タル債主ニ限ル是レ不正ノ倒産者ヲ利スルコト甚シキモノニシテ決シテ贊成スヘキニアラサルナリ(ザルウエー第六百九十葉)

### 第一千九十七條

和解確定シタルトキハ管理人ハ直ニ其職ヲ罷メ清算ヲ爲シ倒産者ハ別ニ和解ニ定ムル所アルニ非サレハ自己ノ財産ノ引渡ヲ受ケテ自由ニ管理處分スルヲ得但和解ノ實行ハ倒産主任官ノ監視及媒介ヲ以テ之ヲ爲ス

法律上確定シタル和解ハ倒産處分全体ヲシテ終結ニ至ラシムル効驗アリトハ往々世人ノ稱スル所ニシテ獨逸倒産法第七十五條ニ於テハ該法ニ於ケル以下ノ諸條ト牴觸スルコトモ拘ラス明ニ之ヲ掲ケタリト雖モ敢テ然ルモノニアラス倒産處分ハ唯々要點ニ於テ其形狀ヲ變シ和解契約ノ許ス所ヲ限トシテ負債者其財產ノ管理及處分ノ權ヲ回復スルノミ今ヤ放讓和解ノ如キ負債者財產ノ全部又ハ一部ヲ債主ノ管理ニ附シ悉皆之ヲ其辨償ニ充ツルコトナシトセサルナリ(佛國商法第五百十九條第五百四十一條千八百五十六年七月十七日ノ同國法律獨逸倒産法第七十七條白國商法第五百十九條)佛國及ヒ白國ノ商法ニ於テ和解ノ効驗ヲ説ク其當ヲ得タリ曰ク管理人ノ職掌止ミ負債者其財產ヲ受取り自由ニ管理スト又負債者ハ唯々其身ノ自由ヲ得テ新ニ契約ヲ結モ其所得ノ割合ヲ以テ債主ニ辨償スルニ止マルカ如キ亦

タ無シトセス之ヲ要スルニ和解及ヒ其實行ハ負債者ヲシテ復權セシムルニ非ス又倒産處分ノ全体之カ爲メニ止ムニアラス債主ヲシテ共同辨償ヲ受ケシムルノ一事ハ仍ホ存シ倒産者ハ裁判所ノ判決ヲ以テ認可ヲ經タル和解ニ基キ裁判執行ノ狀態中ニ在リ此和解ニハ確定裁判ノ性質ト裁判執行ノ負債名稱ノ性質トヲ存スルモノナリ(獨逸倒産法第七十九條)又和解ハ債主集會ニ參セス或ハ參スル能ハサリシ債主ニ對シテモ仍ホ其効驗ヲ存シ其一債主ニ對シテ其義務ヲ履行セサルトキハ輒チ和解廢止ノ結果ヲ生(獨逸倒産法第八十一條)ニ於テハ固ヨリ之ヲ是認セス是レ迷誤ニ出ツスルノ一點ヨリ論シテモ倒産處分ノ仍ホ連續スルハ知ルヘキナリ今ヤ此ノ如ク和解ノ後ト雖モ負債者ハ猶ホ裁判執行ノ狀態中ニ在ルヲ以テ倒産主任官ヲシテ和解履行ノ監視媒介ヲ爲サシムルハ最モ便宜ニ適セリトス即チ負債者ハ支

拂フヘキ金額ヲ倒産主任官ニ支拂ヒ該官ヨリ更ニ債主ニ交付スヘシ  
 是レ和解ノ履行ヲ監視スルノ最良方便ニシテ負債者之ヲ爲サス或ハ  
 遅延スルトキハ倒産主任官直ニ其履行ヲ督促シ或ハ差押ヲ施スヲ得  
 ヘシ又負債者和解ニ背キ或ハ其履行ノ妨害トナルヘキ行爲アルトキ  
 ハ該官之ヲ禁止スルヲ得ヘシ

佛國商法第五百十七條及ヒ白國商法第五百十八條ニ於テハ和解上ノ  
 債主ヲシテ倒産上ノ債主ト同シク倒産者ノ財産ニ對シ書入質主權ヲ  
 有セシム此ノ如キ佛國法律ノ特異ナル所ハ採用スルノ必用ナシ(獨逸  
 倒産法第一百八十條ザルウエイ第六百八十七條)

### 第一千九十八條

和解認可セラレサルトキ又ハ後日消滅シ或ハ棄却セラ  
 レタルトキ又ハ履行セサルカ爲メニ廢止セラレタルト

キハ再ヒ倒産處分ヲ施シ直ニ倒産品ノ賣却及配當ヲ以  
 テ其局ヲ結フ但此處分ニハ其間ニ要求權ヲ得タル債主  
 モ參加スルコトヲ得

右不履行ノ場合ニ於テハ和解ノ爲メニ立テタル保證人  
 其義務ヲ免ル、ヲ得ス

和解ヨシテ認可セラレス或ハ後日其効力ヲ失ヒ或ハ負債者之ヲ履行  
 セサルトキハ是レ新ニ支拂停止ヲ生シタルモノニシテ負債者ハ全ク  
 倒産ノ状態ニ復ス故ニ其間ニ和解ノ生セサリシト同一ノ作用ヲ生シ  
 裁判所ニ於テ其倒産品ヲ管理スルノコト始マル然レモ今回ハ第一千七  
 十一條ニ掲クル酌量ヲ用ヒス專ラ債主ノ爲メニシ再ヒ必要ト認ムル  
 トキハ新ニ貸方借方比較表及ヒ財産目錄ヲ製シ又新債主ヲ督促シテ

其要求ヲ届出及證明セシム之カ爲メニハ新ニ調査期限ヲ立ツ是レ佛國商法第五百二十二條乃至第五百二十四條ニ明言スル所ナリト雖モ再ヒ倒産處分ヲ施ストノ一語アレハ自カラ明瞭ナリ(獨逸倒産法第八十六條及ヒ第百八十七條白國商法第五百二十四條)而シテ和解廢止ノ申渡アルヤ負債者ハ一旦其得タル財産處分權ヲ失ヒ再ヒ第千三十九條(其結果トモ)ヲ適用ス其負債者財産ヲ自由ニ處分スルノ間ニ引受ケタル義務ハ舊債主之ヲ是認セサルコトヲ得ス但タ詐僞又ハ支拂停止ニ係ル一般ノ理由ヨリシテ異議ヲ唱ヘ得ヘキモノハ此限ニアラス白國商法第五百二十三條ハ尙ホ此點ニ就テ其範圍ヲ廣クス(佛國商法第五百二十五條同民法第千六百六十七條獨逸倒産法第百八十五條)保證人ニ關スル規則ヲ設ケタルハ保證人ノ保證スル所ハ本負債者ノ其義務ヲ履行セサルトキノ爲メニスルモノナレハナリ佛國商法第五

百二十條白國商法第五百二十三條ニ於テモ同一ノ規則アリ然レモ和解認可セラレス或ハ後日消滅シ又ハ棄却セラレタル場合ニ於テハ(第千九十五條第千九十六條)右ニ反シテ保證人モ其義務ヲ免カレサルヘカラス何トナレハ本負債者ノ義務抑モ存セサレハナリ(佛國商法第五百二十條白國商法第五百二十二條)

新倒産品ハ新舊總債主ノ辨償ニ充ツヘキハ勿論ナレモ新債主ハ和解ヲ以テ舊債主ニ與ヘタル先取權又ハ抵當權ニ與カルコトヲ得ス舊債主ハ最初ノ配當ニ在テ辨償ヲ受ケサルモノヲ限トシ倒産品ノ配當ニ加ハルコトヲ得ヘキ勿論ナリ(獨逸倒産法第百八十六條佛國商法第五百二十六條)

負債者獨リ和解ヲ履行セサルニ止マラス抑モ其支拂ヲ停止シタルトキハ同シク本條ヲ適用スヘシ故ニ此場合ニ在テモ尋常ノ原則ニ從ヒ

再ヒ倒産處分ヲ開始完行スヘシ必シモ更ニ倒産申渡ヲ下スヲ須ヒス何トナレハ其和解ノ存スル間ハ負債者倒産ノ狀態中ニ在レハナリ(佛國商法第五百二十六條末段白國商法第五百二十七條)

佛國商法第五百二十九條乃至第五百四十一條ニハ債主連合ト稱スル一章ヲ設ケ此連合ヤ和解ノ成ラサルトキニ自カラ起ルモノナリ然レモ債主ノ連合ハ倒産ノ始メヨリ存シ和解中ニ於テモ綿續スルモノニシテ右ノ規則ヲ立ツヘキ論理上ノ原因ヲ見ル能ハサルナリ加之該章ハ主トシテ管理人ノ倒産品ヲ賣却スルコトニ係ルモノニシテ本案ハ既ニ第五卷ニ之ヲ載セタリ

## 第八卷 配當

## 第一千九十九條

第一千八十六條ニ掲クル要求及先取權アル要求ヲ支辨シテ殘ル所ノ倒産品ハ畫一ノ割合ヲ以テ他ノ債主ニ配當ス

法律上確定シタル和解ニ因リ負債者自カラ其支拂フヘキモノヲ支拂フトキニ非サレハ管理人倒産品ノ配當ニ着手ス配當ハ債主ヲシテ倒産品裁判上ノ管理ニ於テ其得ヘキ程度ヲ以テ支拂ヲ受ケシムルモノニシテ現存ノ倒産品中ヨリ第一ニ總債主共同ノ主義ニ依ルヘカラサル要求即チ倒産要求ノ性質ヲ有セスシテ倒産處分中其處分ノ爲メニ生シタル要求ヲ辨償スヘキハ説明ヲ要セス又書入質主質主其他ノ先

取權アル債主ニシテ別取權ノ執行ヲ以テ辨償ヲ受ケス或ハ其先取權ヲ全ク放棄セサル者ハ各其相當ノ順序ニ隨ヒ特別ノ抵當物ノ價額ヨリ前以テ支拂ヲ受クヘキコト言テ竣タス今ヤ右ノ支拂ヲ爲シタル後殘ル所ノ倒産品ハ各要求額ノ比例ヲ以テ同等ノ權利アル債主ニ配當ス故ニ各債主ハ其要求額ノ部割ヲ以テ平等ノ支拂ヲ受クルモノナリ  
 (佛國商法第五百六十五條自國商法第五百六十一條獨逸倒産法第二條)

### 第一千百條

配當ハ相應ノ倒産品存スル毎ニ管理人ノ調製シテ倒産主任官ノ許可ヲ受ケタル配當方案ニ基キ尋常ノ調査期日後ニ之ヲ爲ス其配當方案ハ公閱ノ爲メ裁判所ニ揭示ス但配當方案ニ對スル異議ハ右揭示ノ旨ヲ公告シタル

日ヨリ十四日ノ無猶豫期限内ニ裁判所ニ申立ルヲ得  
 配當ハ必スシモ一回ニスルヲ須ヒス相當ニ配當スヘキ倒産品集マル毎ニ數度ノ割拂ヲ以テ續々支拂フコトヲ得ヘシ但タ倒産主任官ハ個々ノ配當ヲ豫メ許否スヘキモノニシテ甚タ少額ナル配當ハ之ヲ許スヘカラス何トナレハ甚タ少額ノ金員ハ毫モ債主ヲ利スルコトナケレハナリ而シテ其配當ヲ受クルハ成規ノ認定(第千八十條)ニ依リ要求權ヲ執行スルコトヲ得ルニ至リタル者ニ限ル故ニ未タ要求ノ認定ヲ經サル債主ハ配當ニ加ハルニモ其認定ヲ待タサルヲ得ス然レモ自己ノ罪ニ出ルニアラスシテ認定遷延ニ及ヒタル債主ノ爲メニハ例外ヲ立テ既ニ之ヲ第千八十三條ニ掲ク(佛國商法第五百三條第五百六十七條第五百六十八條獨逸倒産法第四百三十三條第五百五十五條)故ニ此ノ如キ債主ハ其要求認定ヲ經テ實行スヘキモノトナルニ及ンテハ其要求ニ

相當スル以前ノ配當額ヲ前取スルコトヲ得ヘシ是レ則チ尋常ノ調査期日經過後ニアラサレハ配當ニ着手スヘカラストスル所以ナリ何トナレハ此時ニ至リ始メテ各債主ノ要求皆認定ヲ經ヘキヲ以テナリ然レニ相應ニ分配スヘキ現金ヲ存セサルトキ或ハ負債者ヨリ採用スヘキ和解ノ中立ヲ爲スノ期望アルトキハ倒産主任官ノ思料ヲ以テ尙ホ配當ヲ延期スルコトヲ得ヘシ故ニ配當ハ第一集會ノ後ニ始ムルヲ常トス(獨逸倒産法第四百十八條)

管理人ハ一己ノ了見ヲ以テ倒産品ヲ支出スルコトヲ得サルカ故ニ倒産主任官ノ許可ハ何レノ配當ニモ必要ナリ而シテ倒産主任官ハ唯々其配當大體ノ許可ヲ與フルニ止マラス其細目即チ毎回ノ部割及ヒ債主ノ配當名簿ニモ許可ヲ與ヘサルヘカラス蓋シ配當ハ初メ爲シタル認定ニ基キ之ヲ爲スモノナレハ自由ノ了見ハ此間ニ狭ムヲ得スト雖

モ管理人ハ錯誤等ヲ以テ法律ニ背馳スルコトナシトセサルナリ而シテ個々債主ハ調査期日ニ於ケルカ如ク配當方案ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得何トナレハ不正當ニ加入セシメラレ或ハ其割前高キニ過ルノ債主アリ又ハ其權アリ加入セシメラレサル債主アルカ如キコトナキニ非サレハナリ(獨逸倒産法第三百三十九條第四百十六條佛國商法第五百六十六條白國商法第五百六十一條)佛國白國ノ法律ニ依レハ管理入ハ毎月現在高報告書ヲ倒産主任官ニ差出サ、ルヘカラス然レニ是レ苛察ニ過キ且第七十四條ノ規則ヲ守ルニ於テハ實際ノ需要ナシ若夫レ配當方案(エター、ド、レバルナシヨソ)ハ佛國商法第五百六十九條及ヒ白國商法第五百六十三條ニ於テモ之ヲ明載ス

### 第一千百一條

支拂ハ其債主ノ提示スル負債證書ニ照ラシテ之ヲ爲シ

該證書ニ其支拂額ヲ付記ス若シ該證書ヲ提示スルコト能ハサルトキハ倒産主任官ノ認可ヲ得テ一覽表ノ登記ニ基キ支拂ヲナス但何レノ場合ニ於テモ債主ハ配當方案ニ受取證ヲ記スヘシ

是レ佛國商法第五百六十九條自國商法第五百六十三條ニ掲クル所ニシテ此規則ハ可及的無根ノ支拂ヲ豫防シ且其支拂ヲ爲シタル明證ヲ保存セン爲メニ設クルモノトス〔ブラワール〕第五冊第六百三十八葉

### 第一千百二條

倒産品ヲ賣却及配當シ終リタルトキハ債主集會ヲ開キ管理人之ニ決算書ヲ差出ス此決算書ニ係ル會議終ルトキハ裁判所ハ倒産主任官ノ申立ニ依リ倒産處分ノ落着ヲ申渡ス

此規則ハ佛國商法第五百三十七條自國商法第五百三十三條獨逸倒産法第七十八條及ヒ第四百十九條乃至第五百一十一條ニ掲ク管理人ノ決算書ハ集會ニ於テ債主ニ提示シ債主ハ之ヲ議シ且之ヲ異議スルヲ得ヘシ此異議ニシテ平和ニ其局ヲ結フ能ハサルキハ倒産裁判所之ヲ判決ス然レモ異議ヲ申立ル者ハ辨償ヲ受ケサル債主ニ限ルヘシ何トナレハ既ニ辨償ヲ受ケタル債主ハ別ニ要求ヲ起スヘキ法律上ノ利益ヲ有セサレハナリ〔ザルウエイ〕第四百六十二葉第二註若夫レ管理上ノ計算ニ係ル異議ヲ通常裁判ノ手續ニ付スルハ其當ニ非ス是レ管理人ノ其職ヲ執ル直接ニ倒産主任官間接ニ裁判所ノ監督ヲ以テシ且倒産品管理上ノ調査ハ倒産處分ノ一部分タルヲ疑ヲ容レサルノ一點ヨリ論スルモ既ニ然リ而シテ決算ニ係ル異議ハ集會ノ議決ニ依ルヘク其同意者過半数ニ及フニアラサレハ之ヲ裁判所ニ申立ツルヲ得サルナ



## 第一千百三條

倒産處分落着ノ後ニ辨償ヲ受ケサル債主ハ負債者ニ對シ制限ナク其要求ヲ實行スルヲ得但倒産處分ニ於テ認定ニ依リテ得タル權利名稱ヲ以テス

本條ノ規則ハ倒産處分落着ニ因テ生スル自然ノ結果ニシテ債主ノ連合ハ既ニ其終ヲ告ケ各債主個々ニ要求ヲ爲スノ權ヲ得(佛國商法第五百三十九條白國商法第五百三十五條千八百七十一年七月二十七日ノ同國法律、獨逸倒産法第一百五十二條)今ヤ要求ノ認定ハ裁判所ノ認可或ハ判決ニ依リテ成ルモノナレハ債主ハ更ニ負債者ニ對シ新訴訟ヲ起スヲ須ヒス負債者ノ再ヒ財産ヲ得ルニ於テハ直ニ右ノ認可若クハ判決ニ基キ之ニ對シテ裁判執行ヲ請フコトヲ得ヘキナリ獨逸倒産法ニ

十

於テハ此ニ制限ヲ立テ負債者ノ調査期日ニ於テ明ニ異議ヲ唱ヘサリシ所ノ要求ニ限り然ルヲ得ルモノトス是レ負債者ノ調査ニ於テ訊問セラル、ヤ唯タ辨明ノ爲メニスルニ止マリ敢テ被告ノ地位ヲ以テスルニ非スト云フニ出ツ然リト雖モ若シ此理由ヲ以テスレハ明ニ異議ヲ唱ヘサルカ爲メニ默諾ノ是認ヲ爲シタリトシタルコトモ不可ナルニ至ラン且倒産ニ於ケル要求ノ調査ハ原被兩告ノ對審ニ非ス干渉裁判主義ニ依リ總關係者ノ間ニ届出ノ要求ヲ調査スルニ止マリ又負債者ノ財産ニ關スル一切權利上ノ處置ニ於テ管理人ノ代理シタルコトハ倒産處分落着ノ後ニ取消スコトヲ得ス若シ取消スコトヲ得ルニ於テハ管理人ノ負債者ニ代リ起シタル訴訟ニ係ル判決ノ効力ニ對シテモ異議スルノ權ヲ負債者ニ與ヘサルヲ得サルニ至ラン右兩點ニ着目スレハ獨逸法ノ制限其當ヲ得サルコト自ラ明ナリ

佛國及ヒ白國法律ニ於テハ負債者ヲ宥免スヘキヤ否ヤヲ調査スルノ  
コトヲ掲ク此規則ハ負債者ヲ拘留スルノ可否ニ關スルモノニシテ近  
來負債拘留(コントレント、パル、コール)チ一般ニ廢シタルカ故ニ無用ト  
ナレリ

第九卷 有罪倒産

第一千百四條

倒産申渡ヲ受ケタル負債者ニシテ債主ニ損害ヲ被ラシ  
ムルノ意ヲ以テ左ノ行爲アル者ハ詐偽倒産ヲ以テ論シ  
禁獄ニ處ス

- 一 貸方財産ノ全部或ハ一部ヲ藏匿或ハ轉匿シ又ハ  
借方ノ額ヲ其實ニ超ヘテ掲ケタルトキ
- 二 履行ノ意ナク又ハ履行スル能ハサルヲ知リテ商  
品、金錢其他ノ有價物ヲ受取り義務ヲ引受ケタル

トキ

三 商業帳簿又ハ取引帳簿ヲ破毀藏匿或ハ偽描シタルトキ

債主財産上ノ損害些細ナルトキハ三月以上ノ禁錮ニ處スルヲ得

倒産ニ係ル罰則ハ素ト刑法ニ屬ス然レモ或ハ刑法ヲ改メ或ハ之ヲ補ハシ爲メニ商法或ハ倒産法ニ之ヲ掲クルハ各國皆ナ然リ即チ佛國ニ於テハ刑法第四百二條第四百三條ニ尋常倒産詐僞倒産ニ關スル一般ノ罰則アリト雖モ此兩義ノ一ニ屬スル特別ノ罰狀ヲ商法ニ載ス(第五百八十四條乃至第六百條)千八百七十年ノ獨逸刑法第二百八十一條乃至第二百八十三條ニハ有罪倒産ノ諸場合ヲ枚擧ス然レモ後日之ヲ不充分ナリト認メ更ニ倒産法第二百九條乃至第二百十四條ノ罰則ヲ以

テ之ニ代ヘタリ日本刑法ニ於テモ第三百八十八條及ヒ第三百八十九條ニ倒産ニ關スル罰則ヲ載セタリト雖モ深ク之ヲ考察スレハ缺漏アルヲ免レス殊ニ或ハ寛ニ失スル所アリ故ニ諸國ノ例ニ倣ヒ倒産法中ニ包括精密ノ規則ヲ掲クルハ其當ヲ得タルニ似タリ是レ本卷ニ有罪倒産ノ特別規則ヲ立ル所以ナリ  
其他又倒産法中ニ罰則ヲ設クルノ理由アリ即チ倒産上ノ罰則ハ倒産法ノ如何ニ依ルヘク殊ニ倒産上有罪ノ事由ハ之ヲ倒産法中ニ索メサルヲ得ス

倒産ノ罪ヲ至當ニ判セン爲メニハ倒産ナルモノ抑モ債主ニ財産ノ損失ヲ蒙ラシムルヲ常トシ概シテ竊盜其他總テ財産ニ對スル罪ト同一視スヘキコトヲ考察セサルヘカラス昔日ニ在テハ倒産ヲ論スル頗ル嚴ニシテ之ヲ罰スル極メテ酷ナリ例ヘハ佛國ニ於テハ千六百七十三

年ノ布告ニ於テモ詐僞ノ倒産ヲ罰スルニ死刑ヲ以テセリ近時ニ於テハ此點ニ就テ稍々寬恕ノ主義ヲ執リ自己ノ過失ナクシテ倒産ニ陥ヒル者アルコトアリ以テ實際刑法ニ觸ル、ノ罪ヲ犯シタルニ非レハ刑法上普通ノ原則ニ從ヒ之ヲ論スヘカラスアルコトヲ發見シタリ是ヲ以テ倒産者意アリテ行ナフタルヤ將タ輕卒ヲ以テ爲シタルヤヲ區別シ之ニ依リテ其罪ノ輕重ヲ論ス本案亦其實此區別ヲ爲シタリト雖モ先例ノ如ク之ヲ詐僞ト尋常トニ別タンヨリ寧ロ詐僞倒産ト過怠倒産トニ別ツヲ以テ至當且明瞭ト視タリ

詐僞倒産ハ多クハ之ヲ重罪ト看做シ重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ論ス佛國刑法第四百二條ニ於テハ五年以上二十年以下ノ懲役ヲ以テ論シ獨逸倒産法第二百九條ニ於テハ一年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス本案ニ於テモ前例ニ倣ヒ詐僞倒産ヲ論スルニ重罪ノ刑ヲ以テシ重罪ノ刑ノ最

モ輕キ禁獄第二十三條六年乃至十一年ヲ用ユ蓋シ右刑法第三百八十八條ニ二月以上四年以下ノ禁錮トシタルハ各國ノ法律ニ照ラシ又倒産者ノ詐僞ヲ以テ數千百ノ債主ヲ欺クニ對シテハ其當ヲ得タルモノト爲スヘカラス

倒産ノ刑ハ裁判所ヨリ倒産申渡ヲ受タル者ニ對シ刑事裁判所之ヲ加フ故ニ支拂停止ノ事實アルモ未タ足レリトセス又倒産申渡ハ刑事裁判所之ヲ下スコトヲ得ス是レ最モ事理ノ當ヲ得タルモノ、如シ何トナレハ倒産ノ状態ハ獨リ事實上ヨリ生スルヲ得ス必スヤ裁判官ノ宣告ニ出テサルヘカラス又倒産申渡ハ民事上ノ効驗ヲ有スルモノナレハ民事裁判所ニ屬スヘキコト當然ナレハナリ然レモ民事上ト刑事上トノ二重ノ倒産申渡アルヲ得ス倒産ノ状態ハ民事上ノ状態ニシテ夫婦間或ハ丁年等ニ係ルモノ、如ク刑事處分ノ爲メニモ民事裁判官ヨ

リ申渡スヘキモノナリ其支拂停止ノ一事ヲ以テ充分トセサルハ倒産申渡ヲ受クルニ非レハ法律上ニ支拂停止存スルコトナケレハナリ〔ブラワール〕第六冊第二十五葉獨逸倒産法ニ依レハ支拂停止ノ一事アレハ刑事裁判所ノ判決ヲ下スニ充分トス然レモ未タ倒産ノ申渡ヲ受ケサルニ先クテ倒産ノ罪ヲ以テ人ヲ罰スルノ理由ハ見ル能ハサルナリ〕罰則ハ獨リ常職ノ商人ニ適用スルニ止マラス總テ第一千三十四條ニ從ヒ倒産申渡ヲ受クル者即チ商業取引ニ於テ支拂停止ヲナシタル者ニ適用ス

詐偽倒産ノ罪ト稱スルニハ法式上ノ倒産申渡ノ外負債者ノ其債主ヲ欺クノ意即チ債主ニ財産上ノ損失ヲ加ヘントスルノ意(債主ノ倒産品ニ就テ得ヘキモノヲ奪フ)アルヲ要ス此點ヨリ論スレハ詐偽倒産ハ竊盜或ハ詐欺取財ト同一タリ是レ獨逸倒産法ニ於テ明言スル所ニシテ

佛國法律ニ於テモ詐偽倒産ノ語ハ同シク此意ヲ表スルモノナリ何レノ時ニ該所爲ノアリタルヤハ問フ所ニ非ス支拂停止或ハ倒産申渡ノ前ニアルモ其後ニアルモ皆同シ〔ザルウエイ〕第七百三十八葉〕各國ノ法律ニ於テモ詐偽倒産ノ犯罪トナル所ノ行爲ヲ大要掲出シタリ(佛國商法第五百九十一條獨逸倒産法第二百九條白國商法第五百七十七條佛國商法ニ於テハ商業帳簿ニ就テ唯タ其藏匿(スーストレール)ノコトヲ掲ク然レモ其破棄或ハ偽描亦タ貸方及ヒ借方ノ額ヲ隱蔽シ齊シク債主ヲシテ其要求權ノ實行ヲ困難ナラシムルニ足ル獨逸倒産法ニ於テハ右ノ外商業帳簿ノ登記ヲ全ク爲サ、リシコトヲ此ニ算入ス然レモ是レ倒産ト關係ヲ隔ルコト甚タシク詐偽倒産ノ場合ト同一ニスルハ其當ヲ得サルカ如シ

本條第二項ニ於テハ近來ノ實驗ニ徴シ古來ノ法律ニ掲ケサル一二ノ

場合ヲ加ヘタリ今ヤ投機的ノ預リ金ヲ爲シ非常ノ高利ヲ約束シテ公衆ヲ誘ヒ其金錢ヲ奪フコトヲ目的トシテ銀行ヲ立テ或ハ高價ニテ商品ヲ掛買シ之ヲ現金ニテ賤價ニ賣却スル等ノ事アルハ稀ナリトセス此ノ如キ取引ハ永續シ得ヘキコアラズ霎時ニシテ倒産ニ陥ラサルヲ得ス苟クモ此ノ如キ取引ヲ爲ス者ハ故ラニ倒産ヲ招クモノニシテ其個々ノ取引ニ於テ或ハ右ノ故意ナキコトアルモ爲メニ宥恕スヘキニアラス殊ニ個々ノ債主ニハ姑ク辨償ヲ怠ルコトナキニ非ス然レモ皆他ノ債主ノ物ヲ以テス故ニ此等ノ取引ハ箇々ニ就テ有罪ナルニ非ス倒産ヲナシタルトキ全体ニ就テ有罪タリ以テ其關スル所ハ個々債主ノ損害ニアラス債主全体ノ損害ニアリ何トナレハ其取引タル全体ニ於テ債主ノ辨償ニ供スヘキ倒産品ヲ減スレハナリ

損害ノ少ナキカ爲メニ例外ニ刑ヲ輕減スルコトハ各國ニ於テモ然リ然

レモ唯ク宥恕スヘキ事情アルトキハ云々ト記スルハ漠然ニ過キ裁判官ニ威權ヲ與フルコト大ニシテ本案ハ之ヲ採ラス(獨逸倒産法第二百九條「アラワール」第六冊第七十九葉)

### 第一千百五條

倒産申渡ヲ受ケタル負債者ニシテ左ノ行爲アル者ハ過怠倒産ヲ以テ論シ二年以下ノ禁錮ニ處ス

- 一 過分ナル身需或ハ經費、賭博、空相場或ハ不相應ノ投機ヲ以テ貸方ノ財産ヲ大ニ減少シ又ハ之ニ重債ヲ負ハシメタルトキ
- 二 支拂停止ヲ遷延セン爲メ損害ヲ生スル取引ヲ以テ辨償ノ料ヲ調ヘタルトキ

三 支拂停止ノ後支拂或ハ保證ヲ以テ債主ノ一人ヲ利シ倒産品ニ損害ヲ加ヘタルトキ

四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ或ハ藏匿シ或ハ破棄シ或ハ全ク記載セサルトキ

五 第三十三條第三十四條第千三十五條及ヒ第千五十八條ニ掲ケタル義務ヲ履行セザリシトキ

過怠倒産ノ詐偽倒産ト異ナルハ負債者故ラニ倒産ヲ起シタルニ非ス又其倒産ノトキ或ハ倒産ノトキノ爲メニ故ラニ債主ニ損害ヲ加ヘタルニ非ルニ在リ故ニ過怠倒産ハ疎慮、經忽奢侈、怠惰等ニ因テ生ス是レ亦タ有罪ニシテ他人ニ損失ヲ加ヘタルノ責ニ當タラサルヲ得ス然レモ敢テ惡意ナキカ故ニ過怠ノ種類ニ屬スルノミ是ヲ以テ過怠倒産

ハ輕罪ノ刑ヲ以テ論スルニ止マリ其刑ハ各國ノ法律ト同シク二年以下ト爲ス(佛國刑法第四百二條獨逸倒産法第二百十條第二百十一條)各國法律ニ掲クル所ノ過怠倒産ノ項目ハ殆ント同一ニ出ツ(佛國商法第五百八十五條第五百八十六條白國商法第五百七十三條第五百七十四條獨逸倒産法第二百十條第二百十一條)

本案ハ佛國法律ノ細密ナル列記ニ倣フタリト雖モ其罰セサルヘカラサル場合ト罰スルヲ得ル場合トヲ區別シタルハ刑事ニ適當セス故ニ之ヲ採ラス以テ後者ノ種類ニ屬スル項目ハ之レヲ載セス(佛國商法第五百八十六條第一、二、三項)何トナレハ是レ抑モ疑義ヲ免ルヘカラサル性質アレハナリ若夫レ細目ニ至テハ下ニ説明ス

第一項 不相應ノ投機トハ負債者ノ財産ト權衡ヲ失ヒ其生スル損失ヲ負債者償フ能ハサルヘキモノヲ云フ

第二項 損失ヲ生スル取引トハ一時收入アルモ他日財産ヲ滅殺スルモノヲ云フ例ヘハ相場外ノ賤價ニテ商品ヲ賣却シ高利ノ負債ヲ起シ多額ノ爲替備金ヲ以テ爲替取引ヲ爲ス等是レナリ此場合ノ前條第二項ト異ナル所ハ債主ニ不利ヲ蒙ラシムルノ惡意アルニアラス唯タ支拂停止ヲ遷延シ他日ノ幸運ヲ待テ之ヲ免レントノ期望ニ出ルニ在リ

第四項 此場合亦タ負債者ノ怠惰輕卒等ニ出ルモノニ限り不正ノ意アルモノハ此ニ算セス

### 第一千百六條

前二條ノ罰則ハ商社ノ頭取、支配人及ヒ決算人ニ又第一千百四條ノ罰則ハ倒産管理人及ヒ有罪ノ行爲ヲ爲スコトニ就テ犯者ヲ助ケ或ハ犯者ノ爲メニ自カラ其行爲ヲ爲

### シタル者ニモ適用ス

商社ノ頭取及ヒ事務者即チ支配人ハ商業主人ノ地位ニ代ルカ故ニ若シ其經理スル會社ノ倒産ヲ誘起シタルトキハ主人ニ等シク法律ヲ以テ罰スヘキ行爲ノ責ニ任セサルヲ得ス(獨逸倒産法第二百十四條白國商法第五百七十六條)

他人ニシテ負債者ヲ助ケ或ハ之カ爲メニ自カラ有罪ノ所業ヲ爲シタル者ハ殊ニ負債者ノ家族家人商業使用人及ヒ商業總理代人其他虛構ノ要求ヲ届出テ或ハ届出テシメ負債者ノ偽描借方ヲ是認シタル債主タルヘシ(佛國商法第五百九十三條第五百九十四條獨逸倒産法第二百十二條倒産者ノ犯罪ニ與ミシタル者ハ獨逸及佛國ニ於テ普通ノ原則ヲ以テ罰ス(ブラッール第六冊第七十七葉及ヒ第九十五葉「ザルウエイ」第七百四十三葉第二註)然レモ過怠ノ幫助ハ不可成的ノモノニシテ幫



助ノ罪ハ獨リ第千百四條ノ罰アルノミ倒産者ヲ正犯トシ單ニ幫助シタルト倒産者或ハ其情ヲ知ラス或ハ其有罪ノ行爲アルニ非サルニ之レカ爲メニ該條ノ罪ヲ犯シタルトハ混同スヘカラス(ブラワール)第六册第九十五葉第九十八葉「ザルウエイ」第七百四十三葉

若夫物品ヲ倒産品ヨリ奪去スル者倒産者ノ爲メニスルニ非サレハ是レ純然タル竊盜タルヘシ佛國法律第五百九十四條ニ於テハ倒産者ノ婦或ハ近親ノ犯シタル此ノ如キ罪モ竊盜ヲ以テ論ス然レ爲ニ充分ノ理由アルニ非サルナリ

佛國ニ於テハ倒産管理人ヲ論スルニ不正實(マルウヘルサシヨン)ノ行爲(商法第五百九十六條)ヲ以テスルコトアリ(白國商法第五百七十五條第四項)然リト雖モ其管理人ハ過怠倒産ノ罪ヲ犯スノ理ナク其罪ヤ大抵倒産品ヲ滅殺シ或ハ偽債主ヲ是認スル等ノコトニ係ル故ニ漠然ク

十

ル不正實ノ語ヲ用ヒンヨリ特別ニ第千百四條ヲ彼レニ適用シ倒産者ト等シク罰スヘキモノトスルハ其當ヲ得タリ此外管理人ハ破信義ノ罪ヲ以テ論セラル、コトアルヘシ(獨逸刑法第二百六十六條佛國刑法第四百八條千八百六十三年五月十三日ノ同國法律)

### 第千百七條

債主集會ノ可否決ニ係リ債主ニ賄賂スルトキハ雙方共ニ一二年以下ノ禁錮或ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

各國法律多クハ前諸條ノ外三種ノ行爲ヲ有罪ト爲ス是レ其行爲ノ法律ニ戻リ債主ニ不利ヲ蒙ムラシムルヲ目的トシ不正當ニ倒産品ヲ滅殺スル普通ノ所業ニ屬スルト云フニ出ツ即チ其一ハ債主集會ニ於テ可否ヲ左右セン爲メ債主ニ賄賂スルコト其二ハ倒産品ノ損失トナル約束即チ共同ノ原則ニ從ヒ正當ニ得ヘキモノニ超ユルノ利益ヲ債主

ニ得セシムルヲ目的トスル約束其三ハ倒産品ニ對スル要求ノ届書ヲ  
 僞ルコト是レナリ而シテ其買得シタル可否決テ實ニ爲シタルヤ或ハ  
 其約束實施セラレタルヤ又タ虛構ノ要求實ニ辨償ヲ受ケタルヤハ一  
 モ論スルヲ須ヒス然レモ是レ支拂停止ノ後ニ在ルニ非サレハ罪トス  
 ヘカラサルコト自然ノ勢ニシテ〔ブラワール〕第六冊第二百二十二葉且此  
 罪ヲ犯シ得ヘキモノハ倒産者或ハ管理人ト債主トノ間或ハ債主數名  
 ノ間ニ於テス今ヤ右ニ掲クル罰則ハ殊ニ佛國商法第五百九十三條第  
 二項第五百九十七條白國商法第五百七十五條第二項第三項ニ記スル  
 所ニシテ獨逸倒産法第二百十三條ニ於テハ唯タ可否ノ賣買ヲ罰ス本  
 案ハ則チ此例ニ倣フ何トナレハ他ノ罰則ハ嚴ニ失シ刑法普通ノ原則  
 ト隔絶スルコト甚ダシケレハナリ且佛國商法第五百九十八條ニ於テ  
 ハ右ノ約束ヲ以テ無効ト爲ス然レモ是レ道德ニ戻ル契約ヲ無効トス

ル普通ノ原則ニ依リ自カラ明ニシテ特ニ明言スルヲ要セス  
 佛國商法第八十九條及ヒ同國刑法第四百四條ニ依レハ仲買人ニシテ  
 倒産シタルトキハ必ス有罪倒産ヲ以テ論ス此嚴法ハ仲買人元來法律  
 ニ依リ自己ノ爲メニ取引ヲ爲ス能ハス若シ此法律ヲ犯スニ非サレハ  
 倒産ニ至ルコト難シト云フニ出ツ此理ヤ假令ヒ其當チ得タルモ(疑義  
 ナ免レス)其法律ヲ犯スノ一事ヲ以テ必ラスシモ詐僞ノ意アリトスル  
 ナ得ス加之該規則ハ佛國ニ於テモ實施セス〔ブラワール〕第六冊第八十  
 二葉故ニ本案ニ於テハ之ヲ採用セス

第十卷 一身上ニ係ル倒産ノ結果

第千八百八條

倒産申渡ヲ受ケタル負債者或ハ倒産シタル商社ノ頭取  
若クハ連帶義務アル社員ハ復權ニ至ルマテハ相場會所  
ニ臨ミ或ハ商業仲立人トナリ合名會社若クハ差金會社  
ノ社員トナリ及ヒ差金會社若クハ株式會社ノ頭取若ク  
ハ支配人トナリテ商業ヲ爲シ或ハ決算人倒産管理人若  
クハ商業上ノ代人タルノ職ヲ執リ或ハ商法會議所ノ人  
員トナリ其他商業上ノ榮譽職ニ就クヲ許サス

諸國ノ法律ニ徴スルニ倒産申渡ヲ受ケタル負債者ハ其財産ニ關スル  
効驗ノ外其一身上ニ係ル損害ヲ蒙ムリ其權利上ノ能力ニ就テ制限ヲ

受クル甚ク大ナリ其理由ハ倒産者ヲ以テ德義及ヒ法律上取理アルモノト爲シ公衆ノ信用ト清白ノ聲聞トヲ有スルコト非ラサレハ施用スヘカラサル權利ヲ奪フニ在リ凡ソ倒産者ノ失ナフ權利ハ半ハ政治上半ハ私法上殊ニ商事上ニ係ルモノニシテ此ニ論スル所ハ唯ク商事上ニ係ル何ントナレハ他ハ皆ナ該當ノ法律ニ任放スヘケレハナリ(佛國商法第六百四條乃至第六百十四條白國商法第五百八十六條乃至第五百九十二條和蘭商法第八百九十二條乃至第八百九十九條西國商法第一千六百八條乃至第一千七百七十五條墺國千八百六十八年十二月二十五日ノ倒産法第二百四十六條乃至第二百五十三條)千八百七十七年ノ獨逸倒産法ニ於テハ此事ニ就テ一モ定ムル所ナシ何ントナレハ之レヲ以テ倒産法及ヒ倒産處分ノ範圍外ニ屬スルモノトシ且ツ各聯邦ノ公法各々異ナルニ因リ統一ノ法律ヲ用ユル能ハスト視タレハナリ蓋シ此

理由ヤ商事上ニ於ケル倒産ノ結果ニ就ヒテ論スレハ其當ヲ得タリト爲スヲ得ス然レモ當時立法上ノ情態ニ照セハ是レ各聯邦ノ法律ヲ以テ論スヘキモノタリシコト明カナリ即チ字國ニ在テハ千八百五十五年五月八日ノ倒産法第三百十條乃至第三百十八條アリ巴波里國ニ在テハ千八百六十九年四月二十九日ノ訴訟法第五篇(倒産)アリ(ザルウエ)イ(緒言第五十四葉以下)

佛國商法第六百十三條ニ於テハ商事上ノ權利ニ關スル結果ニ付テハ獨リ相場會所ニ臨ムコトヲ禁シ第八十三條ニ於テハ商業仲立人トナル資格ヲ奪ヘリ蓋シ此外尙ホ佛國ニ於テ禁スル所アルヤハ疑義ヲ免レス(アラワール)第六冊第二百六葉以下)獨逸各邦ノ倒産法ニ於テハ此結果ヲ論スル稍ヤ細密ニ涉リ本案亦之ニ倣フ何トナレハ可及的商業上ニ於ケル公然ノ德義ヲ保護スルハ甚ク緊要ナレハナリ蓋シ今日